

能登ヶ峰・鹿の楽園 (鈴鹿)

金谷 昭

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーが応えいたします。

初夏のアルプス・フラワー・ハイキング
8日間 <関空発着>

出発日 ●5/24 ●5/31 ●6/14
¥298,000~¥310,000

2度目のスイス・アルプス・ハイキング
9日間 <関空発着>

出発日 ●6/20 ●6/27 ●7/4 ●7/25 ●8/5
¥348,000~¥465,000

**チロル3,500m峰頂とドロミテ、
オーストリア最高峰展望12日間** <関空発着>

出発日 ●7/16 ●7/28 ●8/6 ●8/24
¥498,000~¥576,000

マッキリー展望ハイキングとデナリ 7日間
出発日 ●6/19 ●7/3 ¥398,000~¥412,000

アゲス・ブランチ山群トレッキング 11日間
出発日 ●5/23 ●6/6 ●6/20 ¥390,000

ミヤコカキ水河大展望と湯けむり紀行 6日間
出発日 ●5/10 ●5/17 ●5/24 ¥274,000

南海の4,000m峰とピーナ・リゾート

**マレーシア最高峰
Mt.キナバル登頂 6日間**

旅行代金 ¥160,000~¥248,000

出発日 4/27,5/1, 5/15, 6/12, 7/24
(1日空→ウツル→4→3911m→2)→(市
内観光)→6→クハットクハット登山口3→
山小屋(約3,300m)4→11m→山
(4,095m)登頂→6→クハットクハット登山口
→3911m→5)→(自由行動)→6)→関空

初夏のロッキー・フラワー・ハイキング
8日間 <関空発着>

出発日 ●6/13 ●6/16 ●6/23
¥366,000~¥376,000

ロッキー嶺断・ベスト・ハイキング
9日間 <関空発着>

出発日 ●7/3 ●7/24 ●8/21 ●9/4
¥433,000~¥492,000

アシニボイン・ロッジとレイクルイズ
8・9日間 <関空発着>

出発日 ●6/13 ●6/20 ¥420,000

海外トレッキング<特設説明会>

- ◆ヨーロッパ・アグス・ハイキング 説明会<4/17・5/23>
- ◆アゲス・ブランチ・ハイキング 説明会<4/18・5/30>

会場：大阪科学技術センター4階 入場無料
時間：18:30~20:30 <35分上映>
(地下鉄 四つ橋線 本町駅下車・北へ徒歩5分)

新ハイ N Z「ルートバーン・トラックとテカポ8日間」11/11発 ¥298,000 定員20名

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業499号/(社)日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区朝本町1-10-22 (8'00) 4階

TEL: 06-6444-3033/FAX: 06-6444-3032

広島サービスステーション(大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアー、総合
ツアーカタログ。
「世界の山旅・辺境の旅」
春~秋号。海外・国内の
ハイキング・トレッキ
登山コース満載!



藤（万葉植物園）

紫陽花には雨が良く似合う
 語源は藍が集まるといふ集真藍
 紫陽花は唐の白楽天の詩から引用
 日本原産 中国では繡球花と呼ぶ
 学名 Hydrangea macrophylla otaksa
 シーボルトがお滝さんから命名
 紫陽花の原種は額紫陽花
 4枚の花びらに見えるのは萼
 花は無数の萼花の中に紛れている
 住宅街の周辺で咲く西洋アジサイ
 華やかな姿に変え逆輸入された
 土用丑の日に逆さまに吊して置く
 商売繁盛・無病息災 あつい信仰
 鬱陶しい気持ちを慰めてくれるため
 自然がプレゼントして下さった



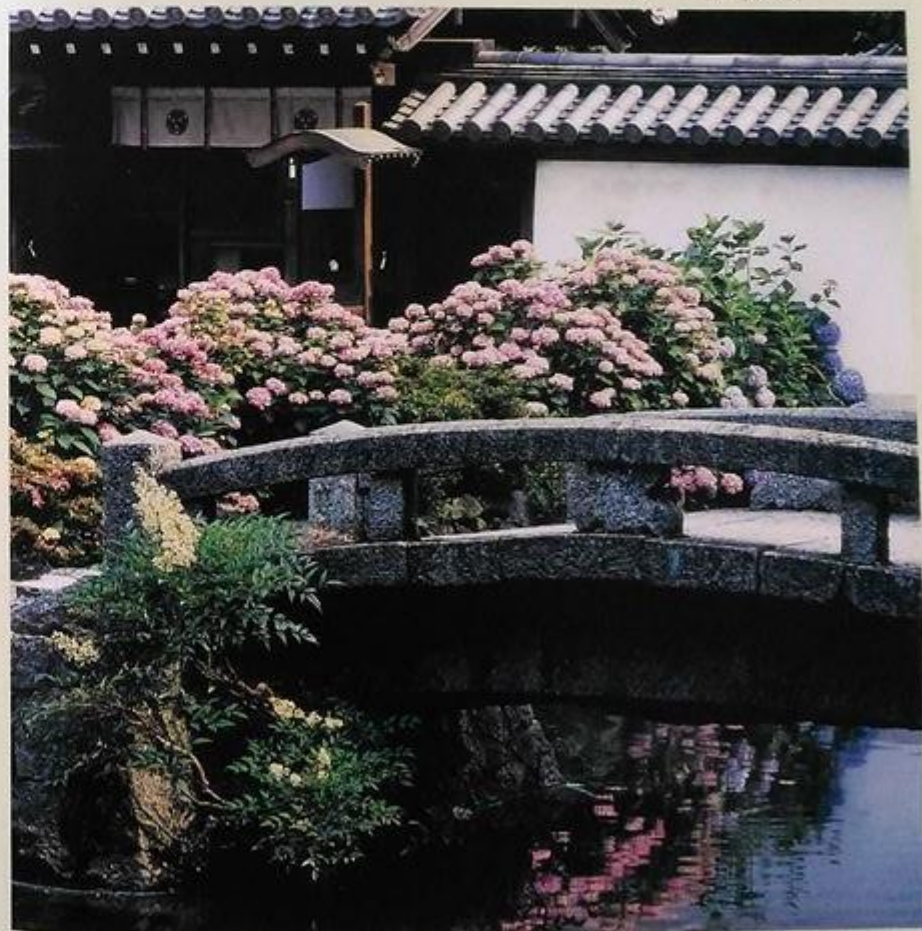
杜若（磐之媛命陵）

Photo essay

紫陽花



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収一
 文 松 永 恵



紫陽花（矢田寺）

季節の



ギンリョウソウ



ツツジ (葛城山)



ツツジ (高の尾)

実景

初夏

撮影 武市通治



山吹



ツツジ (葛城山)



ニリンソウの群生 (上高地)

中川 光郎



白樺林 (ハケ岳)

吉沢 栄一



クリンソウの群生 (京都北山・愛宕山)

中川 光郎



波川の流れ (ハケ岳)

吉沢 栄一



シカ (元木谷ヌタ場)



アマガ (東ノ川)



ミヤマカラスアゲハ (元木谷ヌタ場)

●目次

表紙: 松田敏男「残雪の乗鞍岳」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都府生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳雑誌の編集者兼編集長。(京都府立芸術大学、南アルプス山小屋、東京トランシーブ号、他) 乗鞍岳と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

新小伴 西の山
202年5・6月 初夏 第64号

●旗振り通信の研究	神戸ルート	●1等三角点峰(500m以上)548座完全の記録(第31回)	●三草山から屏風岩(奥能登)	●文学歴史探訪ハイク	●京阪五条から清水寺へ	●(山のレポート)山の地名を歩く③山と岳(七)	●(山のレポート)ポンポン山、私的案内	●11 蝶帽子嶽(道法師懸(東美濃))	●2 大明谷の頭(湖西)	●3 鳥屋ノ森山と釜山(南紀)	●4 丸屋形岳と袴腰岳(津軽)	●5 あけん原から高取山・比婆之山を越えイブキ(鈴鹿)	沿線ハイキングガイド	サービステーション	せせらぎ																
●紀行	常光寺山・黒法師山(静岡)	知床岳(北海道)	大峰南部縦走(大峰)	硫黄岳と横岳(八ヶ岳)	標高による山の紹介シリーズ4 △△64mの山	峠峠山・西方ヶ岳・三ヶ辻山・イハイガ岳	山上ヶ岳登山(大峰)	鞍馬山と貴船山(京都北山)	運転 三ヶ辻山(北)	湖北の霊峰・天吉寺山(湖北)	紫陽花	季節の実景(初夏)	「山吹」他	中川光郎 奥田英一郎	撮影 由井 収	文 松永 恵一	武市 通治														
●グラビア	常光寺山・黒法師山(静岡)	知床岳(北海道)	大峰南部縦走(大峰)	硫黄岳と横岳(八ヶ岳)	標高による山の紹介シリーズ4 △△64mの山	峠峠山・西方ヶ岳・三ヶ辻山・イハイガ岳	山上ヶ岳登山(大峰)	鞍馬山と貴船山(京都北山)	運転 三ヶ辻山(北)	湖北の霊峰・天吉寺山(湖北)	紫陽花	季節の実景(初夏)	「山吹」他	中川光郎 奥田英一郎	撮影 由井 収	文 松永 恵一	武市 通治														
●編集後記	湖北の霊峰・天吉寺山(湖北)	紫陽花	季節の実景(初夏)	「山吹」他	中川光郎 奥田英一郎	撮影 由井 収	文 松永 恵一	武市 通治	4	2	46	34	30	28	24	20	16	13	11	10	74	72	70	68	65	63	60	56	53	50	38

巻頭言

新緑の季節です。山野に出かけて「森林浴」を楽しみましょう。森を歩くことで日常のストレスを解消し、気持ちをしなやかに保つてくれるのです。ヨーロッパ、特にドイツでは「クナイプ療法」と呼ばれる森の恵みを活かしたすばらしい制度があります。国民は必ず年に一度、約2週間位の休暇をとって、完備された森の療養地に出かけ、自らの健康増進をはかっています。

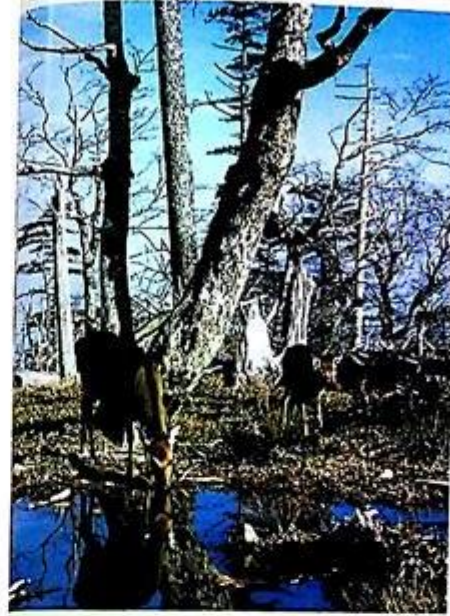
日本では、まだこのような休暇や完備された森の療養地といわれるような所はありません。単に、遊歩道を整備して森に親しんでもらおうという程度です。高齢化社会を迎え、そして、森の自然をどう活かすかが問われるいまこそ、「森林浴」の効果が期待できる森の療養地を各地につくって、国民の心と身体の健康増進につなげていってほしいものです。都会にいづくも病院をつくるより、病気になる前からのための森の療養地(温泉もセットで)を一つ一つつくるほうが得策だと考えますが、いかがでしょうか。

このことを考えると、私たちの山を歩く行為はすばらしいことだと思えてきます。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊

山の友 (Mon Ami) 北山川支流にて

奥田 英一郎



シカ (元木谷ヌタ場)



アマゴ (東ノ川)



ミヤマカラスアゲハ (元木谷ヌタ場)

●目次

表紙: 松田敏男「残雪の乗鞍岳」(北アルプス)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版、山岳版の編集多岐にわたる。京都平安西園、南アルプス山岳小隊、東京ギャラリー(号、他) 京熱山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

8冊 関西の山
新伴ゾウ 初夏 第64号
02年5・6月

記事名	著者	頁数
●旗振り通信の研究⑧ 神戸ルート	柴田 昭彦	38
●1等三角点峰(5000以上) 548座完全登の記録(第31回) 平成7年北海道への夏の山旅	坂井 久光	53
●三草山から屏風岩へ(奥能登)	中村 敏文	50
●文学歴史探訪ハイク④ 京阪五条から清水寺へ	松永 恵一	56
●(山のレポート)山の地名を歩く③山と岳(上)	西尾 寿一	60
●(山のレポート)ポンポン山、私的案内	妻鹿ひろ子	63
●(山のレポート)山岳探訪(奥能登)	金谷 昭	65
●(山のレポート)大明谷の頭(奥能登)	長形 清司	70
●(山のレポート)鳥屋ノ森山と峯山(南紀)	山形 誠之	68
●(山のレポート)丸屋形岳と袴腰岳(津軽)	高柳 生雄	72
●(山のレポート)あけん原から高取山比婆之山を越えイブキへ(前巻)	高柳 純	74
沿線ハイキングガイド		77
サービスチェイン		81
せせらぎ		87
新ハイ関西山行計画と報告		112
バス時刻表(大峰山系)		110
編集後記・広告案内		87

巻頭言

新緑の季節です。山野に出かけて「森林浴」を楽しみましょう。森を歩くことで日常のストレスを解消し、気持ちをリフレッシュしたいものです。ヨーロッパ、特にドイツでは「クナイプ療法」と呼ばれる森の恵みを活かしたすばらしい制度があります。国民は必ず年に一度、約一週間の休暇をとって、完備された森の療養地に出かけ、自らの健康増進をはかっています。

日本では、まだこのような休暇や完備された森の療養地といわれるような所はありません。単に、遊歩道を整備して森に親しんでもらおうといった程度です。高齢化社会を迎え、そして、森の自然をどう活かすかが問われるいまこそ、「森林浴」の効果も期待できる森の療養地を各地につくって、国民の心と身体を健康増進につなげていってほしいものです。都会にいくつも病院をつくるより、病気にからないための森の療養地(温泉もセットで)を一つでもつくるほうが得策だと考えますが、いかがでしょうか。

このことを考えると、私たちの山を歩く行為はすばらしいことだと思えます。

新ハイ関西山(代表) 村田 哲哉



丸



丸

随想 (山のエッセイ)

低山散策の楽しみ

塚元 一彦

私たちのグループでは、毎年正月の初山行は「初詣で」を兼ねることにして、神社仏閣をコースにとり入れている。今年は1月6日に日頃はなかなか実現しない、低山を組み合わせる計画を立てた。

関西には「日本で最低」を称する山が二座ある。2万5千分の1の地形図に記載されている「山」で日本最低の天保山と、同じく1等三角点の山として日本が一番低い蘇鉄山をまとめて訪ねようというわけだ。

まず初詣ということで堺の大鳥神社に参拝。JR阪和線堺駅から5分の場所に旧菅原大社・和泉一の宮の社格を持つ大鳥神社がある。広い境内には露店が軒を並べている。緑豊かな木立

はさすがに延喜式内社の森である。

今年の山行の安全を祈願した後、市街地を歩いて約1.5km離れた浜寺公園へ。白砂青松の美しい浜辺の公園だが、埋め立て地に巨大な製鉄コンビナートが出来て景観はそこなわれてしまった。周辺は大阪の日那衆の別荘・保養地だった歴史があり、今でも白壁づくりの豪大な大邸宅が多い。

南海電車の浜寺駅は大正ロマンの雰囲気を残しており、文化財に指定したようなレトロな建物である。

南海駅へ引き返し、西口から出て海岸の方へ歩いて行くと大浜公園へ入って行く。お目当ての蘇鉄山は公園の中央部にある。

1等三角点は全国に971点を数えるが、必ずしも山の頂上にあるわけではない。しかし見通しのよい場所を選ぶとどうし

ても高い所になる。標高5000m以上の山だけでも548座に置かれているという。日本で一番高い1等三角点は南アルプスの赤石岳で3120mだが、地形図に山と記されている最低地点がこの蘇鉄山で、標高はわずかに6、7mしかない。登り口がすでに海拔2mほどあるため、実質的な山の高さは5m弱。登山口の階段の横にある二本の蘇鉄の木のほうが山より高いというユーモラスな名山である。頂上には三角点と共に立派な説明板が設置されていた。

駅の方角に引き返すと南口の近くに神明神社があり、蘇鉄山山岳会事務局がおかれている。社務所に立ち寄り、登山証明書交付を受けたが、これが無料であることには感心させられた。

山の名前が変わる話

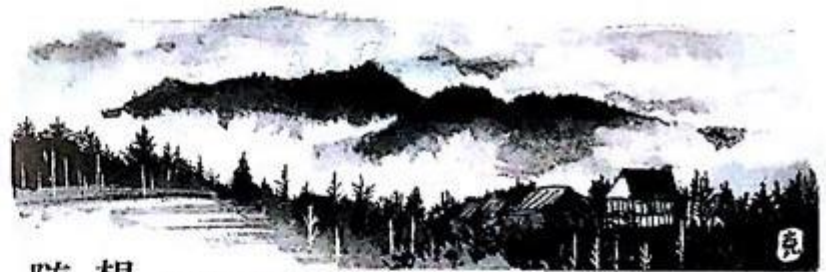
柴田 昭彦

皆子山は今西氏によって命名されたが、「もともとからある名前がわかればいつでも変えるとして」(山城三十山、「山岳歴史所感」とあり、地元の名前の発掘が期待されていた。明治15年編集の「近江国滋賀郡誌」の坂ノ下村誌によると、皆子山に相当する山は「霞ヶ岳」であることが導き出される。鈴木元・網本逸雄編『ベストハイク 京滋の山』(かもがわ出版、1990年)や沢深「京滋びわ湖山河物語」(文理閣、1999年)で指摘されている。しかしながら、地元で広く霞ヶ岳と呼ばれていたのなら、その山名はすぐ採集できたはずなので、疑問は残る。

実際、測量官は、皆子山の北にある伊賀谷山の三角点の点標

名を「霞ヶ岳」としているのである。実際の山頂とは一致せず、ごく近くの山に、おおまかに符牒をつけて呼ぶのは、三重県の「山上ヶ岳」の場合と全く同じ扱いである。

奥伊吹スキー場の南にある標高1260mの山はすっかり「フンゲン」という名前が定着してきたが、最近になって、山名があやしいことがわかってきた。大垣山岳協会編「美濃の山 第一巻」(ナカニシヤ出版、平成8年)で指摘されたことだが、この山名はその北東端に突き上げる「ブゲン谷」に由来しているらしいことがわかったのである。ブゲン(フンゲン)とはおそらく「分限」のことで、読み方も納得がゆく。したがって、ブゲン谷の源頭部に当たるピーク(三角点の北東1号)が本来のブンゲンであろう。だが、地図をよく見ると、三角点から北東へのびる山稜は谷の解析が



随想 (山のエッセイ)

克

進んで複雑な地形になってはいるが、大きな一つの山塊であって、三角点付近も広義ではブンゲンといえるかも知れない。ブンゲンは、後藤芳雄氏が炭焼きから聞き取った山名である(岐阜登高会の会報「かもしか」一〇二号、「美濃の山 第一巻」参照)。

射能山という別名は、放射能を有する鉱石の産出に由来している。大垣山岳協会のメンバー、藤井茂雄氏が1960年に尾西(春日村)の北伊吹鉱山事務所で見学した詳細な地図に記載されていた付近の谷の名称や射能山という山名を紹介したことで広まったという。歴史的に古い呼称ではなさそうだ。

『日本山名総覧』は膨大な山名を掲載しているが、若干の誤りが生じているので、ここでは二つを紹介しておく。国土地理院の、『数値地図250000(地名・公共施設)』(日本地図センター「発売」)(CD-ROM)にも全

く同じ誤りがあるのは興味深い。

一つは京都府夜久野町の「居母山」である。「いぼやま」というのは誤読で、「上夜久野村史」(昭和47年)に明記されている通り、「いもやま」が正しく、それ以外の読み方は存在していない。イモは鈔物に通じ、製鉄と関係があるようである。

もう一つ、奈良県榛原町の「鳥見山」の場合は事情が複雑である。総覧には「とりみやま」とあるが、日本書紀には「とみやま」とあり、歴史的には「とみやま」が正しい。実際、榛原町の地名調査には「とみやま」と明確に記載されている(近畿地方測量部による)。

ところが、最近の様子が変わってきているようだ。鳥見山公園の案内板には「とりみやま」というルビがあり、公園を管理する部署では漢字通りに呼称しているという。案内板にあると、

それに従って「とりみやま」と読む人が増えてくる。榛原町に新しくつくられた地区の「鳥見町」は歴史的な背景がなく、漢字通りに「とりみやま」と読むのが正式になっている。

「ふたつの呼称が混在して使われているのが現状ですが、歴史的な背景を考慮するならば、やはり「とみやま」とするのが本来と思われれます。」(町教委・文化財担当)とのことであった。

最後に、京都府美山町の「奥ヶ追山」の山名についてふれておこう。「日本分県地図地名総覧1963年版」(人文社)に「奥ヶ追山」とあり、疑問に思っていたが、内田嘉弘氏によると、「奥ヶ追山」が正しく、山麓の古老が「ケモノを追う」からだろうと話してくれたという。山名では通例、「追」を用いることが多く、文字も似ているので誤ったものだろう。

南アルプス南部の山

常光寺山・黒法師岳

南アルプス深南部、山犬段から北を見るときわ端正な山が目を引き。きりりとした円錐形だが槍ヶ岳ほどの鋭さはなく、やや丸みを帯びた山頂はぬっと立ちはだかった黒い人影のようである。それが黒法師岳であった。古文書では黒帽子嶽らしいが、ミステリアスな黒法師岳のほうがこの山にはよく似合う。

甲斐駒ヶ岳から始まった南アルプスが、光岳から天竜川に向かって20000程度に高度を落としたあたりの一座である。山犬段から眺めると、さて、どこから取りつこうかと考えてしまうほど奥深い所にある。

決めかねていたゴールデンウィークの

妻鹿ひろ子

静岡

山行が直前に黒法師岳と決まり、5月2日の午後、5人で出かけた。朝からの雨が上がり、テント泊の予定を変更して浜北市に一泊する。究極の晴れ女を自負していたのに、雨女に変更しようかしらと思うほど、この頃天気に恵まれない。翌朝になっても雨は上がり、グズグズと空模様を眺めていたが、いつまでも宿にいるわけにいかず、9時頃になって出発した。

秋葉街道から天竜スーパー林道に入る頃に雨は小やみになり、山住神社の畔では青空が覗いた。アカヤシオに彩られた常光寺山が、盛んに湧き上がる白雲を分け、ダイナミックな姿を現す。その稜線

を縦走して水窪にくだる予定だったが、時間が遅くなり、平家平からのピストンにした。落石の多い林道を登りつめた広々と

黒法師岳



した草原が平家平キャンプ場で、立派なピクニックセンター・トイレ・駐車場がある。悪路のためか、たった一組の親子連れがボール遊びしているだけで閑散としている。

ここから山頂までのコースはよく踏まれた歩きやすい道だが、大きくガレて道が捲いている所もある。崩れやすい山城のようだ。山頂のその先にあるアカヤシオ群生地には時間不足で足をのばせずに残りだったが、途中何本か見かけたアカヤシオはどれも咲き始めたばかりで、濃いピンクがあでやかに美しい。常光寺山からピストンで戻り、林道を水窪ダムに向かう。野鳥探索路入口にはヤマガラの門・ウグイスの門と名前が付いている。のんびりとネイチャーウォッチングをするのも楽しい場所である。

麻布山登山口を過ぎ、ロックフィールド式の水窪ダムにおりた。ダムサイトの無料休憩所には丸太を割ったベンチ・テーブルがあり、その隙間にテントを張る。夕食の準備をしているとまた雨が降り出す。木当に雨の多い山城だ。屋根のある場所にテントを張ろうと主張した三井さんが大正解だった。

夜半にも時折車が奥に入って行く。多分黒法師岳への登山者だろう。昼間、林道から見えた山腹は残雪で真っ白だったが、先行者がこれだけ入ってラッセルし



てくれれば大助かりだと、横着なことを考えながらウトウトと眠った。
翌朝はさわやかに晴れ、暑くなりそうだが、日焼け止めもタフプリ塗り、うきうきと準備を整えて6時10分に出発したが、戸中林道の分岐を間違え、1時間も山岳ドライブを楽しんでしまった。ようやく登山口の車止めにとどり着くと、すでに10数台の車が止まっている。きょうの登山者は30人くらいかな? と勝手に胸算用しながらゲートをくぐった。
ここから6時の林道歩きが始まる。戸中川の急流をはるか足下に望み、光眩しい新緑のなかを行く。道はうねうねと山肌を捲いて高度を上げていく。山側から落ちる沢で水を汲もうと、ザックを乾いた落ち葉の上に降ろすと、何もいらないように見えた落ち葉の下からヒルがうようよ這い出して、たちまち5、6匹ザックにくっついた。大騒ぎで払い落とし、落ち葉はこりこりと谷側を歩く。すると、突然こぶし大の石が目の前に落ちてくる。猿が崖上でいたすらでもしているのかと思ふような、気ままな落ち方である。ポンポンと放り出すように落ちるかと思えば、頭大の石がドスンと落ちる。大小の

石がぶつかり跳ね返り、道幅いっぱい広がって落ちる。落ち切った頃を見計り小走りで通り抜けた。それから10分も行かないうちに、数歩前を行く3人がまた落石に遭遇した。頭を抱え飛び跳ねるように逃げる。幸い当たらなかったが、こんなに落石の多い険しい道は初めてだ。
500m毎の標識がきっちり6時になった所で黒法師岳への林道に分け入るが、ここはさらに崩壊が進んで林道の残骸でしかない。コンクリートの断片が鉄筋の先でぶらりと宙にぶら下がっている。瓦礫の墓場のような崩壊地を15分歩いてやっと登山道に取りついた。
道は杉林のなかをジグザグに切った歩きやすい道である。傾斜もきつくない。ひと登りで等高尾根に着いた。これは案外楽な山かも知れないと甘く見たのも、こまでで、背丈を超すササ原を過ぎると、木の根・草の根にすがる急登が始まった。あたりはトウヒの黒い森である。どの木もひと抱え以上ある立派な大木で、南アルプス深南部の重厚な雰囲気の色濃く漂う。
花は少ない。季節に早かったのか、バイカオウレンのひとつかたまりと、芽吹い

たばかりのわずかなバイケイソウを見ただけだ。少し離れた常光寺山には花盛りを予感させる種々の芽吹きがあったが、落葉樹と針葉樹の森の違いだらうか、まさしく黒法師である。

急登が一段落し鞍部に出た。あんなに晴れていた空がいつの間にかすっかり曇り、視界はガスにおおわれている。通りかかった下山者が

「山頂はもっと靄いガスで何も見えなかったけれど、だんだん明るくなってきたので、これから登る人はよいですよ、午後から晴れますよ」

と嬉しいことを言ってくれまして。これから天気が回復するなら朝の1時間分のロスがラッキーだった。やっぱり私は



有名なX印の三角点
に喜び歩き出したが、坂はいよいよきつくなり、昔の捻挫した所まで痛み出す。昔にやや遅

れながら単独行のおじさんと抜きつ抜かれつ、励まし合って登って行く。降りて来た大学生風のグループが
「ここが一番きついですけど、もうすぐ丸盆山の分岐です。そこまで行けばあとはルンルンですよ」

とまた嬉しげな言葉を言ってくれる。胸突き八丁の正念場はそう簡単にははかどらず、頭上の尾根はなかなか近づかない。ようよう登りつめた頃、近江さんが空身で通過するのが見えた。分岐でお昼かな? と上がるとだれもいない。広いササ原の標識の下にザックがデポしてある。気持ちのよいササ原なので、ここに戻って昼食にするのだらうと、私もザックを置いた。

さあ、ここから楽しいルンルン尾根歩きだと歩き出すと、すぐに急登が変わる。どころルンルン尾根なのか! 甘い期待を抱かせてと、ばやきながら追いつくと大きなガレのふちに出た。顔を上げるとバスケットボール大の石が一つ音もなく目前を落ちていく。すーっと谷間に吸い込まれるような、スローモーションの画像を見ているような、不思議な落石だった。

このガレは黒法師岳随一的好観望地だが、ガスのため向かいの山並がぼんやり見えるだけだった。あの果てには去年登った山火段があるはずだと、美しかった山を懐かしんでしばらくたずむ。
刷れやすいガレの端を慎重に過ぎると草付きに残雪が現れる。きのう車中で見た真っ白な斜面はどここの山だらう。ここまではほとんど雪はなかった。山頂の雪田を行くと、近江さんがあたたいかコーヒを用意して待っていた。空腹に甘いコーヒーがおいしい。この山頂の三角点は石屋が彫り間違えたとも言われているが、十の角度が違ふ。数あるうちに、一つくらい変なのを混じるのは三角点も同じらしい。
丸盆山の分岐に戻り、遅い昼食をとる。もしかしたら丸盆山も行けるかなと思っただが、とてもそんな甘い山ではなかった。丸盆山はまだ出直そう、その先にさらに魅力的な鹿の平も待っている。
林道にくだると16時半になっていた。まだ6時の林道歩きがあるが、今夜もダムサイトに泊まればよいと、テント泊の気楽さで黄昏の道を元気に歩いた。
(平成13年5月2日〜5日歩く)

秘境の知床半島

知床岳

生駒聳峰

北海道

知床岳山頂を望む



オホーツク海に突き出す知床半島は地の涯で、ヒグマの棲む秘境である。

その細長い半島は北方四島の国後島と沿うようにして、オホーツク海と根室海峡を分ける。半島には海別岳・遠音別岳・羅臼岳・硫黄山・知床岳の五岳が連なり、ハッキリとした登山道があるのは羅臼岳と硫黄山の二山のみである。「日本百名山」の羅臼岳は登山者が多いが、硫黄山は少ない。

北海道には現在224ヶ所の1等三角点があるが、この知床半島にも硫黄山と知床岳の二山に設置されている。

1等三角点峰の登頂を続けている私は数年前、硫黄山からはるかに知床岳を望

み、次は知床岳にいろいろな調査してみたいが、ガイド付きの山行記録がわずかにあるのみ。登山口の相泊にも行ってみたが資料は得られなかった。テントを担いで、登山道も定かでないヒグマの生息地帯を登るのは単独では無理だと諦めていた。

しかし、日本中の1等三角点全部の登頂を目指すからには、登りたい欲望はどうしても抑えられない。数少ない登頂記録はプロのガイドに連れられたものが多く、今までプロの世話になったことのない身としては、どうしても個人的に登りたいと思っていた。

私と同じ思いの岳友で、今まで体力的

ゆっくり登山の日程を立てる。ゆっくりはよいのだが、そのかわり1泊分の食料は増えることになる。私も軽々しくと備品を絞ったが、ザックは13kgをオーバーした。

例年、夏は酷暑を避け、登山と観光で北海道に行く。今回も観光と登山を組み合わせ、現地でグループの人たちと集合することにした。

舞鶴からフェリーで小樽に上陸し、旭川へ北見へ網走と走り、宇登呂から知床峠を抜けて集合場所の羅臼キャンプ場に走る。知床峠からの羅臼岳はすばらしい景観なのだが、きょうの峠は濃い霧に包まれ、車の走行も難儀であった。

横浜・栃木・神戸からと、各地の岳友と久しぶりの再会である。だが、天候はあいにくと雨。ここ数日かんばしくなく、羅臼岳も全く顔を見せない。予報も2、3日は悪いと報じている。仕方がない、初日から停滞となる。

翌日も雨はやんだが、いつ降り出してもおかしくない空。しばらく出発を見合わせてはいたが、ともかく少しでも行くこうと、コンビニで食料を仕入れて登山口の相泊に走る。相泊は車道の終点で、民

宿「くまやど」手前の道端に車を置く。

登山届けの記載を見ると、いくつかの記載は途中の海岸の観音岩までとか、知床峠ばかりで、わずかに一組が知床岳と記していた。しかし、先行者があるようでもかかひと安心。

相泊からは海岸沿いに観音岩まで2時間余り。多くの番屋が立ち並び、昆布漁の真っ盛り。バイトらしい茶髪の若者も昆布を干すのに忙しそう。浜は一面玉石敷きの干し場で、その端を昆布を避けながら歩く。はるか先の岬に観音岩の岩峰が見える。番屋がなくなると道も消え、岩壁の迫った海岸は大きな玉石の積み重なりで歩みにくくなる。以前の記録には満潮時には歩けないとあったが、その心配はなさそう。沖には国後島が静かに横たわり、海猫が鳴きながら飛び交う。所どころに鹿の骨が散らばっている。波で打ち寄せられたのか海岸で死んだのか？ 秘境の感がしてきた。

観音岩に近づくと浜辺は岩峰で遮られ、20分ばかりのザイルが垂れ下がっている。ザイルにすがって鞍部を乗り越すと、10分四方位の空地が広がっていた。ここが観音岩のテント場である。そばの岩峰か

らたくさんの観音像がテント場を見下ろしている。曇り空の下、陰気でもとも泊まる気にはなれない。

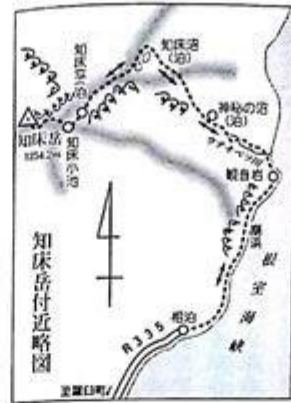
ウナキベツ川を二ヶ所の棧橋で渡り、林に入ると登山道が分岐する。折から激しく雨が降ってきた。その先の海岸には数軒の番屋が建ち、電灯の明かりと人影も見える。

ここから道は沢と山越えに分かれる。雨では沢に入りたくないの、番屋で山越えの道を訊ねる。少し先の水取り場で沢に降りずに右の尾根のロープを登ることであった。

林のなかで雨を避けながら昼食をとり、ロープをよじ登る。雨に濡れた地面は滑って足が止まらず、最初から大困難で先が思いやられる。急坂を尾根に登り着くと、後はゆるやかなダケカンバの林になった。小沼が点在し、まだ新しいピンクのテープがたくさん付けられていた。やがて苗木の植林地のような所に出た。テント場になりそうな所である。雨は降ったりやんだりだが、林のなかでそれほど苦にならない。やがて青緑の水を溜えた大きな沼のそばにおり立った。池畔は平らでテント場にちょうどよい。きょうはここで

泊まることにする。半日行程の所で、ここで泊まった記録は見ない。池にはオタマジャクシも見られたが、煮沸して使用するぶんには問題ない。青緑の水の色から「神秘の沼」と地形図に記されている。夜半猛烈な雨に見舞われたが、朝には何とか小やみになった。北海道の夏は早い。3時半頃から明るくなり、小鳥の囀りが激しい。

濡れたテントを撤収して出発する。登路は相変わらずダケカンバの林で、やがて二番目のロープ場になる。ここも地面が滑って大困難。知床沼までに三ヶ所のロープ場があるようだ。やがて林を抜けるとガレ場の線に登り着く。足場が狭いので注意して登る。



雨がやんで霧が晴れると、大きな馬蹄

が登る。オホーツク海は一面の雲海である。太陽が顔を出すと風が吹き出す。5時出発。知床小池の方に廻り込むと、この湿原も一面のお花畑。テープに導かれ稜線の一角に登り着く。稜線はオホーツク海側が大きく崩れ落ち、太平洋側はなだらかに小池の湿原に繋がっている。稜線を伝う道は狭くて今にも崩れ落ちそう。はるかに硫黄山が盛り上がる。北から硫黄山を望んだ岳人は数少ないのではないだろうか。三つ四つ小さいピークを乗り越え、やっと最後のピークで、1等三角点が迎えてくれた。

憧れの知床岳(12554.2m)登頂である。オホーツク海と根室海峡が一望で、北方領土の国後島が間近にのびる。改めて狭い半島を実感した。振り返れば知床岬が海に落ちていた。全員で握手を交わして万歳三唱。私の今までの1等三角点登頂では最も印象深い山となった。

30分は一瞬のうちに過ぎ去り、下山にかかる。何といても下りは楽である。湿原は花を踏まなければ歩けない。時間が許せばのんびりと花の楽園を楽しみたい所である。

テントを撤収して前山をくだる。下山

形のガレ場が広がる。その奥に頂上山稜の3等三角点あたりのピークが姿を現す。雄大な景色である。ガレ場を登ると三番目のロープ場で、ここでも最初は滑って苦労したが、上に行くほど楽になり、登り口がいちばんきつかった。いよいよポロモイ大地の大ハイマツ帯に入る。平原状で、切り開きの道にはテープ付けもあり、コースを間違えることはないが、ハイマツの根が交錯し、ササがかぶって歩きづらい。

行く手に残雪を見ると、開けた雪田に出た。すでに雪は少なく、一面高山植物が咲き乱れ、ゴミがたくさん明えていた。一隅からの清流でティータムをとる。知床沼はもうすぐだが、ここからの道はさらに悪くなる。ハイマツは幹が絡み岩が重なる。その間は1分余りも陥没して、幹から岩、岩から幹とまるで綱渡りのように飛び伝って行く。やがて知床沼が姿を現した。思ったより広く野球場がいくつも入りそう。池畔は苔が積み重なり、まるでマットを敷いたようである。沼の水は透明で、そのままでも十分飲めそうだが、念のため煮沸して昼食にする。

のほうか突ではあるが、こんなに登ったのかと思うくらい長く感じられた。

知床沼で少し遅い昼食をとる。日没までの下山は無理だろうし、もともとあと1泊を予定している、このまま沼で泊まることにする。

登るときにも眺めたが、ここから見る知床岳は、沼の正面に前山の北端が、その右肩に知床岳の東端峰が重なる。前山も知床岳東端も湾曲した山稜の前端で、そこに登り着いても、三角点までは長い稜線をたどらなければならぬ。もし登るときに気づいていたら、その速さに辟易したことだろう。

わずかな焼酎を分け合って祝杯を上げる。心地よく酔いが回ったのは、登頂の感激からか高山のせいだろうか？

陽が西に傾くと沼から霧が立ち昇る。キタキツネが私たちの様子をうかがっている。午後の半日は快適な休養になった。朝は露でびしょり。雨具を着けて下山にかかる。下界は一面雲に埋り、やがてその霧のなかにくだる。登りに広がっていた馬蹄形のガレ場からは何も見えない。登頂を果たした下り心も身も軽く、ロープ場も滑り落ちるようになってくる。そ

見上げる知床岳は、前山(11322m)の後方に重なり、それほど遠くはなさそう。まだ午後早いので、知床小池まで前進することに。沼の北側を廻り前山に取りつく。斜面はダケカンバ林でササがかぶっている。所どころにテープはあるが、枝をくぐりササを分け、ルートを探しながらの登行となる。大きなザックが邪魔になり、思ったよりも時間がかった。

すでに陽も傾いてきたので、知床小池を諦め、前山と知床岳の鞍部にテントを張る。水は小池から流れ出した細流を利用した。ここは知床岳を前山にした高原状で、苔草が積み重なり、オホーツク海を見下ろす絶景の場所である。私はここを知床平と命名した。

正面に聳る知床岳は、それほど標高差もなく1時間位で登れるだろう(見えていたのは山稜の前端で、三角点はまだまだ遠い南端だった。見下ろすオホーツク海に漁火が輝き、秘境の山中に居ることを忘れさせる。

朝は8度で寒いぐらい。小鳥の声も涼しい。夜は全く風がなかったが、星は少ししか見えなかった。4時30分には朝日

うして昼前には観音岩に到着した。折から地元の小学生の1団がロープに挑戦していたが、注目の中、私は疲れていてふらふらとロープにぶら下がり、少し恥ずかしかった。

海岸で昼食をとり相泊へ、しかし相泊までの海岸はまだまだ遠かった。

車に到着すると先ず缶ビールを1気におおる。その後、少し走って相泊温泉(無料)で4日分の汗を流し、羅臼のキャンプ場で最後の祝杯を上げ、それぞれが次の目的地に向かって出発した。

(平成13年7月25日〜28日歩く)

A コースタイム

相泊(3時間) 観音岩(2時間30分) 神秘の沼(沼)(4時間) 雷田(30分) 知床沼(4時間40分) 知床平(沼)(2時間15分) 知床岳(1時間50分) 知床平(2時間15分) 知床沼(沼)(3時間30分) 神秘の沼(2時間45分) 観音岩(2時間15分) 相泊

*右記タイムは休憩も含む高齢者向きで、実際は3割位短縮できるだろう。

△地形図V20万 知床岬 5万 知床岬 2万5千 知床岳

古来からの奥駈道おくがけみち

おおみね 大峰南部縦走

尾家建生

大峰

近畿の屋根、大峰山脈には吉野から熊野に至る修験道の霊場があり、「奥駈道」と呼ばれている。1915年の八経ヶ岳を頂点に無数の峰々を越える稜線は全長180kmにもなり、世界に類を見ない長大な山岳宗教の修行の場である。

ゴールデンウィークの連休を利用した山行は釈迦ヶ岳から熊野本宮を目指す3泊4日のコースとした。いわゆる「大峰南奥駈」といわれる古来からの山道である。

十津川街道(国道168号線)沿いの旭口から旭ダムを経て、林道奥付の登山口まで車で入り、釈迦ヶ岳西南稜に取りつ

いた。植林帯をしばらく登るとたちまち1400mを超え、1500mから1650mの西南稜はブナの尾根となる。古田ノ森という名が付いている。古くからのブナの森であろう。多雨地帯の大峰山系独特の苔の付着したブナの幹が続く。しかし、幹周りの大小にかかわらず立ち枯れの樹が目立つ。これも大峰独特の風景であろうか。岩盤上の土の層が流出し、貯水が不足しているからなのか。次第にツガやトウヒが優勢となり、やがて釈迦ヶ岳山頂に登り着いた。大峰山脈の真っ只中で、これから目指す笠捨山の山塊をはるか南に小さく望んだ。

深仙ノ宿から太古ノ辻を過ぎるといよ

太古ノ辻(これより南奥駈道)



いよ南奥駈道に入る。高さ20mばかりのミヤコザサとブナの林をぬって尾根道が続いた。ブナはやはり根が浅くなっているのか立ち枯れや倒木が多い。最初の峰の天狗山(1537m)には3等三角点があり、眺望がすばらしい。鞍部にはバイケイソウの群生が鮮やかな緑の葉を開いている。大峰のブナは日本海側のオオバブナに比べると小振りな葉長5cm程の

コバブナである。

鞍越峠からは十津川村花瀬の集落が見えた。このあたりにくるとブナの立ち枯れは見られなくなった。ミヤコザサが背丈の高いクマザサに変わった。「新宮山彦グループ」の「刈峠行」の立て札が頻りに現れてきて、長年に渡る登山道整備が推察できる。失われつつある山道がこうして快適に歩けるのも地元の高志家のおかげだ。



持経ノ宿避難小屋の朝

湿懸岳、証誠無漏岳、阿須迦利岳を越え、真暗になったころ、持経ノ宿小屋にようよう到着した。先客5人がすでに横になっていたところにわれわれ6人が割り込んだが、「お互いさまです」と気持ちよく場所を空けてくれた。いろいろが赤く燃えている。水場は東の林道を数分くだると沢があった。

翌朝、6時すぎに小屋を出発。ブナ・モミ・ミズナラの自然林の山道を行く。アケボノツツジ・ミツバツツジが花の盛りだ。1時間少々で平治小屋に着いた。小屋の前に西行法師の歌碑がある。「平地と申す宿にて 月を見けるにこずえの 露の袂にかかりければ」の叙述とともに歌が刻まれている。西行が奥駈道をも歩いてきたとは驚いた。歌のほうは明け方に詠んだものであろうか。今、西行の訪問から800年を経て、朝の光がこずえを洩れるなかをわれわれは同じ道を歩いている。ブナは日当たりのいい枝から薄緑に芽吹き始めていた。

出発後4時間で行仙岳の登りにかかった。斜面にはブナ林が広がり、最大幹周り286cmのブナがあった。行仙岳に登

り着くと、20分ほどで鞍部にある行仙宿山小屋にくんだり、次の峰の笠捨山(1352m)に1時間35分かかって登った。途中、前方を子グヌキが尾を振りながら逃げていった。笠捨山は役行者が苦しさのあまり笠を投げ捨てたといわれている。役行者が言うところがミソで、われわれ凡人の苦しさは救われるのである。南斜面にもブナが広がる。やがて杉の植林帯となって萬川辻に着いた。西側の谷に向かつて水場5分の標識がある。

槍ヶ岳のピーク直下を過ぎ、地蔵岳の鎮場の登りとなった。北西に中八人山(1396m)の山容が迫る。山頂から再び崖状をくだり、四阿宿となる。その間に左の谷に水場の標識。さらにくだると、古い熊の檻が放置されていた。17時に香積山、しばらくくだった尾根筋から右手の植林帯をくだり抜けて貝吹金剛の大きな岩から塔ノ谷峠におり立った。植林のなかの薄暗い峠に風が吹いている。きょうも長丁場だった。ここの水の確保には、東に谷をくだること往復1時間半を費やすことになった。

槍植林のなかのなだらかな起伏を南へ



玉置山カツエ坂のブナ林

あるが、山頂手前の尾根にわずかにブナが残っていた。幹周り120cmのブナを中心に十数本、ひっそりとブナ木立をつくっていた。それは伐採前の山をしのばせた。かつては大森山の名の通り全山が天然林におおわれ、尾根伝いにはブナの林が波打つように続いていたのであろう。今となっては幻想である。

夕暮れ近くなり、猿尾辻の山道にテントを張ることにした。若いヒデさんが東側の谷にくだり、チャロ沢から貴重な水を汲んできてくれた。初めて明るいうちに食事ができた。

4日目、最後の行程だ。5時5分出発。五大尊岳の手前で東の峰に日の出を見る。修験道の山道には峰から昇る紅い朝日がよく似合う。太陽が命ある万物を照らす一日の始まりはすばらしい。

金剛多和の宿を経て大黒天神岳に着いた。自然林のなか、ツツジが満開の山道をくぐる。十津川沿いの集落が絵のようになり、西側眼下に見える。しかし、ここからがけっこう遠かった。ふもとに近づけば近づくほど分岐が増え、しかも標識は少なく時間を費やした。

終点は備前であった。この備前では最近、国内最大級の経塚群が発見されている。神聖化されていた場所なのであろう。眼前の熊野川の白い河原に碧い流れが帯となって兩岸を分けていた。われわれは河原で記念写真を撮り、登山靴を脱いで渡渉した。一步一步ゆっくりと進むが、ザックの重みに加わり河床の小石を踏む足裏が痛い。しかし、この刺激はしばらくして旅の疲れを足底から癒してくれた。

渡り終わると南奥駈の山旅が終わった。
(平成12年5月3日〜6日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 〔1日目〕旭ダム奥の登山口(2時間20分) かくし水(15分) 釈迦ヶ岳(45分) 深仙宿(20分) 太古ノ辻(1時間5分) 天狗山(30分) 奥守岳(30分) 嫁越峠(25分) 地藏岳(1時間45分) 涅槃岳(30分) 証誠無漏岳(1時間20分) 持経ノ宿小屋(泊)
 - 〔2日目〕持経ノ宿小屋(1時間10分) 平治宿(30分) 転法輪岳(50分) 俱利伽羅岳(2時間) 行仙岳(30分) 行仙宿山小屋(1時間35分) 笠捨山(40分) 葛川辻(1時間) 地藏岳(35分) 四阿宿(1時間15分) 香精山(40分) 塔ノ谷峠(泊)
 - 〔3日目〕塔ノ谷峠(55分) 千本ノ森(1時間) 水呑金剛(1時間) 花折塚(30分) 展望台・カツエ坂(30分) 玉置山(55分) 宝冠の森(1時間10分) 玉置神社(50分) 猿尾辻(20分) 大森山(50分) 猿尾辻(泊)
 - 〔4日目〕猿尾辻(40分) 五大尊岳(45分) 金剛多和の宿(25分) 大黒天神岳(50分) 吹越山(1時間20分) 七越峰(40分) 備前・テント装備
- 5万〓釈迦ヶ岳・十津川



と向かう。朝の空気は本当にすがすがしい。上葛川・上小川との分岐を過ぎ、古屋宿跡・千本ノ森・岩の口・稚児ノ森を通過して2時間後、水呑金剛に着く。さらに1時間で花折塚に出た。西側を舗装道路が走っている。車の全く通らない道路に数回飛び出し、北側に広がる山々を見た。伯母子岳や護摩塚山も見える。尾根には植林が続くが、ごくわずかに残る自然林はブナが主体だった。大峰の高山域はもともとブナが主体であったのだろう。

玉置山到着後、空身で宝冠の森を往復した。ここは奥駈最後の行場である。支稜を行くと、しばらくは尾根筋にブナの混じる自然林が続いた。南側が植林帯となり、やがてやせ尾根となって錯場が現

れた。レット状のところをニヶ所通過し、支尾根の先端宝冠の森に到着した。眼下には熊野三千六百峰が広がる。玉置神社で水を補給し、さらに南へと向かう。玉置神社には杉の巨木が多い。幹周り最大10・3mの巨樹があった。これまで「玉置山」を指していた標識は「本宮」に変わった。ゴールは見えたとはいえ、なお山中に1泊しなければならぬ。林道終点の水呑金剛には14時半に着き、さらに大森山を越えてから露営することにす。

1078坪の大森山は全山植林の山で

硫黄岳と横岳

鷺見守康

八ヶ岳

時刻はすでに午前0時に迫り、日付が変わろうとしていた。岐阜からバスをチャーターしての例会山行は何度も実施しているが、前夜発で行くのは初めてのことであった。

これまで、早朝の現地集合山行の際に参加者が夜行で集まることはあった。夜行はできれば避けたいものの限られた日数のなか、遠隔地での行動時間にゆとりをもとんとすれば、どうしても前夜発ということになる。

夜行の際には目的地付近で温かい朝食と、トイレや洗面の機会がほしい。少しでも夜行の疲れを癒し、できるだけすっきりとした気分で歩き出したいと思うか

らだ。今回は、バスの終着地である美濃戸口の八ヶ岳山荘に朝食を頼んだ。この山荘では、深夜に到着して仮眠をとることもできるという。

午前6時前に八ヶ岳山荘着。朝食をとり、6時半に出発。空には雲が広がっている。梅雨の真っ只中なのだから、雨を覚悟の山行である。美濃戸までは林道歩き、幅の広い道を26名がワイワイガヤガヤと行く。

道沿いにはシロバナヘビイチゴやダイコンソウなどのバラ科の花、キンポウゲ科のウマノアシガタ・ヤマオダマキ、そ

横岳から望む硫黄岳



してユリ科のミヤマカラマツソウなどが咲いている。やがて、バラ科の低木アイソシモツケが多くなり、ヤマツツジやレンジツツジのツツジ科の低木も咲き競っている。

1時間ほどで美濃戸山荘に到着し、休憩。声をかけたわけでもないのに山荘側がお茶を入れてくれた。この小屋は通過する登山者にもお茶を出し、歓待してく

れる。

美濃戸山荘から、道は北沢と南沢に分かれ、私たちは北沢コースを進んだ。雲が厚くなり、時々バラバラと雨が落ちてきた。コースの後半になると沢は次第に広がりを見せ、開放的な川原となって、前方には噴々たる横岳を望むようになった。特異なピークである大同心があざや



かだ。この大同心は合掌する僧の後姿のようにも見える。

1時間30分余で赤岳鉱泉小屋に到着。「ここが赤岳鉱泉……」初めてのメンバーのなかから感慨深そうなたつぶやきも聞かれた。赤岳鉱泉小屋はハイカーのなかで知名度が高く、ある種のステータスがあるようだ。

赤岳鉱泉小屋から樹林帯の登りである。八ヶ岳連峰のアイデンティティともいえる亜高山帯針葉樹林だ。時として、オオシラビソの発散する精気が甘く漂う。メボムシクイやルリビタキなど、お馴染の亜高山帯常連の鳥たちが特徴的な囀りで迎えてくれる。

パーティーの中で遅れがちなメンバーが出る。体調がすぐれないようだ。夜行の場合、体調を崩す人が出るのは避け難いともいえる。ペースは遅くても歩くことさえできればいいのだ。

硫黄岳手前の赤岩ノ頭で森林限界を超え、視界が広がった。休憩をとり、パーティー全員が揃うのを待ったが、大きく遅れているメンバーもいる。道ははっきりしており、最後尾を守るのはサブの狩野さんだから心配ない。あまり長い休止は

体が冷えてしまうため、先着のメンバーでとりあえず昼食休憩予定の硫黄岳まで進んだ。

11時半、硫黄岳に立った。雨は上がり雲は高く、予想以上に見晴らしがきく。南アルプスの裾岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山、秩父連峰の金峰山、そして優美な浅間山、さらに何と北アルプスの槍・穂高連峰も見えている。Mさんなどは「今まで数回登ったけれど、今回の見晴らしが一番いい」と感激していた。

樹木もさえないものも何もない山頂は風がまともだけれど、めいめい岩陰などに風を避けて昼食。ビールを飲んでいると突如として私の携帯電話のベルが鳴った。狩野さんからだ。ようやく赤岩ノ頭に到着したと言う。「ここで昼食とし、以降も本隊から離れ、遅れて行く」とのことなので、パーティーは二つのグループに分かれることとなった。

二つのグループに分離したことは功を奏したようで、遅れ組は「隊列に追いつかなければ……」という脅迫観念(?)から自由になったのか、自在に歩くクセ(?)のあるKさんを先頭にしてお互いあいまいと漫才的な掛け合いも飛び出すな

ど、体調を崩したメンバーもけっこう気楽に歩けたようであった。これが新ハイのいいところなのだろう。

硫黄岳から大ダルミを越えて次第に横岳に接近していくと、高山植物のお花畑となってきた。イワウメ科のコイワカガミ、バラ科のミヤマキンバイ・ミヤマダイコンソウ、マメ科のオヤマノエンドウ、キンポウゲ科のハクサンイチゲなどの草木や、ツツジ科の低木キバナシタナゲ・ツガザクラ・コメバツガザクラ・ウラシマツツジ・イワヒゲ・イワウメ・ミネズオウなどが道沿いに華やかだ。「八ヶ岳の花を見るなら6月」を実感する。例年アルプスに比べ積雪の少ない八ヶ岳では、高山植物の季節も早い。

日本アルプスの山々に比較すれば、群落のスケールは小さいが、種類は一歩もひけをとらず、彩りの多様さは見事である。バラ科の低木チョウノスケソウの密度は国内でも有数なものと思われるし、一つ一つの花がとても生き生きしているのだ。ゴマノハグサ科のウルップソウにしても、盛夏の白馬岳などでやや陰りをもった姿しか見ていなかったのに、まだ小さいけれど、独特な気品を見せる輝き

グサは時期遅れで、花柄がのびて若干しまりのない姿ではある。けれど、ツクモグサの花がいわば「旬」とも言える6月上旬には、まだ多くの高山植物たちは開花準備中である。初見のチシマアマナにも、そしてこの時期には期待もしていなかったコマクサにも出会えたのだから、ほんとうに大きな収穫であった。

2日目の朝は予想もしない嵐であった。宿泊した赤岳天望荘では夜半から風雨が激しく、ひっきりなしに屋根や板壁を叩いていた。それでも私は突撃して、アルプスなどの高山にありがちな朝の強風で、8時頃には収まるだろうと考えていたからだ。

ところが、どうも様子が違う。宿泊棟から食堂棟への数分の移動の際にも、私は強風にあおられ、体がフワッと浮いてしまったのだ。女性なら吹き飛ばされたかもしれない。事実、朝食時、女性メンバーは必死の形相で移動していた。小屋のおやじさんに訊くと、「台風の影響かもしれない」と言う。「台風2号は大陸に向かっていくというのに」と言いたげな私の表情に、「八ヶ岳では時々

には、思わず唖ってしまいました。お花畑の出現にパーティはあちこちで歓声を上げながら興奮のつぼと化した。写真撮影に専念する人もいる。

私には、今回の山行でどうしても出会いたい花があった。キンポウゲ科のツクモグサだ。希少、かつ、いかにも高山植物らしい草で、この時期にしか花姿を見ることができない。株数が減少し、なかなか見られないという情報もあり、ひょっとするとやはり幻の花なのかもしれないとも考えていた。ところがである。横岳の核心部の岩場に近づくと、何と、密生した毛に包まれてやわらかく淡い黄色の何とも魅力的な花が出現した。「あった！ ツクモグサがあった！」パーティの興奮は極限に達し、私たちは歓喜に包まれた。

自然観察山行のリーダーをやっている一番嬉しいのは、こうした感動の場面だ。花などの説明をしていても、メンバーが冷めた状態である、なんだか淋しい。自然の美しさやおもしろさに出会えた喜びを参加者全員で共有することが、自然観察山行の真髄なのだ。少し冷静に言えば、6月下旬のツクモ

ある」とも言う。ともかく、数時間で収まるような状況ではないと判断し、縦走は中止と決断。急ぎ、下界の旅館に泊まっているバス運転手に携帯電話で連絡を取り、下山地と時間の変更を知らせるとともに、メンバーには小屋でしばらく待機するよう伝えた。

次に決断すべきことは、いつ、どのコースで下山するかである。けれど、風雨は一向に弱まる気配も見せず、下山することさえ難しいような状況であり、小屋でこのまま停滞ということになるかもしれない。メンバーの中にもそんな心配と不安が広がり、緊迫した空気が漂い始めた。何とか下山したい、という声も聞こえてくる。各々が明日からの予定も持っているのだから、当然のことではある。

私がいちばん迷ったのは、地蔵尾根をくだることが選択肢としてベストなのかどうかということであった。というの、私は地蔵尾根を歩いたことがない。こういう状況下、大きな集団で未知の岩場ルートをとるのは不安であった。そのため、下山しようとする他の登山者を見つけては情報収集に努めた。

結果として、地蔵尾根を選んだことは

イモック山遊くらぶ

4月28日 兵庫 名山シリーズ
香住町 三川山(888m)へ
5月19日 花の名山
伊吹山(北尾根を歩く)
詳細はお問い合わせ下さい



〒653-0028 神戸市東灘区日吉町3丁目1番30号
カフノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
■営業時間/10:00-20:00 ■定休日/日曜日

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

中型ザック紹介

◆ピークハンター◆

1〜2泊ハイキング、トレッキングに最適。
耐久性にすぐれた、ナイロン高密度織を使用。
軽量、強度を増し、デタッチャブル可能なフロント
ポケットは、サブザックにもなり頂上往復に大変
便利です。

*カラー ワインレッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ
*容量 35L
*重量 1750g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥15,500



正解だったようだ。岩場の険しさも予想したほどではなく、何より稜線から樹林帯が近かった。メンバー全員が岩場を通り、無事に樹林帯に入ったのを確認して私は心からほっとした。

気がつく、足元には純白のウスバスマイレが一輪咲いていた。亜高山帯針葉樹林に生きているスマイレで、私は初めて出会ったのだが、清楚な白さがひととき目に染みわたった。

(平成13年6月23日・24日歩く)

▲参考タイム▼

(22日 晴れ) JR岐阜駅 23・50 (バス夜行)
(23日 曇り) 美濃戸口八ヶ岳山荘 5・50 (朝食) 6・30 | 美濃戸山荘 7・30 | 45 | 赤岳鉱泉小屋 9・20 | 40 | 硫黄岳 11・25 (昼食) 12・25 | 横岳 13・40 | 14・00 | 赤岳天望荘 15・15 (泊)
(24日 雨) 赤岳天望荘 9・10 | 地蔵尾根 | 行者小屋 9・50 | 美濃戸山荘 11・20 | 45 | 美濃戸口八ヶ岳山荘 12・20 (昼食) 13・00 (バス) 原村もみの湯 13・15 (入浴) 14・00 (バス) 岐阜駅 17・30 (解散)
△地図▽昭文社「八ヶ岳・蓼科」

新ハイ関西64号
標高△△64mの山

蛇峠山 (1664m)・南信濃
西方ヶ岳 (764m)・若狭・越前境
三ヶ辻山 (1764m)・奥飛騨
イハイガ岳 (964m)・鈴鹿

蛇峠山

三宅さんと2人で大川入山に登った折、その翌日に付録として登った山が蛇峠山。関係者だったら車で登れてしまう山だが、ゲートが馬の背にあり、その草原にテントを張った。南アルプスの夕景を愛でながら、そして星月夜のメルヘンの世界に没りながら、大宴会をするのに恰好の広場だ。山頂へはゲートの左側に登山道があり、尾根上を登っている。施設が建つ山頂に至るまでの間は樹相の美しい道だった。

(平成12年11月26日歩く)

△コースタイム
馬の背(1時間20分) 蛇峠山(40分) 馬の背

△地形図√2万5千Ⅱ混合

西方ヶ岳

敦賀半島にある西方ヶ岳は、標高は低いものの周囲が海だから充実した山行が楽しめる。海拔0mから登ること、足元から広がる雄大な日本海の眺め、蝶螺ヶ岳へと続く稜線の爽快感、そして何よりも花の種類の多彩さに驚く。2年前には同じ時期に浦底から長命水峠で蝶螺ヶ岳に登り、西方ヶ岳へと縦走してまた往

路を戻るという長い行程を歩いたが、実に楽しかった。今回は縦走して常宮へくだったあと、1人だけバスに乗って、車をとりに行くという方法をとった。ササユリ、何種類もの五弁のツツジ、ドウダンツツジ、その他私が名前の知らない白花や、黄色の花々などがあちこちに咲いていた。稜線上は灌木しか育たないのか、遠くまで見晴しのきく所が多くあった。一方樹林に入れば一転して、シダの若い緑が鮮やかだったり、しっとりとした水場があったりと、陰陽の変化がすばらしく、たいそう楽しい山という印象だった。

西方ヶ岳山頂の山小屋は、若狭山岳会が行き届いた管理をされていて清潔で、一度この小屋に泊まってみたい気持ちにもなった。今回は雪深い冬にせひ行きたい山である。(平成6年6月12日歩く)
△コースタイム
浦底(2時間30分) 蝶螺ヶ岳(1時間) 西方ヶ岳(2時間) 常宮
△地形図√2万5千Ⅱ杉津

三ヶ辻山

さんの立てた計画は、人形山と三ヶ辻山に軽身で登って五箇山温泉に入浴し、夕食を済ませたあと涼しい天竺峠まで車で登ってテント泊する。翌日は初榊山に登り、平瀬温泉に入浴して帰るという内容だった。天気もすばり2日間共晴れて、思い出多いいい山行となった。

2日間の山行中の最高地点が三ヶ辻山だ。白山山系を西に隔てる庄川と、JR高山本線の通っている飛騨川とに挟まれた飛騨高地にあって、最北端の富山県境付近に位置しているのが三ヶ辻山である。県境付近は東へ金剛堂山、そして山頂一帯が湿原になっている白木峠へと、魅力的な山々が連なる山群の最高峰だ。白山の北方稜線の大笠山や笈ヶ岳を間近に望む眺めが雄大だった。

(平成6年9月10日歩く)

△コースタイム
中根山荘奥の林道登山口(3時間) 人形山と三ヶ辻山との分岐(2時間) 人形山往復、三ヶ辻山往復(2時間) 登山口
△地形図√2万5千Ⅱ上梨

イハイガ岳

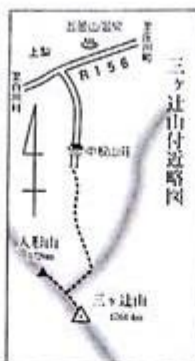
初めて山頂を踏んだのは、イハイガ岳を目指した1995年の正月だったが、今回は縦走中に通過した。鈴鹿山脈を1泊2日で縦走するのは、自家用車が使えなくて交通費がかさみ、とかく敬遠しがちになるが、高橋さんの置き車の発案で、2人で縦走を試みた。コースは杖藜尾から鏡ヶ口に登り、広大な山頂のイブネへ南下して佐目峠。杉峠から雨乞岳に登って、綿向山まで縦走するというもので、最後の綿向山への登りの手前の小さなピークがイハイガ岳である。

樹木が密生しているイハイガ岳の前後も、この時期はすっかり葉の落ちた雑木林になって、通過が楽だった。真っ白な雪が枝々につき、青空に映えたその繊細な美しさは見事だった。雨乞岳と綿向山の大きな二山に挟まれたちょっとしたピークのイハイガ岳は、名前とは全く違う印象の、やさらぎとあたたか味のある山頂だった。(平成9年12月13日14日歩く)
△コースタイム
杖藜尾(7時間30分) イブネ、テント泊(9時間) 北畑

△地形図√2万5千Ⅱ御在所山・日野東



三ヶ辻山を望む



残暑厳しい9月上旬で、アルプスの紅葉にはまだ少々早いというときに、ちょうど手頃な山行だった。リーダーの須藤

大峰山寺開扉行事

山上ヶ岳登山

奥田 英一郎

大峰

緊張感みなぎる山上での儀式が、テレビ撮影の強いライトに浮かび上がる。漆黒の闇のなかに提燈が乱舞し、人馬の叫喚が山嶺にこだまする。燭台の炎がゆらめく室内に、般若心経の大合唱が鬼気迫る。半年に及ぶ冬の間、堅く閉ざされていた蒼古とした大峰山寺の扉が開かれる、その瞬間の行事だった。

吉野の奥山にはまだ山桜が山肌を彩っている5月の初旬だった。車窓から見る広橋の梅林では、実ったばかりの青梅が爽やかな風に揺れていた。その年の3月、この峠を越えたときは斑雪が舞い落ちて雪の花がきれいだった。洞川に入るには三つの峠を越えなければ

ばならなかった。が、今は笠木峠も虹峠もトンネルで通り抜けられるようになった。大阪を午後後に発って、夕暮れ時にはもう洞川だった。

いつも世話になるA旅館に立ち寄り、お茶をいただきながら、開扉行事についてあれこれと主人から話を聞かせてもらった。人々がそろそろ眠りに入ろうかという時刻に旅館街を通り抜ける。かつて女人結界であった母公堂には燈明が灯されている。清浄大橋には各地から集まってきた講中の人たちが群がっていた。

ここから女人結界門をくぐると、いよいよ山道となる。暗くて人の姿は見えないが声だけは聞こえる。錫杖と鈴の音

ここで懺悔したあとといよいよ、弥陀の浄土に入るのである。そういえば先達の先刻聞いたリードは「懺悔、懺悔、六根清浄……」だった。

山上の宿坊が近くなったのか、上の方からどよめきが伝わってきた。人の姿が急に増えてきて、まもなく宿坊に着いた。坊の中では前夜から泊まっていた行者たちだろう、白装束の姿が激しく行き交っていた。折から山上で鳴らす鐘の響きが大きくなった。午前2時を回っていた。この時、山頂の参籠所では早くも儀式が行われていたのである。残雪を踏んで急いで石段を登り切ると、小広い台地に大勢の人がひしめいていた。大峰山寺の大きな本堂は黒々としたたずまいであった。広場を隔てた参籠所には明かりが灯されていて、人影がぎっしりと建物をとり囲んでいた。とても中には入れそうにないしかたなく山際の窓から中を見ることにした。

未明の参籠所では儀式はたけなわであった。薄明かりに照らされて、羽織・袴姿の人が対坐して居並んでいた。各講社の代表の人たちだろう、講中の名が書かれた提燈が各自の前に置かれている。山伏

が山間に響き渡り、突然驚くような近くで法螺貝が鳴り渡る。一の世茶屋、一本松茶屋と、いずれも道を跨ぐようになっている。湯茶が用意されていた。

空気が冷たくて澄んでいるせいか星空がきれいだった。流れ星がいくつか白い線を引き、黒々とした山影に消えていった。山伏たちとは離れず追い越さず登って行く。彼らは先達の「六根清浄、お山は快晴……」という張りのある声に唱和してリズムカルに登って行った。吉野からの道と合する洞辻茶屋では先行の行者たちが大勢休んでいた。頭巾に結製袋、鈴掛衣に手甲、そして脚絆といったいでたちの白装束の人たちが、ローソクの先に鈍く浮かび上がるのを、半ばうつろな思いで見ながら熱いお茶をいただいた。茶屋を出た所に祠があって、行者たちは暗がりのなかで声高く般若心経を唱えていた。陀羅助茶屋を過ぎて間もなく、油こぼしという険しい岩場を鎖で攀じ登る。尾根筋には残雪があちこちに見られた。標高が高くなったのだろうか、急に風が冷たくなった。垂直に近い鐘掛岩は脇道をとどった。先達の指示にしたがって道い上がる難所だが、夜道のことだから

の正装をした人がうやうやしく礼拝を繰り返す。正面奥の壁には、役ノ行者像、左右には金剛権現と不動明王と思われる画像が掛けられている。法衣をまとっておられるのは竜泉寺の住職さんだろうか。背、嚴肅な面持ちである。三宝の襖紗の上に乗せられている大きな鍵の受け渡しが行われているようである。その間の所作にどんな意味があるのかはよくわからないままに儀式は進行してゆく。時々テレビ撮影の強いライトに引き締った表情の参列者が映し出される。息づまるような緊張感に満ちた沈黙のあと、般若心経が朗々と唱和されて、鐘渡しの神儀は終わった。しばらくは解き放たれたような時間が流れてゆく。

暗闇のなか、本堂前の広場にざわめきが起こったかと思うと、石段の下方からどよめきが近づくと、提燈を持った黒い一団が次々と大喧嘩と共に駆け上がった。

よく見ると人馬であった。威勢のよい集団は騎馬戦さながらに山頂の台地を所狭しと駆け廻る。法螺貝の響きはかきむしらんばかりの鈴の音と共に乱れ響き、提燈が乱舞する。こうして登山は興奮の



山上ヶ岳付近近略図

2002年度 総合カタログ 山歩き できました!

お電話・FAX お手紙にて **ご請求ください!** **送料無料**



オールカラー 登山情報満載!
山歩き&ウォーキング
 国内・海外・自然観察の旅500 コース以上を掲載した総合カタログ。



初心者の山歩き
 山歩きが全く初めての方も安心して参加出来るコースが満載。



世界新探
 世界の辺境や遺跡を訪ね歩き、その土地の雰囲気や人々と触れあいます。

ツアーのポイント

- 安全・安心登山宣言。全コース日本山岳ガイド連盟認定のガイドや、登山経験豊富なツアーリーダーが同行。
- 全く初めての方、中高年の方、お一人での参加も大歓迎。
- 登山コースは日帰りの低山から、憧れの日本百名山、世界の名峰を歩きます。
- 登頂された方には、全員にオリジナルの登頂証明書をプレゼント!



お問い合わせは... 山旅専門旅行会社
アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7階
06-6456-3366 ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
FAX 06-6456-3377 E-mail: osaka@amuse-travel.co.jp

るつぽと化していった。これはまさにシャー
 マンたちが、神霊に接する瞬間の歓喜の
 姿かと思ふほどであった。
 鐘と法螺貝と、鈴と喚声とが一体となっ
 て興奮がいよいよマキシマムに達したか
 と思うとき、黒い人馬の集団は蒼古とし
 た本堂の扉の前にとっと押し寄せた。狂
 気のように駆け廻る騎手の一人は大きな
 鍵を振りかざしていたが、重々しい扉が
 開かれたのだろうか、大歓声が湧き上が
 ったかと思うと、山伏たちの群れはなだれ
 るように堂内に吸い込まれていった。
 小高い台地の上から、このありさまを
 しばらく呆然と眺めていたが、堂内で何
 が起こっているのか確かめなくてはと、
 行者たちといっしょに踏み込んだ。
 薄暗い堂内では燈明が不気味に揺れ、
 白い装束と黒い影が入り乱れるなかで、
 般若心経を唱える大合唱が堂内に反響し、
 新しい興奮がみなぎっていた。本尊の蔵
 王権現像は木欄の奥にあって、黒ずんだ
 お姿はよく見えなかった。が、ひしめき
 合う行者たちは合掌しながら大音声を張
 り上げて、般若心経を唱えていた。無我
 の境地になって呪文のように唱える姿は、
 モノにつかれた不思議な霊力をもつ存在

のようであった。
 木欄の後ろは内陣になっているのか、
 中に入る人を厳しく制限しているようで
 あったが、山伏の一団に押し込まれるよ
 うにしてまぎれ入ってしまった。般若心
 経を唱え続ける人たちに押されて堂内を
 ぐるっと廻ると、奥の片隅に役ノ行者像
 が安置されていた。ここでも般若心経を
 大合唱する群れがあった。この異様とも
 思える姿に妖気か鬼気さえ感じた。
 不思議なアトモスフェア(冥界)から
 逃れるようにして堂の外へ出た。冷たい
 空気に触れて我に返った気がした。ほの
 白い空の下、堂の横では大護摩が焚かれ、
 白煙がもうもうと舞い上がり赤い炎がゆ
 らめいていた。時折、強い風が吹くと火
 の粉が勢いよく舞い散った。ここにもま
 た、山伏たちの無心に唱える般若心経が
 流れていた。
 黎明の訪れである。茜色から次第に白
 みを帯びてくる空の下に、紫紺色の台高
 の山脈がくっきりと浮かび上がってきた。
 曙光が走り出したかと思うと、白い太陽
 は次第にふくらみ、まん丸い姿を現した。
 またもや山伏たちの大合唱が響き出した。
 御来光を歓喜する人たちの顔が太陽に照

らし出され、印象的でさえあった。
 空がすっかり明るくなると、山上も次
 第に落ち着きを取り戻し、不思議な雰
 気から解き放たれていった。
 清澄な空のもと、小ササの台地に立つ
 と、見馴れた桶村ヶ岳の姿が深い神童子
 谷を隔てて望まれた。風雪に耐えたツガ
 ノキの背後には大きな山並がうねって
 いた。大普賢岳から七曜岳に続いて行者
 還岳。そして、弥山と並んで近畿の名峰
 八経ヶ岳。遙か遠くに小さく尖って見
 えるのは釈迦ヶ岳...、遠望は壮観であっ
 た。
 静寂をとり戻した山頂をあとにして、
 山上を指して山をくだった。ヤマガラ
 だらうかシジュウカラだらうか、小鳥が
 しきりに囀る樹林の好ましい道だった。
 それにしても、この山旅の終わりの優
 雅さに比べて、昨夜から未明にかけての、
 あの凄絶な一連の出来事はいったい何だっ
 たのだろう。役ノ行者以来、連綿と続く
 アニミズムの世界を垣間見たような気が
 する。
 今も暗闇のなかで無心になって激しく
 読経する声は、はっきりと残っている。
 (平成10年5月初旬歩く)

和泉式部逍遙の道を歩く

鞍馬山と貴船山

木村 太郎

京都北山

午年の年頭にあたり、鞍馬山から貴船山へ歩こうと思い立った。季節風の吹き荒れた前日の天候で敬遠したのか、集まった職場の山仲間が6人に減っていた。飯電鞍馬駅に降り立つと小雪が舞っていて、駅の周りは一面の雪景色。同行の中村さんは山道が凍結してはいないかと心配顔だ。

鞍馬寺は、鞍馬山の山中に毘沙門天を安置し、伽藍を構えている。寺域は鞍馬街道の要衝の地にあり、平安遷都後は帝都の北方を守護する精舎として栄えてきた。

この鞍馬寺へは、清少納言や菅原孝標女など王朝の女房たちも来山した。

いわゆる王朝女流文学とみなされ、女人の手になる文章によって、当時の物語での旅を知ることが出来る。おそらくは同時代の紫式部や和泉式部らも、鞍馬・貴船へと足を運んでいたことであろう。

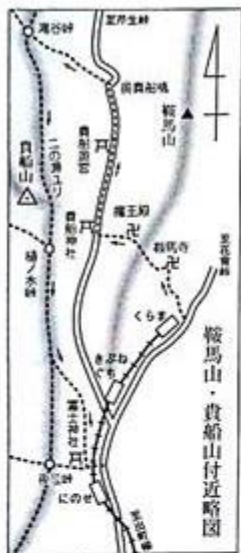
清少納言は『枕草子』に「近うて遠きもの」として、「鞍馬のつづらをりといふ道」と述べている。仁王門から標高差にして160尺、標高4100尺の高台にある本殿金堂までの参道は聖地にふさわしく、新雪のなかに水墨画のような景色を見せていた。

しめのうち詣での人波と連れ立ってつづら折りの坂道を登り、鞍馬の火祭りで知られる由岐神社を通る。朝廷の勅使を

鞍馬山が大きく鎮座している。そして貴船口から迫り上がってきた鞍馬尾根は、旧花背峠へと極相林の緑が続く。四季の移ろいを演出する山の大自然に包まれて、それにより生かされていると信じる人々にとって、この山寺は心のよりどころともいえる。

本殿前庭の金剛床と呼ばれる石畳の端に立つ。いつもは間近に見えている大比叡の姿がかき消されている。灰色がかった雪雲にさえぎられ、縹渺たる空間が広がるだけで視界がきかない。桜の季節に鞍馬を訪ねた近代の歌人と謝野晶子は、比叡山の方に曼陀羅の雲を見たと言っている。

比叡山が見えるビューポイントまで来たのに、何も見えないのが心残りであった。何か忘れ物をしたような気持ちで霊



鞍馬山・貴船山付近地図

同行の中澤さんは天空の被写体カメラを向けている。空高く林立する大杉は、斧が入らなかつた寺社林の大きな遺跡ともいえよう。古生代という気の遠くなる時間を経

宝殿への雪道を進む。しかし、与謝野鉄幹・晶子の双翼の歌碑を見て、気持ちは慰謝されていた。歌誌「明星」を主宰した鉄幹は京の人、晶子は堺の人だった。京の栗田山で結ばれた2人のロマンスが思い起こされる歌碑である。

東京から移された晶子の書斎「冬柏亭」の横を過ぎる。開廊といわれた鞍馬山の奥地、サンゴやウミユリの化石で出来た磐座に立つ奥の院魔王殿への道をとる。この地で鉄幹が歌の題材にした義経の背比べ石や木の根道を通り抜けて僧正ヶ谷に出る。謡曲「鞍馬天狗」で、牛若丸が武芸を修行した場所である。いつしか雪もやみ、雲の流れが早くなり、青空が広がりはじめた。

見上げると、天上にのびた杉の大樹が雪の綿帽子を被っている。その構図をおもしろいと感じたのか、

同行の中澤さんは天空の被写体カメラを向けている。空高く林立する大杉は、斧が入らなかつた寺社林の大きな遺跡ともいえよう。古生代という気の遠くなる時間を経

鞍馬の木の根道



通すための山門であった中門を過ぎると、山道は鞍馬石の石段道に変わる。

もしかして、この道は紫式部の「源氏物語」若紫の巻に描かれた北山の「なにがし寺」へ誘う階かもれない。18歳の光源氏が病氣平癒を願って歩いたときに「紫の上」と運命的に出会った、北山のみ寺への道にも思えてきた。石段を登りつめた本殿金堂の背後には

て赤道付近の海から移動してきた輝緑凝灰石の地層の上に、鞍馬山の原生林は今日を生きているのである。

宇宙の金星から魔王尊が降り立ったとされる魔王殿を過ぎて、貴船溪谷に扉を開いた西門へとくだる。たどり着いた貴船川はその昔、玉依姫が浪速の地より貴船に乗って週行してきた水路とされている。都の御用水である賀茂川の水源地として、川上神とあがめられた貴船神社の鳥居が見えている。

貴船口駅から貴船神社奥宮まで、貴船川沿いの散策路には「和泉式部恋の道」と書かれた木標が取り付けられている。貴船神社が現在の地に奉遷される前の本宮であった奥宮の社に、和泉式部は日参していた。

ものおもへば涙のほたるもわが身よりあくがれいずるたまかとぞ見る

(和泉式部集 一・二五)

藤原保昌との不仲に悩んでいた和泉式部は、夫との拠りが戻らよう祈願した貴船詣りの折に、「貴船に参りて御手洗川にほたるをみて詠める」と詞書した歌を残している。

奥山にたぎりて落つる滝つ瀬の

エベレスト 61歳の青春

北摂の山(下) 西部編

新刊

川田 哲二 著 A5判・二四〇〇円
夕ウラギリ第2巻をはじめ数々の登攀記録
を持つ関西有数のアルピニストである著者
が、61歳にして憧れのエベレストに挑んだ。
偉大なる山懐での感動と登山人生を綴る。

新刊

慶次次盛一 著 四六判・二〇〇〇円
京阪神から馴染み深い北摂の山々を写真、
地図と共に紀行風に紹介。道標の有無や交
通機関など、できる限りの詳細な情報を盛
り込んでガイドする。
上巻 北摂山好詳完全中

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

たまちるばかりものなおもひそ

(和泉式部集一・二六〇)

和泉式部が「男に忘れられてはべりける」
悩みある身で川瀬をさまよっている、と、
いずかたからか貴船明神の返歌が聞こえ
てきた。

寛弘頃(1076)に編まれた勅撰集『後拾遺集』
に載る神祇歌の功徳によるものか、夫の
心は和泉式部に復した。以来、縁結びの
験ありとされてきた貴船神社奥宮の鳥居
前に、和泉式部が物思いに耽ったという
「思ひ川」があり、朱塗りの小橋が架か
る。そういえば、貴船口近くの下流には
堂石と名がついた巨岩があり、この流域
を通過した和泉式部をしのばせる名所に
なっている。

紫式部は消息文のなかで、和泉式部の

ことを「けしからぬ方こそあれ」と評し
ている。異性関係では感心できないと紫
式部に言われたように、『和泉式部日記』
には、何人かの宮中の殿方との恋愛事
が書かれている。

近代日本の浪漫主義の旗手、与謝野晶
子は『和泉式部日記』の口訳を上梓して
いる。それは、晶子が和泉式部の言葉
をかりて、奔放多情に生きた和泉式部とい
う女性の印象を企んだことなのだ。さら
びやかな愛の幻想をふりまいて、近代ロ
マン派の広告塔に利用したようなもので
ある。

けれども今、和泉式部が魂から飛び出
し、堂のように追いついてきたこの貴船山
峽の道歩くとき、世に伝わる自由情熱
の歌人というよりも、恋に苦悩する女人

のイメージが湧いてくる。同じ貴船を舞
台にすえた、謡曲の『鉄輪』に出てくる
宇治の橋姫は、貴船山の森で丑の刻詣り
を行い、ねたましい男女を呪い死させた
という話も伝わる。

黒髪のみだれもしらさうちふせば
まずかきやりし人ぞこひしき
(和泉式部集一・二七)

黒髪が乱れるのもそのままに、悲しみの
あまり泣き伏している様子に、すぐにそ
ばにきて乱れた黒髪をかきやってくれ
ました、かの人の優しさが恋しくてなら
ないのです。

生きながら鬼神となった宇治の橋姫に
くらべてみて、和泉式部の素直な女らし
い雰囲気秘めた恋歌に、読み手はおも
わず魅了されてしまうのだ。

あらざらむこの世のほかのおもひでに

いまひとたびの逢ふこともがな

(和泉式部集一・一六〇)

私はもう長く生きられないでしょう。旅
立つ運命のその前に、この世の思い出に
もう一度あなたとお逢いしたいもので
す。

和泉式部の名は、最初に添うた夫の和
泉守橋道貞からきている。その夫と別れ
た後も、夫を思い気遣う歌を詠んでいる。



貴船神社奥宮の思ひ川と鳥居

『和泉式部日記』にはある種の虚構性が
あり、和泉式部の本質は意外に信心深く、
自分に正直に生きた人とみるべきではな
いか。

ともあれ、宇治の橋姫が七日の日かず
を参籠し、和泉式部が日参した貴布禰
(貴船)の社は、玉依姫ゆかりの船形石を
置いて、奥貴船の森に物静かに鎮まっ
ている。

奥宮の拝殿近くに場所を借り、昼食を
とることとした。雪景色に包まれた広場
で、寒さを辛抱しながらの立食であった。
ザックに入れてきた焼酎をお湯割りに
して仲間たちと正月を祝う。まるで大人
の遠足のように食べて呑んで、増もな
い話で盛り上がるのもグループハイキング
の楽しみの一つといえる。

身体も温まったところで出発。奥貴船
橋から沢筋に入り、徒渉をくりかえして
谷道を通り、峠直下から尾根に取りつい
て滝谷峠へ登った。トレーニングを積ん
でいる中村さんや二宮さんは平気そうだ
が、女性陣は息を切らしていた。

滝谷峠からは二ノ瀬ユリ道へ。心配し
ていた凍結もなく、明るい気分で前後10
分程に降り積もった純白のスノーウエイ

を歩く。登山を始めて間もない柏木さん
は感激した面持ちで歩を進んでいた。本
間さんは山の先輩らしく、雪の武奈ヶ岳
や堂講岳の思い出話をしてくれた。

この日はやぶにおおわれた貴船山へは
立ち寄らず、惟高親王母君をまつる富士
神社を目指して二ノ瀬へくだることにし
た。見晴らしのよい伐採地にさしかか
ると、都富士と呼ばれる比叡山の形よ
が視野に飛び込んできた。景観のすば
らしさに仲間たちから歓声があがる。比叡
山の横奥には比良連山、目を転じれば京
都北山が山塊をなしている。

古都を見下ろし夢を紡いできた美しき
山々は、悠久の時の流れのなかに変わ
ることなく、山を行くわれらに何かを
語りかけているようであった。

(平成14年1月3日歩く)

▲コースタイム▼

叡電鞍馬駅(40分) 鞍馬寺本殿(40分)
鞍馬寺西門(30分) 貴船神社奥宮(10分)
貴船橋(1時間) 滝谷峠(1時間)
橋ノ水峠分岐点(1時間) 叡電二ノ瀬駅
▲地形図V2万5千:大原

神戸ルート

柴田昭彦

【神戸方面ルート】

● 神島中継所は、姫島（西淀川区）を指している（古谷勝「近畿における情報伝達の歴史的発展」その五「旗振り」近畿電気通信局経営調査室、昭和51年）。実際の地点は不明であるが家屋に櫓を設けたのであろう。

● 尼崎中継所は、辰巳橋（尼崎市・西淀川区境）付近で、尼崎の東端に位置し、民家の屋根を利用して旗振りをしたものと考えられている（古谷「旗振り」）。

● 武庫川（尼崎・西宮）中継所は、阪神本線武庫川駅の北の武庫川橋付近の武庫川堤にあったという。堤は周辺の平坦地より高くなっており、見通しもきいたよう

だ（古谷「旗振り」）。昭和56年12月6日、岡山への旗振り通信ルートの再現実験では、尼崎市西大島、成文小学校の横の堤防上で、ホイースカウト西宮地区ローパー隊員が旗振りを行った。

● 西宮中継所は、西宮市旧東町三丁目にあった。現在では、石在町の南部であり、東三公園の名称に名残をとどめている。昭和56年、岡山ルートの再現のためにローパー隊員たちが実施した聞き取り調査によって判明した中継ポイントの一つである。

● 東灘（灘・御影）中継所は、金鳥山（東灘区本山町、338㍎）付近にあった。東北の宮林署の火見櫓のある山上は旗振り

る。旗振り場は、櫓から少し下った標高370㍎付近であろうか。

★「六甲摩耶」の執筆を担当された西宮明昭山の会の代表・原水章行氏に、金鳥山の旗振り場についておたずねしたところ、次のような返信をいただいた（平成13年11月24日付）。「金鳥山の項を執筆したのは、当会の副代表の佐野悦男さんです。佐野さんは、地元岡本で、大正15年生まれ。現在も居住。77歳。元・本山中学の数学教師。」

「佐野さんが父と一緒にハイキングをしていた頃、『朽ちた元旗振場の小屋』が残っていて、父より教えられたとのことです。火の見櫓も同じ、とのことでした。」

「旗振場跡は下から最初の送電線がコー



金鳥山の火見櫓跡

が3㍎くらい盛り上がった（コブ）地点で、ルートが西の方へ方向を変える曲がり角のところに東へ細い踏み跡があります。現場はそこから約20㍎ほど入った林の中で眺望はなく、また建物の痕跡は何らありません。」

「火の見櫓の位置は、下から1番目の送電線と2番目の送電線の間で、2番目の送電線から下へ100㍎位の位置にあります。従って、まず下の送電線の手前に旗振場のあったコブがあり、下の送電線から150㍎位上部、上の送電線との間に火の見櫓があります。」

「3等三角点は下から2番目の送電線の上方60㍎、関電巡視道の入り口のすぐ上から尾根へ、現在ではヤブが切り開かれています。三角点は尾根の上であり、コーラスから少し離れている。」

★神戸新聞社編「神戸の町名」（のじぎく文庫、昭和50年）の本山町・本山南町・本山北町（4頁）の項目には、金鳥山の旗振り場の解説があった。ところが、その改訂版である、神戸史学会編「神戸の町名」（神戸新聞総合出版センター、1996年）では、旗振り場に関する記述は全て削除されてしまっている。

場と呼ばれており（神戸市教育委員会編「神戸の史跡」神戸新聞出版センター、昭和50・56年。「史跡と坂のまち 神戸散歩」、古代のノロシ場とも考えられている（田辺眞人「東灘歴史散歩」）。本誌45号に吉村氏によるガイド記事があるが旗振りにはふれていない。

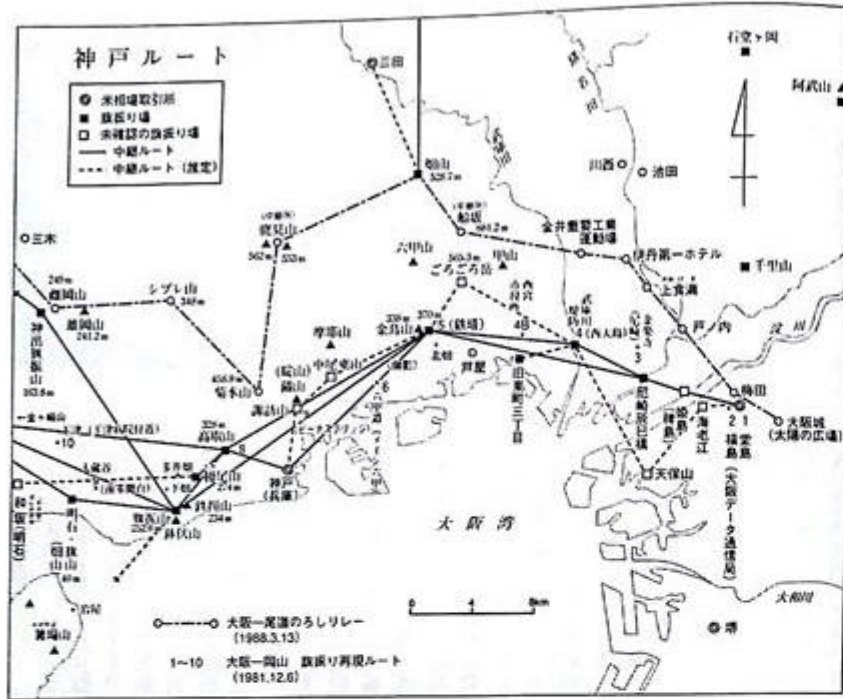
★角川地名大辞典の「金鳥山」の項目（小林茂氏執筆）には、「明治40年頃まで粗末な小屋があり、番人はふもとの北畑から通っていた」とある。明治8年頃に金長山と命名されたが、戦後は金鳥山に変わった。

★川上博「神戸背山風土記」（神戸新聞出版センター、1983年）に「旗振といわれる見晴らしのよいところに、望楼の鉄骨が今でも風雨にさらされて立っている」とある。この火見櫓跡の鉄塔は昭和初期の建設である。

★「六甲摩耶」（日地出版・ゼンリン、地球の風、登山ハイク、1999年、29頁）によれば、旗振り場は、櫓から「急坂を下った左手の次のコブの南端」で、さらに下ると水平道の分岐であるという。櫓は標高390㍎にあり、南へ下ると送電線鉄塔に出る。水平道の分岐には案内図があ

★山の中腹にある保久良神社のホクラは火倉からの転訛でノロシ台であったとも考えられるという（春木一夫「阪神間の謎」中外書房、昭和53年）が明確ではない。神社の境内付近は古代の祭祀の遺跡といわれ、磐境として祀った巨岩が点在し、石器や弥生式土器も出土している。樋口清之「こめと日本人」には、「保久良山から望遠鏡で米価を知らせる手旗を見ていた」とあるが、これは保久良神社ではなく、金鳥山を指すものだろう。

●兵庫中継所は、鋪山（中央区、地形図では粟山、292㍎）という説もあるが、小林茂氏によれば、諏訪山（中央区、151㍎）が正しいようである。昭和56年、岡山ルートの再現の際、落合重信氏は諏訪山のポイントに待機して実験を見守られた。「神戸の史跡」には「鋪山と市草山」の項で、「旗振通信を諏訪山で受けたというのは、あるいはこの辺りを指すのであろうか」とある。しかしながら、諏訪山から金鳥山は見えるが、鋪山からだとなら金鳥山は隠れてしまう立地にあるため、鋪山説は誤りであろう。筆者は、諏訪山を中継せずに、金鳥山から直接、兵庫の取引所や高取山に送信した場合もあったと



末期から大正初めにかけては、**樹尾山**（須磨区、274m）が旗振り場であったという。旗振山・鉢伏山あたりも古代のノロシノ場であったかもしれない、落合「地名にみる生活史」によると、鉢伏山を一名「火の山」と呼んでいる。「播州名所巡覧図絵」に三ノ谷の西に「ひの山」が描かれている（角川地名大辞典「鉢伏山」の項目）。三ノ谷

は、鉢伏山頂の南東方向の谷である。神戸女子大学史学研究室編著『須磨の歴史』（1990年）の見返し図には「はちふせ」の西に三の谷を挟んで、敦盛石塔の背後に「ひの山」が描かれている。鉢伏山の南斜面を指すように見受けられる。

【須磨の旗振山の謎】

★落合氏は須磨の旗振山に興味を抱かれ、『山陽ニュース』（昭和51年4月）を初めてとして、『埋もれた神戸の歴史』（神戸史学会出版部、昭和52年）、『日本地名ルーツ辞典』にも「旗振山」の記事を掲載している。

★「六甲山の地理」（2009頁）には「境川と三ノ谷（鉢伏山の西）との間に「ひの山」と呼ばれた尾根があり、地名から、太宰府から京へ急を報ずる狼煙台の跡ではないかとの説もある。この尾根を少し登った所に「旗振り山」がある。大阪堂島の米相場を急報する旗振り通信の場で、元禄（一六八八―一七〇四）のころから明治四〇年（一九〇七）ころまで利用された名残である（小林茂執筆）とある。角川日本地名大辞典の「旗振山」にも小林氏による同様の解説が見られる。なお、

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- 1 利尻・臼田・斜里・阿寒
- 2 ニセコ・羊蹄山
- 3 大雪山・十勝岳・幌尻岳
- 4 十和田湖 八甲田 奥十勝
- 5 八幡平 西十勝 十勝
- 6 釧路・早池峰
- 7 釧路 釧路山 釧路
- 8 黒海山
- 9 朝日・出羽三山
- 10 飯豊山
- 11 磐梯・吾妻・安達太良
- 12 磐梯・塩原
- 13 日光 奥日光 奥日光
- 14 阿蘇
- 15 越後三山 妙高 妙高
- 16 谷川岳 妙高 妙高
- 17 志賀高原・草津
- 18 妙高・戸隠
- 19 軽井沢・淡路
- 20 赤城・奥野・筑波
- 21 西上州・妙義
- 22 奥武蔵・秩父
- 23 奥多摩
- 24 大菩薩連峰
- 25 奥秩父 1 奥秩父 奥秩父
- 26 奥秩父 2 奥秩父 奥秩父
- 27 高尾・陣馬
- 28 丹沢
- 29 箱根
- 30 伊豆
- 31 富士・富士五湖
- 32 八ヶ岳・磐梯
- 33 美ヶ原・霧ヶ峰
- 34 北アルプス総図
- 35 白馬岳
- 36 奥穂高・黒部湖
- 37 駒・立山
- 38 上高地・穂・穂高
- 39 奥穂高
- 40 御嶽山
- 41 中央・南アルプス総図
- 42 木曽駒・空木岳
- 43 甲斐駒・北岳
- 44 塩見・赤石・磐石
- 45 白山
- 46 雲山・伊吹・御前
- 47 御在所・鎌ヶ岳
- 48 比良山系
- 49 京都北山 1
- 50 京都北山 2
- 51 京都西山
- 52 北摂の山々
- 53 六甲・摩耶・有馬
- 54 葛城高原・二上山
- 55 金剛山・岩湧山
- 56 紀伊山脈
- 57 大峰山脈
- 58 大台ヶ原 大台ヶ原 大台ヶ原
- 59 赤目・倶利伽羅高原
- 60 水ノ山 水ノ山 水ノ山
- 61 大山・蒜山高原
- 62 西添刺山
- 63 石鐘山
- 64 樺岡の山々
- 65 阿蘇・九重
- 66 祖母・嶺
- 67 奥久良 奥久良
- 68 霧島・阿蘇岳

（★印は新仕様の地図です）

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願い申し上げます。

※2000年度より「大雪山」「甲斐駒・北岳」「塩見・赤石・聖岳」「阿蘇・九重」を全面改良し、新刊として「霧島・阿蘇岳」を刊行しました。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238

支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011

（インターネットで情報発信中）
<http://www.maple.co.jp/>

●神戸中継所は、兵庫新川の米取引所（米商会所）を言い、現在の神戸中央市場付近（兵庫区中之島）にあったという（渡辺久雄「忘れられた日本史」158頁参照）。なお、『神戸米穀株式取引所史』（日本取引所研究会、大正2年）によると、同取引所は明治39〜大正5年には、水木通三丁目にあった。

●須磨中継所は、高取山（須磨区、長田区境、320・1m）または旗振山（須磨区、垂水区境、252・6m）と考えられる。高取山は、かつて神振山、鷹取山とも言っ

たが、毎日登山で有名で展望も開けている。旗振り場は山頂付近であろうか。また、旗振山は鉢伏山（248m）の背後にあり、三角点なので見晴らしもよい。玉起彰三『六甲山博物誌』（神戸新聞総合出版センター、1997年）には、長田区の民話を紹介して、高取山はかつては「タコ取り山」とも呼ばれたといい、旗振山の旗振場についてもふれている。

★長田区に伝わるタコトリ山の伝承は『神戸の町名』に紹介されていて、川辺賢武『神戸の町名物語』（神戸史談）二二三号、昭和48年7月）が出版である。不自

然な伝承だが、タカトリとタコトリが共通の言葉であったことを示しているようである（神戸の町名）。

★田辺真人編著『ながたの民話』（長田区役所、昭和58年）にも「タコ取り山」の話が載っている。田辺真人編著『神戸の伝説』（神戸新聞出版センター、昭和51年。新版、1998年）にも「蛸を取る山」がある。ただし、落合氏はタカとタコが音が近いところからつくった話にすぎないとしている（地名にみる生活史）。

●『神戸の史跡』によると、高取山を中継して、旗振山から西へ伝達され、明治



旗振山の説明板

筆者の調べでは、元禄期に大阪で旗振りがあつたかどうかは裏付けがとれていない。
★川口陽之氏の「赤石のくに」と、「垂水史跡めぐり」(垂水区役所広報相談課、昭和57年)によると、鉢伏旗振山から、明石の旗山や、神山の旗ふり山などに信号を送って、三木や、加古川・岡山に伝えていたという。
★旗振山の山頂の旗振茶屋の横に、現在、

設置されている説明板には、「こ、旗振山は、その名の通り昔、旗振通信をしてきた場所である。江戸時代から大正初期電信が普及されるまで、こ、で畳一畳位の旗を振り、大阪堂島の米相場(米の値段)を加古川、岡山に伝達していた中継点であつた事から「旗振山」の名が残っている。創業昭和六年三月 旗振茶屋」とある。
★川上博「神戸背山風土記」には、1983年当時の旗振山の記録があり、「揭示によれば、旗振山は海抜約二五二・八メートル。江戸末期、大阪堂島の米相場が播州や岡山地方の米の出荷日に大きく影響していた。相場は飛脚によつて送られて来たが、慶応元年(一八六五)ころ、ここを中継所にして大きな白旗で伝達するようになった。大阪の堂島から武庫川堤、そしてここ旗振山で中継し、加古川の日岡山を経て、赤穂や岡山まで信号を送っていた」とある。ただし、筆者の調べでは、日岡山には旗振り伝承は残っていない。

★朝日新聞神戸支局編「兵庫の素顔」(海文堂書店、昭和52年9月)には、「旗振り山」の項目(178頁)には、「旗振り山」の項目(178頁)には、執筆者は新

聞記者の加藤千洋)がある。この本は兵庫の風土に根付く人々の人生を探ったもので、昭和52年1〜6月の朝日新聞への連載をまとめたものである。「旗振り山」の記事を見ると、マイク・ロ通信との関係が強調されていて、渡辺久雄「忘れられた日本史」の「のろし山」の記事と落合重信さんの研究によつたことが読み取れる。旗を振った人は、旗振り師という特殊技術者として紹介されている。この本の中に次のような記事が見られる。
「六甲山系のあちこちで、土地の古老たちが「ここが旗振り山だった」と証言する場所がいくつもある。いま、マイク・ロウエーブのバラボラアンテナが立つ六甲山、広峰山、石堂山はいずれも旗振り山だったといわれる。」

★しかし、広峰山(姫路市広福山、240m)と石堂山(上郡町・備前市境、地形図では石堂丸山、422・2m)に旗振り伝承があるかどうかは資料がなく、不明である(上部町にたずねたが、教育委員会では掌握していない)ことであつた。備前市からは返答がなかった。この二つの山は渡辺氏の本ではマイク・ロウエーブコースとして紹介されているだけで、手旗信号コー

スは全く別の地点になっている。当時、具体的な旗振り地点に関する情報は渡辺氏と落合氏のものしか公表されていないので、新聞記者が独自に現地で聞き取りをしたのでなければ、山名の共通性から判断して、記者の誤解(渡辺氏の本の読み間違い)によるものと思われる。
★「兵庫の素顔」の179頁の旗振茶屋の写真の解説には次のようにある。「堂島の米相場を知つて播州、岡山などでは出高目を調整していた。須磨旗振山頂には茶屋が一軒、立て看板には「律令時代にはノロシ、かがり火を上げ、九州と大相対結ぶ信号所の一つだった」とあつた。」
★旗振山の名称が相場通信の場所であつたことに基づくという事は、前記の通り、現地の案内板にあることから有名な角川地名大辞典をはじめ、「兵庫県の山」「大阪周辺の山を歩く」(山と溪谷社)、「関西ハイキング」(JTB)の各情報帳(など)須磨アルプスを案内するガイドに必ず掲載されていて、揺るぎのない事実として紹介されてきている。ところが、それに疑義をはさむような証言が郷土研究誌に掲載されているのである。

★「歴史と神戸」第16巻第3号(昭和52年5月)には、鷲尾治兵衛「旗振山について」があり、昭和51年の聞き取りによる、古老の談話が載せられている。それによると、明治34〜39年頃、多井畑の宮慶兵衛が、山小屋を設けた梅尾山頂(旗振りのために開いた平地があつた。現在、展望台のある地点であろう)へ毎日登り、高取山から受けて、明石の和坂(「わかさ」とも読む)へ送っていたという。地元では梅尾山をソバトリヤマ(相場取山)と呼んでいた。兵衛氏が止めたあとは、東須磨の人がやっていた。下畑の林邦松(当時77歳、明治30年生まれ)の証言によると、「下畑の旗振山を、下畑では古く鯛取山という。これは鯛取りに出た漁師が目じるしにしたから、とか。旗振山の名は、戦前、鉢伏山に航空燈台が建つたとき、この上に旗を立て、飛行の便に供したからである。米相場には何の関係もない」という。
★これに対して、落合重信氏は、旗振山の呼称は大正期にすであるので、古老の記憶の誤りであり、鯛取山は古くからの旗振り場であつて、のちに梅尾山に移つたのであろうとされた(地名にみる生活

史)、神戸の歴史 研究編「後藤書店、昭和55年)。
★1万分の1地形図「須磨」(国土地理院、昭和51年編集、平成7年修正)には、下畑海神社の東に鯛取山(1003m)の記載があり、旗振山とは全く別の山である。しかも、航空燈台で旗振りをしたのなら、鉢伏山が旗振山になるはずであるが、そうはなっていない。筆者は下畑の古老の証言があやふやであることを示すように思うが、いかがであらうか。
★川口陽之「垂水郷土史」(垂水区役所、平成3年)には、「下畑の浦島物語は、この乙姫神社の北の「鯛とり山」(地名現存)で浦島太郎が大きな鯛を釣り、その鯛を助けて竜宮城に行き、この大きな岩の上で目を覚ました」と云うものです」とあり、下畑乙姫神社(市販地図には天高大蔵神社とある)には御神体の大きな岩盤がある。

★和坂で実際に旗振りが行なわれたかどうかは裏付けがとれていない。「兵庫の街道」(神戸新聞社、昭和49年)(98頁)によると、坂の榎木林に古キツネがカニの面をかぶつて出沒、旅人を襲つたため、大ガニがキツネを倒したが、今度はカニ族

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/日6判 350頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 花の山に行く** 松本雪枝 著
3刷発売中/上製本/日6判 356頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 山旅素描** 足立真一郎 著
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1835円 山岳画家足立真一郎の珠玉の画文集
- 第8巻 旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/日6判 368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を収めた
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
3刷発売中/日6判 336頁/定価1632円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第13巻 甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/日6判 360頁/定価1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/日6判 360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9版発売中/A5判 320頁/定価1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷日6判 354頁/定価1680円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
2刷A5判 340頁/定価1800円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
日6判 320頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 288頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 387頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社**

●価格はおおむね税別 ●価格の訂正は送料当社負担

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13

電話/Fax 03-3915-8110

原価 00130-9-146915

がおこって村人を苦しめた。そこで弘法大師がカニを池に封じ込めたという話が伝わる。以来、坂を蟹相坂(かにがさか)と呼ぶようになったという。

★昭和56年に岡山ルートの再現実験を行った吉井正彦氏によると、「須磨の旗振山に關しても、これは米相場のための旗振りではなかったのでは、という疑いもあり、別の山だったとの証言や裏付け史料を押さえています」(平成12年11月の返信による)とのことである。これは、先述の蟹尾治兵衛「旗振山について」等によるものであろうか。

★唐突だが、旗振山の呼称が相場通信とは関係ないという例を一つ紹介しておく。「沢谷」4号(西尾寿一編集、1978年)の336頁に「旗振山」がある。糸魚川市の海谷山塊の阿弥陀山(1502m)の西にある1240mの山で、「別に名前がなかったのを頂上とキャンブで手旗信号をしたことから旗振山と命名した」(高田高校山岳部誌)というものである。インターネットの検索で出てくる新潟県の旗振山も同一の山と思われる。

●中谷吉次郎編「大蔵谷史」(昭和35年)には、「次に清水、畑山となっておりま

すが堂島の米相場が立った時代より旗振り場があって須磨鷹取山旗場から須磨旗振山、今の山電展望台の旗場へ、それより大蔵谷旗山へ、そこから魚住村金ヶ崎へ、その日の相場を旗を振り廻して市場の状況を送り知らせた今で言うなら旗の信号であります」とある。この中の「須磨旗振山、今の山電展望台の旗場」とは、旗振山(2522.6m)を指すものであろう。つまり、旗山で旗振りをしていた古老の証言から、江戸時代より「高取山、須磨旗振山、大蔵谷旗山、金ヶ崎山」という通信ルートが用いられたことがわかるのである。筆者の推定ではあるが、須磨旗振山で旗振りをしていたのは、一番遠い下畑の人ではなく、より近い塩屋か西須磨、一ノ谷のいずれかの人だと考えれば、下畑での証言が得られない理由が納得できるのではないだろうか。

★須磨の旗振山にまつわる疑問は、もう今ではとても解決できないであろうと思われる。ただ、旗振りの条件は整っており、筆者には、旗振り場であったことを否定する根拠に乏しいと思われる。先述の「大蔵谷史」の他、次の資料が「鉢伏山」「一の谷」と記述しているのは、肯

定材料と思われる。

★兵庫東加東郡社町の上月輝夫氏は、大阪から、甲山、六甲山を経て、須磨の鉢伏山、神出の雄岡山、志方の城山、社と伝わってきたという聞き取り結果を公表している(詳細は次回以降に述べよう)。

★姫路歴史研究会編「姫路の山々」(中島書店、1996年)には、「別所村史」を典拠として、大平山の旗振り信号所からは、快晴のときは金ヶ崎山を越えて、一の谷の信号が望見できたことある。一の谷の信号所とは、須磨旗振山に他ならないだろう。

★梅尾山から和坂への通信が事実とすれば、それはおそらく終点であって、姫路・岡山方面への中継点とはいえない。高取山からは直接、金ヶ崎山へ送信して、姫路・岡山方面へ伝えた他、須磨旗振山へ送信して、明石旗山を経由したり、旗振山から神出旗振山(66号に紹介)へ送信して、志方城山から社・三木へ送信するルートや、淡路島・徳島方面へ通信した時期もあったと考えられる。年代や業者により、各地から分岐して、さまざまなルートが用いられたために真相がわかりにくいであろう。

湖北の霊峰・天吉寺山へ

てんきち

湖北

磯部 純

近畿は梅雨に入り、天候が安定しない。天吉寺山へは前週の日曜日に登る予定だったが、気持ちの整理がつかずのびのびにならなかった。実をいうと、この日は鈴鹿の横根連峰に登りたかったのだが、だれもいっしょに登ってくれる人がいなかった。万々を考え、地形図に破線路がしっかり載っている天吉寺山を選んだ。

浅井町野瀬の神社脇から大吉寺の参道に入る。民家過ぎて杉木立のなかの谷沿いを走り、大吉寺の駐車場へ着いた。上の広場の案内板にはこの寺について、「暦応元年（1388年）の勧進帳によると、大吉寺は、865年に比叡山の高僧安然により創建された。1525年の六

角定頼と京極家の争いや、1572年の織田信長の侵攻による兵火で衰退の一路をたどり、現在では天台宗寂寥山大吉寺の一寺院が遺存するのみになっている。その遺構は標高約650m程の所にある。仁王門・本堂跡が見られ、県の指定史跡になっている」と記されている。また、山名の天吉寺山は、大吉寺の前身が天吉寺であったことから名付けられたものだという。

駐車場に車を置き、大吉寺案内板のある広場から谷に沿って登って行く。谷道にはユキノシタが花を覗かせていた。暗い杉林の谷道を登って行くと、すぐに谷分岐に着く。深谷と聖谷の分岐で、その

ジグザグを繰り返して高度を稼ぐと林が切れ、段になった所が現れる。雑草が生い茂り、それをかき分けて登るのも大変なやぶ道だ。どうやらそこが仁王門跡のようだ。大吉寺跡が近いのか、少し登ると道脇に手洗鉢が置いてある。だれがこんな所にとするほどに立派な石造りの手洗鉢だった。さらに登ると壁面とした杉林があり、平坦な所へ出た。ここが本堂跡である。本堂跡の北側には平治の乱の後に置かれたという源頼朝の供養塔が立っている。近江在銘最古といわれる石造り宝塔は見逃してしまった。

しばしの間、歴史に没入した後出発する。古道上人の入定窟の右手を登り、上へ出ると雑木の林。そこから上の林は踏み跡



も定かでない。斜面を上へ上へと登って行くと、やがて尾根にのる。この尾根は、戻ってきたとき、尾根からくぐる地点がわかりにくいのか、何かのテープが下りの地点の木にぶら下がっていた。たしかに、上の尾根からは踏み跡がないので、どこから西の斜面へくぐったらよいのかわかりにくい地点ではある。

稜線を北西へ向かう。両側の木が高く葉も茂り、展望は全くきかない。時折、天吉寺山山頂が木の間越しに見え隠れする。尾根にはやぶが少なく踏み跡もあって、比較的歩きやすい。遠くにウグイスの鳴く声があったと思うと、すぐ頭の上からホトトギスがうるさいほどに雨高く鳴っていたが、やがてその声も遠くへ消えてしまった。

雨上がりだったが、道があるので大丈夫だろうと、雨具を着けなかったのが大失敗。仁王門跡あたりで雑草をかき分けて歩いたとき、露に濡れて下半身はビショビショ。雨具を着けるタイミングを逸してしまったので、今さら雨具

大吉寺山門前



中央尾根を登ることになる。道はジグザグに切れられ、思った以上に急だった。道脇の斜面にはコアジサイが綿毛のような花を付けていた。尾根に取りつくと杉林はなく、松が混在する雑木林へと変わる。前年の秋にこの山に登った友人が、「松茸があったら山頂で焼いて食べた」と嬉しそうに言っていたのもうなづけるほど、立派な赤松をあちこちに見かける。

のズボンを着ける気にはなれない。そのまま我慢して登ることにしたが、纏わりつくような濡れたズボンの感触は、例えようもないほどに気持ち悪い。

山頂周辺の急坂を登ると傾斜はゆるくなり、静かな雑木の林が続く。汗がしたたり落ち、拭おうと腰に手をやると「ない！」右腰にぶら下がっていたはずのタオルがなくなっているではないか。「タオルはしっかり結んでいなければ落とすよ」と、妙里山へ登ったときに友人に注意されたのに、またまた同じ轍を踏んでしまった。山頂間近だったがあまりに

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンの
からデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372



天吉寺山山頂

も悔しく、急坂の下までタオルを探して戻ってみたが、見つかることはできなかった。泣く泣く諦め、今くだった道を登ることに専念する。落としたのは急坂の途中だと思っていたが、一週間後の新ハイ村田さんの天吉寺山例会に参加した彼女に聞いたところ、大吉寺跡から稜線に上がって間もなくの所にタオルが落ちていたと言っていた。腰にぶら下げたタオルが落ちたのに気がつかないとは、本当に自分自身に腹が立つ。

下山路は同じ道をくだりたくなかったので、「近江百山」に載っていた道を探しながら登ったのだが、それらしい目印もなければ踏み跡も見つけることができない。ゆるい傾斜の林のなかを木を滑り廻り込んで登って行くと、やがて山頂に着いた。

山頂広場は狭く、10人も坐ればいっぱい

「松尾尾根をくだるつもりで」「近江百山」に載っている下山路を探しながら登ってきたが、見つかることはできなかった」との返事。だれしも同じことを考えるものらしい。そこで、「自分も松尾尾根をくだるつもりですが、1人なので万一のことがあると困るので、どうしようか迷っていたところですよ。いっしょにくんだりませんか？」と誘うと、快く承諾してくれた。そんなわけで、いったんくだった道を再び登り返し、3人で山頂へと向かったのだ。これで何とか松尾尾根をくだることができると、天に感謝をしなければならぬ。

山頂で彼女が食事の準備をする間、彼と2人で地形図に載っている破線路の入口を探しに稜線を北へくだる。始めは踏み跡もテープもあつたが、鞍部までくると一面に灌木のやぶ。とても足を出せる状態ではない。それでも何とかやぶをかき分け、破線の下り地点あたりまで行くことができたが、道跡はやぶでわからぬ。結局道は消えてしまい、こちらからくだるのは無理だと諦めて山頂へ引き返す。おかげでズボンばかりでなく、シャツまでドボドボに濡れてしまった。

いになってしまいうる所だ。伊吹山とその北尾根、虎子山・ブンゲン、美濃の目月山までも望めると聞いていたが、谷を挟んで笠岩山(点名吉根村)は垣間見ることができたものの、それ以外は濃い木の葉に遮られ、全く姿を見ることができない。近くの木には京都山の会と大阪独標山の会の山名標識が下がっていた。三角点は広場の中央に立っていた。きれいな標石で真南向き、2等三角点である。少し大きいと思いついてみると、頭は南北が標準より5m長いだけだった。少し早かったが食べるものを食べた後、北の稜線の様子を探ったがやぶが多すぎる。地形図にある破線のトラバース道は消えてしまっているかもしれないと思いついて戻って途中から松尾尾根へすることに。単独なので、道の無い所で万一のことが起こったら困る。そのまま登った道を戻るか松尾尾根に踏み込むかと迷いながら、尾根のくだりの取りつき点で尾根の様子をうかがっていると、ガサゴソという音。一瞬、クマかとドキッとしたが、よく見ると男女2人が登ってくるではないか。あいさつした後「どのルートをくだる予定ですか？」と訊ねると、

彼らが食事を終わるのを待って、下山とする。登ってきた尾根を少し南へ戻り、標高点703mへ至る尾根をくだるのだ。先ほど確認していた尾根取りつき地点から西へくだると、尾根は広くなり、ミズナラやコナラの多い雑木の疎林になった。傾斜もあまりきつくない、ササが膝ぐらまであるとはいえず、快適な尾根ぐらだった。始めはあまり信用されていなかったようだが、私が先に立ってくだると彼らも後に続いてくる。彼のほうが時折地形図を出して、くだる方向を確認しているところを見ると、かなり地形も読めるようだ。

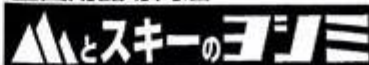
方向を定めくたで行くと、やがてV字に掘れた道らしいものに出会う。これが地形図にある破線路なのだろう。しかし、その道は方向違いの方へくたっていくこともあるので、道に関係なく地形図と標石を頼りに斜面をくだることにした。標高点703mあたりで、道らしき溝はどこかへ消えてしまいが、そこで黄色のテープに出会った。彼女の顔に初めて笑顔が浮かんだ。男2人の説得力を全く信用していなかったに違いない。送電線鉄塔近くになって、三度溝が姿を現し、そ

私達におまかせ下さい。待っています！

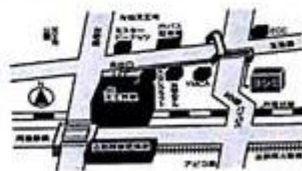


詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店



〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

れをくだると送電線鉄塔へと出た。この日、この場所が登り出して初めて下界の風景を眺めることができる場所だった。尾根にのびる巡視路をくだり、標高点550mあたりで破線路が右にくだるのを見て、左の尾根へくだる巡視路へのおそらく右への溝道をくだれば、野瀬の神社へ出るのだろう。巡視路は新しく整備されている道だったが、勾配は急だ。尾根をくだっていくと、やがて止之森神社の横手へ出た。約1時間15分のくだりだった。少し休んで行くと言っていた2人と神社で別れ、階段をくだると駐車している広場のすぐ上に出た。

2人に出会えたおかげですばらしい自然林を満喫できたが、地形図の破線路は、必ずしも生きていないことを痛感させられた山行だった。

△コースタイム▽

- 野瀬大吉寺駐車場(50分) 手洗鉢(10分)
 - 大吉寺跡(20分) 稜線(1時間10分) 天吉寺山(1時間15分) 止之森神社(5分)
 - 野瀬大吉寺駐車場
- △地形図▽2万5千 虎御前山

(平成12年6月10日歩く)

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第31回)

平成7年北海道への夏の山旅

坂井久光

函 岳

平成6年は「京都府の山」(山と溪谷社の執筆調査のため、夏山に行けなかったが、この年は支障なく、1等三角点研究会会員の山形氏と京都山の会の山崎大造氏と3人で北海道へ行った。

7月7日発のフェリーに乗り、11日早朝小樽港に上陸した。山崎氏は社用があった別れ、2人で国土地理院へ行き、「点の記」の取得と目的の山の測量情報を職員に訊いた。院内の食堂で昼食後、国道231号線を北上して厚田村に行き、宮林署を訪れ、林道の鍵を借りて公園で車泊した。

12日、8時30分出発。曇っていたが厚田川沿いの車道を走り、発足の先で左俣

林道に入った。138号地点で安瀬林道へ入って終点で駐車。9時30分に出発し、谷沿いを少し通って対岸の支尾根の踏み跡(標識あり)の急坂を尾根に登り、やぶのなかに切り開きのある尾根筋をたどって安瀬山(654号)に13時45分登頂。展望なく2人で万歳三唱。撮影後下山。下山後、浜益温泉に行き泊まった。

13日、7時頃出発。国道を北上して苦前町で左折し、東進した。土別峠を越え、土別市から国道を北廻りで美深町富岡のJRはつ駅の北側の車道に入った。パンケ川林道を走り、三股で右折して中の沢と右の沢の中央尾根を走る林道を北上した。歌登町への峠に着くと立派なゲ



ト小屋があった。左折して山腹を捲いて走り、無線塔の立つ函岳(1129号)に向かった。100号前まで車道が通じ、山域内に入ると無線塔の真手に点標があった。展望良好で前方に函形の岩があり、これが山名の由来となったのであろう。などらかな稜線は、冬期スキーヤーの的となり、付近の人々に親しまれている。その夜は美深温泉に入浴後、キャンプ場

で車泊した。

14日、9時30分出発。国道を北上し、恩根内大橋と小車大橋と大塩川を二度渡って中島で左折。オルマナイ川の林道を西進して小車峠を越え、国道の佐久橋近くで大塩川に合流する安平志内川沿いの道に出た。現在建設中の朱徳内湖の路の台に至る林道を沢沿いに10数分走って、流沢山林道の分岐を左折し、すぐの広場で駐車した。その先の林道はやぶになっていて車は無理だった。11時45分出発。ブル道状の切り開きを約2分半登って、滝沢山(651号)に登頂。一帯はエゾアサミの草むらで、山形氏がなぎ倒して点標を発見。早速写真に撮り、小越後下山。美深温泉に戻り泊まった。

15日、国道40号線を北上して音威子府村の物満内左折。物満内川沿いの道を南下してヒスイ橋で駐車。鬼刺山(1等点)を目指して支流を沢登りした。前回は沢雪期で凍だったが、川石が水舌で滑って難儀する。また流も多く、山頂直下のネマガリダケのやぶにも悩まされた。300号手前で時間を気にする山形氏から撤退しようと言われ、下山した。駐車地へ17時前に着き、天塩川温泉に行き入浴。

その後、美深温泉キャンプ場に戻って泊まった。

16日、6時出発。日高の平取温泉へひたすら走って、夕刻山崎氏と再会し、野営地で泊まった。入浴後はバーベキューでの夕食。

17日、6時出発して貫気別山(一等点・1318号)を目指した。ヌキは「濁り」で、別は「大河」。林道終点の500号程手前で、崖崩れのため駐車。雨具を着けて出発。1073号の独標(山頂まで1.5km)まで登ったが、やぶと雨が激しくなり撤退した。その夜は沙流川温泉で汗を流し、日高キャンプ場で泊まった。

18日、山形氏と別れ、山崎氏と旭川に行き、美映川の河原で車泊。

19日、山崎氏の社用を済ませた後、13時に旭川駅へ河井さん(京都山の会)を迎えに行った。比布町から上川一層雲峡―三國峠―三股―二十の沢出合でキャンプ。近くの岩間温泉の露天風呂に行き一浴後、キャンプファイヤーを楽しんだ。

20日、6時すぎ出発。石狩峠からユニ石狩岳をビストン。エゾツツジが満開。その後音更山(1962号)へ。途中コマ

クサやヨツバシオガマ等が美しく咲いていた。私は二度目だった。尾根続きの石狩岳をビストンし、シュナイターコースを通過して下山した。キャンプ場に戻り、岩間温泉で汗を流し、野営した。

21日、西クマネシリ岳に登った。22日、5時28分出発。十六の沢林道終点で6時15分駐車。天狗山9時30分通過し、ニベソツ山(2013号・2等三角点)へ登頂した。展望は絶景、名山の資格あり。アツマギク・ミヤマオダマキ・チシマジキョウが美しく咲いており、登山者も10数人いた。16時に駐車地へ下山した。岩間温泉で汗を流し、キャンプ場へ。

23日、6時頃出発。三股から層雲峡(ツウは「滝」、ウンは「ある」)へ。銀泉台車道に入り終点に駐車して赤岳(2067号)へ。途中コマクサの台地や雪渓もあり、人も多くコマクサの大群落があった。今夜は天塩山荘で山形氏と会う約束である。それまでに近くの糸魚岳を試みたが、林道の分岐が多くて見極めが難しい。あきらめて山荘に直行した。すでに山形氏が先着しており、焼肉の準備をして待っていてくれた。この晩は久しぶりに美味しい料理を十分食べ、ビールも飲み、

楽しい夜を畳の上で過ごすことができ
た。

24日、山崎・河井組は天塩山(1588
8)へ、私と山形氏は糸魚岳へ。奥土
別の北一線車道を北進し、砂防ダムの上
の分岐を右折して、すぐの分岐を川を渡っ
て進んだ。悪路で峠の手前500mまで
しか入れず駐車。峠の三差路(北へ越え
ていた)を右折し、切り開きの尾根をた
どって糸魚岳(914)山頂へ着いた。
小広い切り開きだが、周囲は林で展望は
よくない。東や南は断崖となっていた。
これで五三〇座だ。10時頃の登頂で、小
憩後昼前には下山できた。土別市に出
国道40号線を北上。音威子府の咲米で右
折し、咲米峠を越えて歌登町に行った。
食料を買って歌登キャンプ場へ。近くに
朝倉温泉があり、入浴後車泊。

25日、8時出発。志美宇丹の北栄橋で
左折し、川沿いの林道を登って峠に8時
44分着いた。駐車して登路を探す。長い
やぶの切り開きの登り下りを繰り返して、
歌登山(573)に12時13分登頂した。
山頂は小広く鉄の櫓が建っていた。天候
は時々雨で、展望はよくなかった。往路
を下山し、峠に14時18分着。歌登キャン

プ場で入浴してまた一泊した。

26日、早朝出発して乙部に出てオホー
ック海岸沿いに北上した。枝幸町から浜
頓別町に出た。常盤橋から宇留丹砂金堀
場を通過してウツタン川林道を進行し、熊
の沢と嵐川他一川との合流点で駐車。珠
文岳の登路を偵察してから宇留丹に戻り、
下頓別経由、中頓別の知駒で右折して知
駒峠(知駒岳532・2等三角点)に登っ
た。間寒別に下り、北大演習林事務所
立ち寄ってイソサヌメブリ(磯根岳・5
81)の登路を訊ねたが、道は全くな
いとの返事でやむなく退散。国道に出
南下。天塩中川のぼんびら温泉に行き入
浴後、昼食休憩。久しぶりに来てみたが、
建物がすっかり改築され、「アクアリス
ウイング」と名も変わっていた。昔世話
になった副所長も定年でやめ、女主任が
残っていた。国道をなおも南下して咲米
で左折、北見道路を経て峠を越え、歌登
町のキャンプ場に戻って泊まった。

27日、5時25分出発。歌登町で左折し
て十五線経由、二十線で右折し、墓場で
5時53分駐車。林道を登り、終点から植
林地の踏み跡をたどり、ネマガリダケに
ブドウズルが巻きついており、低いはや

ぶのために苦勞し、汗を流したすえ、新
田差尻(1等点・447)に8時50分登
頂。展望はかなり良好。11時駐車地に下
山。歌登温泉で入浴昼食後、雄武町の日
の出岬キャンプ場に行き泊まった。

28日、朝から雨で停滞。
29日、6時出発。国道238号線を北
上して幌内橋で左折して牧場を通り、幌
内川沿いに走った。中幌内で左折、落船
山林道に入る。4・5時走った地点に駐
車。小谷沿いのブル道を登る。後でわか
ったが、50分程先が林道分岐で、かなり先
まで車が入れた。道がなくなり、支線
へやぶを漕いで踏み跡を見つけて8時30
分、峠に出た。ここからははつきりした
山道となり、稜線を伝って登った。いく
つか小ピークにだまされ、シラカバ林の
ネマガリダケの切り株道をつめて落船山
(525)の山頂へ9時37分に着いた。
周辺は林で展望はよくない。ヤナギラン
が咲き乱れていた。山形氏から突つかれ
て一句。

落船や登頂祝うヤナギラン 霊峰
(次号へつづく)
(文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。)

奥能勢を歩く

みくさやま

三草山から屏風岩

びょうぶいわ

コースタイム 阪急梅田駅(電車22分)→川西能勢口駅(3分)→山下駅(バス35分)→森上
(22分)→岐尼神社(30分)→岩坪古墳(1時間)→三草山(50分)→田中庭園(10分)→赤澤墳
神社(30分)→東光寺・屏風岩(15分)→北田原バス停(バス40分)→川西能勢口駅(電車20分)
→梅田駅(徒歩約13分)

中村敏文

都心より離れた大阪北部の奥能勢も近
い。阪急梅田駅を8時20分発で川西能勢
口駅へ、能勢電鉄に乗り換えて山下駅9
時30分発の森上行バスに乗車。20分も国
道173号線を走れば森上に到着する。

① 岐尼神社(能勢町森上)

森上から西へ大明山南麓へ行くと近
在十一ヶ村を氏子とする明治の郷社で、
岐尼大明神を祭祀していた式内社比定の
岐尼神社が鎮座する。延暦元年(782)
の鎮座以来、代々の勧願所であったと伝
えられ、現祭神はニニギノ命と春日神の
天兒尾根命と多田大権現の源満仲であ
る。

神社の創始は不詳だが、根根庄内の今
西付近に庄園の鎮守として祭祀され、多
田院の勢力浸透につれ森上へ移されたと思
われる。現在の氏子圏は福地・片山・
平野・柏原・平通・垂水・今西・森上・
大里・米橋・神山の十一大字(村名)で
ある。

明治四〇年に神山の八幡社を始め二十
四社を合祀し、社家として森上の祝部、
今西の森脇の二家が祭祀を継承してき
た。

天保八年(1837)の能勢騒動では、
幕府代官に対して当社を拠点に反抗した。
府指定民族資料の能勢浄瑠璃は一九世紀
初期の文化年間から盛んになった。その

三草山登山口



伝統は村々で代々継承され、盆踊りも浄
瑠璃音頭を受け継いでいる。1月の十日
戎祭、10月の渡御式、および地車・郷太
鼓の出る秋祭り、奥能勢第一の賑わい
となる。

② 岩坪古墳(能勢町神山)

岐尼神社から南へ向かい田園地帯へ入
ると、南西方向に三草山が見え、神社か
ら10分で阪急アマンドバスの福地口バス
停。西方へと方向を変え、田園地帯を10
数分も行くと、神山口バス停に着く。
バス停から案内板に従い、左手の丘陵



三草山・屏風岩付近略図

490)、芳寿和尚が三草山清山寺一坊の自雲庵を再興した寺で、清山寺より移した観音堂と文和三年(1358)銘の宝篋印塔がある。現在は曹洞宗の大屋根の本堂、境内には十三重石塔などが見られる。

へ雑木林をぬう小道を10分余り上がると岩坪古墳へ着く。丘陵の北側斜面に築かれた奥行5段、幅と深さが2段の両袖式石室が、平板な岩で組まれた古墳である。昭和二六年からの発掘調査で、六世紀末に築かれ七世紀中頃までの追葬の跡を残している。土器類・水晶製切玉・ガラス製小玉や鉄製品などが出土した。古墳からの眺望は北側が開け、長谷川・山田川流域の集落や複雑な能勢山地が一望できる。景色を楽しんでからくだる。バス停へは急坂もあるが10分足らずで、車道を西へ歩き神山の集落へ入ると、バス停の先に慈眼寺がある。延徳二年(1

③「ガマ」を隠す長谷の棚田(長谷) 慈眼寺から山間の集落を抜けて土井所を過ぎると、右手に長谷の棚田が見える。長谷川の右岸から高度を上げる棚田は見事で、「ガマ」という独特の仕組みがある。降水量の少ない能勢奥地農民の汗の結晶ともいえる貴重な資産で、山水や梅雨期の水を棚田の地下へ抜けさせて溜え、旱魃時に利用するものである。

④三草山(能勢町・猪名川町境) 下所の集落からテマンドバス路線は右へ廻り長谷へ通じるが、美濃谷バス停

から屈折する道を上がり切ると、七木の道が交錯していた才の神峠である。昔の交通の要所を物語る奥能勢最古の道標と、近世の庚申塔や地蔵石仏、経文を刻んだ石碑類が立ち並び、三草山への木製道標がある。「三草山〇・六」の道標に従い、見通しのない雑木林の山道へ入る。予想したより急坂もあり、海拔564段の山頂まで早い者でも20分かかる。山頂は三角点を中心にこじんまりとした広場で、桜なども植えられている。南側の展望が抜群で、仁部池が眼下に見え、棚田の集落が点在している。猪名川流域の能勢平野の先には、東六甲と五月山連山が望見できる。木の間越しの西方には大船山、東方には剣尾山がそびえ、北方には高岳が遠望できる。三草山は猪名川と支流の大路次川の分水嶺をなし、美敷売の神のいます山と言われた。「住吉大社神代記」に「那河の源流の一つ美敷売川は「流通美敷売山中」と記され、三草山は昔の美敷売山と考えられる。「摂津名所図絵」には敏馬山とある。三草山には古代から別称三草寺の清山寺があったが、元亀三年(1572)の

兵火で焼失し、山麓の神山へ再建された。「摂陽群談」には推古天皇の頃に日羅が三草山を開山し、貞観一四年(872)には熊野三所・白山・立山・吉野の六所権現を勧請し、山麓庄園の鎮守神としたとある。神宮寺の清山寺は信仰を集めて栄え、「摂津名所図会」に僧坊四十九とある。

三方が雑木林で風を遮り、昼食休憩には落ち着いたけっこうな山頂である。才の神峠への下りは木の階段を注意すれば10分ほどで楽にくだる。峠から車道を南へ少しくだると猪名川町観並の山間地帯

に入る。15分もくだると旧仁部村の仁部池で、観並川に沿って南へ行くと観並の集落へ着く。

⑤田中庭園と素盞鳴神社(観並) 観並バス停のすぐ南に猪名川町文化財指定の江戸時代作庭の田中庭園がある。古文書を多く残している田中家はこここに生活しているが、許可を得ると見学できる。南面する母屋の山王山を背にした簡素な庭園で、近世の富裕な農家の客人をもてなすに適した庭園である。

田中家から15分ほど行くと左手に観並の氏神、素盞鳴神社が鎮座する。祭神は素盞鳴命と磐田別尊で磐石とした鎮守の森が社をおおっている。当社も八幡社であるが、摂津源氏発祥の地と言われる能勢地域には八幡神社が多い。橋原田中廻りの室町時代建立の一間流造の立派な本殿を残す八幡神社など、応神天皇と多田源氏の祖先(源満仲)をまつる神社が多い。

⑥屏風岩と東光寺(北田原) 素盞鳴神社から観並川沿いに南へ30分

余り行くと屏風谷バス停がある。猪名川との合流地点の左岸は、高さ30段の奇岩が絶壁を形成する屏風岩で、男性的な山麓と女性的な静かな清流が調和する景勝地である。春秋の行楽や夏場のアユ釣りには多くの人が集まり、道路に面して薬草風呂と季節料理を売り物にする岩屋館が営業を続けている。屏風谷バス停の少し南に、木喰明徳上人の木彫像を残す浄土宗東光寺がある。行基菩薩が開いた古刹で、木喰上人彫刻の「笑いの木仏」を安置する寺である。兵庫県の指定文化財の木仏は立木仏の子安観音、および地獄の白鬼・猿頭河婆式など十四体がある。木喰上人が当寺で一日一休ずつ彫刻した二十六体の残りは、上阿古の毘沙門堂と万善の天乳寺にまつられている。

木喰上人は22歳で仏門に入り、45歳で「木喰戒」という修行に入った。五穀を一切食べないで、水とソバ・木の実・草の根などを食べて92歳まで生きていた。東光寺から南へ、北田原氏の高皇尊神社前を通り過ぎると北田原バス停。川西バスターミナル行きバスは川西能勢口駅まで小一時間で送ってくれる。



屏風岩

京阪五条から清水寺へ

松永恵一

謡曲と清水寺
謡曲「田村」に誘われて、お参りと遊山を兼ねて清水寺を訪れた。地主権現に仕える童子が清水寺の米歴を語る。

そもそも当寺清水寺と申すは、大同二年の御草創、坂の上の田村丸の御願なり昔大和の国小島寺といふところに、延鎮といへる沙門、生身の観世音を拜まんと誓ひしに、ある時木津川の川上より金色の光さししを、尋ね上つて見れば一人の老翁あり、かの翁語つて曰く、われはこれ行寂居士といへり、汝一人の檀那を持ち、大伽藍を建立すべしとて、東那をさして飛び去りぬ、されば行寂居士と言つばこれ観音菩薩の御再誕、また檀那を持てとありしは、これ坂の上の田村丸

千日参り

千日の間、神社・仏閣に参詣し御利益を得る千日参り。江戸時代には、特定の日に参籠すれば千日分の御利益があるとされた。清水寺は8月14日から16日の三日間、美しくライトアップされる。

「宇治拾遺物語」八六に、清水寺へ人の真似をして千度参りを二度した若侍の話が残る。お参りした後、同僚の侍と双六を打つがひどく負ける。渡す物を何も持たなかった侍は、勝った侍に「私は清水寺に二千度参詣をしたことがあるだけだ。それを渡そう」と言う。勝った侍は「くれるならもうおう」と約束し、その日から三日間精進をする。負けた侍はほくそ笑んだ。観音の御前で、「二千度参詣したことを、誰それに双六の金品として払った」と書いて渡す。勝った侍は喜んで伏し拝んで受け取った。いくらもたないうちに、この負け侍は思いがけないことで捕まえられて、牢屋に入ることになった。受け取った侍は妻をもらって財産を得て、官僚への道が開け、裕福な身になった。「目に見えないものだが、心を尽くして受け取ったので、仏が、殊勝だとお思いになられたようだ」

清水の舞台から飛び降りる

「今昔物語集」巻十九、四十話。同じ話は「宇治拾遺物語」にも残る。

昔、忠明という検非違使がいた。彼がまだ若かった頃の話。ひょんなことから清水寺で都の悪ガキどもと喧嘩になった。悪ガキどもは刀を抜いても取り開かず殺そうとする。忠明も刀を抜いて対抗するが、相手は大勢。お堂の方に逃げていくと、連中の仲間が待ち構えていて、左右からはさみ撃ちにされる。進退窮まったその時、お堂の「廊」（上下に分かれた戸）が目止まった。大急ぎで「廊」をはずし、小脇にかかえると、舞台から「エイッ」と飛び降りた。「廊」が風に吹きあおられて、鳥のように宙を舞うと、フワリと地上におりた。驚いて下を見つめている悪ガキどもに「あっかんべー」をして、悠々と立ち去った。悪ガキどもは地団駄踏んで悔しがった。

悪ガキどもが刀を抜いて向かってきたとき、お堂の方を向いて「観音様、どうかお助けください」とお願いしたから、そのおかげで助かったんだと思う。観音様、ありがとうございます。思い出すたびに冷汗が出るが……。

「田村將軍遺僧延鎮」都林泉名勝図絵



老母重体の報に接しながら、涙をこらえて清水寺の花見の供をする。謡曲「熊野」は清水参詣の道筋を詳しく語り、清水寺の芬間氣をよく伝える。

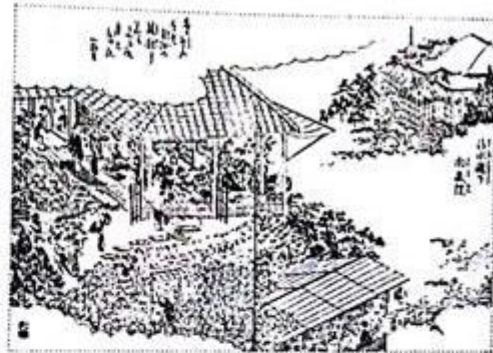
また、花月という名の喝食僧と清水寺に詣でた諸行行脚の僧との父子再会を描いた謡曲「花月」は、音羽の滝が五色に輝いて見えたので、訪ねて登ってみると、岩の洞に柳の朽木があり、楊柳観音の所変と知ったと語り。

本尊への願かけ結願の日に、清水の舞台から崖下へ身を投げて無事なら諸願成就という俗信から、「清水の舞台から飛び降りる」という語が生まれた。物事の決断をするとき、思いを決して身の振り方を決めるときに使われる。

江戸時代には、多くの庶民が願をかけて飛び降りたという。清水寺塔頭の成就院に残る「成就院日記」には、元禄七年（1694）から幕末の元治元年の間、未遂も含め234件が記されている。記録が抜けているぶんもあり、148年分の記述で、年間平均は1・6件。記録のない時期も発生率が同じと仮定すると、江戸時代全体では424件になる。

清水の舞台の高さは13メートルあり、生存率は85・4%と高い。十代、二十代に限れば90%を超す。六十歳以上では6人全員が死亡している。

相次ぐ飛び降り耐えかね、舞台上に欄を設けるなどし、政府は明治五年（1872）、飛び降り禁止令を出した。昭和四十五年（1970）、大阪万博が開催されていた5月3日の夜、若い男性が厭世から「同じ死ぬなら……」と舞台から投身。桜の木にひっかかって命拾いしている。



「清水瀧下南蔵院」都林泉名勝園繪

コース概観

音羽山の中腹にあり、「清水の舞台」
「音羽の滝」でありにも有名な清水寺。
世界文化遺産に登録された日本を代表す
る名所。奈良の長谷寺、近江の石山寺と
ならぶ観音霊場と崇められた西国三十三
所観音霊場の第十六番札所。あらたかな
観音霊験とともに王朝時代の古典文学
に幾多紹介されている。観世音菩薩の大
慈大悲を求め、現世利益をお参りした。



界の間を歩き来たという。門前で死後、
墓の中で産んだ赤子のために、母親が幽
霊となって胎を買いに来たという伝説の
「幽霊子育て胎」が売られている。孟蘭
盆の精霊迎え「六道詣」で賑わう。
東大路通を越えとますます急勾配に
なる。左手に清水寺の駐車場が見えるあ
たりから、観光客の数が急に多くなる。
左手の急な右段の下り坂が三年坂(産寧
坂)。かつてこの右手に養産寺(子安塔)
があったが、清水寺境内に移された。こ
の三年坂の角の小堂が経書堂(米遊院)。

京阪本線五条駅下車。北へ松原通に出
て、鴨川に架かる松原橋を渡る。この松
原通が旧五条大路であった。平安京の東
端は東京橋大路(現在の寺町通)で、その
東延長を五条大路末という。そのまま東
へ行くと清水寺。参詣路という意味で清
水坂と呼ばれる。松原橋も清水橋といわ
れ、「百鍊抄」保延五年(1139)6月
25日条に「清水寺橋供養世」とみえる。
架橋費用を清水寺僧侶が勧進して廻った
ことから勧進橋の名もある。一つ南に架
かる現在の五条大路は、豊国神社造営の
際に築造されたもので、大仏橋とか五条
石橋といわれ、のちに「五条大路」とい
われて有名になった。

謡曲「熊野」は、清水寺へ東大路(大
和大路、六波羅、地藏堂、愛宕の寺(珍
皇寺)、六道の辻(珍皇寺門前)、鳥辺山、
経書堂(米遊院)、子安の塔(養産寺、飾
磨の徒歩路(龍間塚)、車宿り、車止め
(清水門前)と通る。

清水寺は東山三十六峰中の音羽山の中
腹にあって、松原通からでも五条通から
でも、道は東へつま上がり、どん突き
に当たると、古く鴨川の東は鳥辺野や鳥辺
山と呼ばれ、葬送の地であった。

人の波をかけ分け、参道の両側にある
店をのぞきながら行くと仁王門前の広場
に出る。左手に重要文化財の馬駐。

「熊野」は「馬駐め、ここより花車、お
りるの衣播磨」と謡う。丹塗りの美し
さから「赤門」と呼ばれ、藤原行成の筆
と伝える「清水寺」の額を掲げる仁王門
は現在解体修理中。右に西門と三重塔。
寛永九年(1632)の再建の三重塔は、
丹塗りと極彩色文様が復元され美しい。
初層に大日如来像をまつる。

清水寺の宗派は北法相宗。山号は音羽
山。本尊は十一面観世音菩薩。奈良時代
末の宝亀九年(778)の開創。ご詠歌
は「松風や音羽の滝の清水をむすぶ心は
涼しかるらん」。本堂は寛永十年(1633)
徳川家光によって再建。国宝。平安
時代の宮殿、貴族の邸宅の面影を伝え、
四圍の音羽山の翠緑と見事に調和してい
る。錦雲漢の急崖に「清水の舞台」を懸
造りにして張り出し、巨大な棟の柱を1
39本立てて支えて支えている。

牛若丸(源義経)と弁慶は五条大路の
たもとで現在も向き合っているが、「義
経記」では、五条大路で清水寺で会っ
たと記す。弁慶は本堂の外陣の板敷で参

鴨川を渡り大和路を通ると、清水
坂の入口。清水寺参詣路として賑わい、
一五世紀には坂に沿って酒屋が軒を連ね、
一七世紀には清水焼を売る店も出ている。
西福寺の角に「六道の辻」の碑が立つ。
左に折れて南へ行くと鳥辺野の葬送地。
六道の辻はあの世とこの世の境域。いわ
ゆる冥界への入口に当たる場所。「熊野」
は「げに恐ろしや、この道は冥土に通う
なるものを」と謡う。

六道の辻を南へ少し行くと六波羅蜜寺。
諸国を遊行して人々に念仏を勧め「市の
聖」と呼ばれた空也上人が開基した寺。
西国十七番札所。本堂は貞治二年(1363)
の修宮で、重要文化財。昭和四十
四年解体修理が行われ、丹の色も鮮やか
に絢爛と当時の姿をしのばせている。宝
物館には教科書でよく紹介されている空
也上人像がある。運慶の四男康勝の作で
念仏を唱える口から六体の弥陀が現れた
という伝承を伝えている。

清水坂に戻り、東へ上る。東山通に出
る前に珍皇寺がある。承和三年(836)
に、山代、淡海等が建立した。葬送の地
鳥辺野の入口にある寺。小野篁が、閻
魔庁の冥官としてこの場所から現世と冥

籠っていた牛若を見つけて挑みかかるが、
参籠の人々の迷惑になるので、多くの見
物人に囲まれて戦いを舞台に移す。この
話でもわかるように、参詣人はお籠もり
をし、霊夢などのお告げを受けた。
本堂の横から、きつい勾配の石段を登っ
て地主神社にお参りする。清水寺の鎮守
社は恋愛の神になり若い女性で賑わう。
室町時代の「関吟集」に、「地主の桜は
散り散り」と謡われ、桜の名所として知
られていた。山腹沿いに本堂の奥を進む
と奥の院。さらに先へ進む。見晴らしの
よい場所に立つ三重塔が子安の塔。坂道
を下へおると、清水が滾々と音羽の山
中より湧出する清泉音羽の滝だ。

コース

- 京阪本線五条駅下車 東へ徒歩25分
- 五条駅—松原橋—六波羅蜜寺—六道珍皇寺—経書堂—清水寺
- △地形図▽2万5千—京都東南部
- △費用▽
- 清水寺拝観料 400円
- △問い合わせ先▽
- 清水寺 075(551) 1234
- 六波羅蜜寺 075(561) 6980

〈山のレポート〉
山の地名を歩く③
山と岳(上)

西尾 寿一

先に本誌で山と岳(岳)の使い方が乱れているのではないかと指摘しておいた。

小生が登山を始めた頃の日本の山はほとんど「山」であった。穂高岳や槍ヶ岳など日本アルプスの山は別格で、「岳」を名乗る山こそ「山」より格上の立派な山であるような印象を強くもったものである。岳こそ近代アルピニズムの対象となるから、ぜひそれらの岳へ登らねばならぬと情が考えていたし、山はそのためのトレーニングの場としか考えていなかったようなところがあつた。

しかし、ある日突然ガイド本に「山」が〇〇岳と表示されているのを見て驚いた。だれがいつどのような基準で山から岳へ変えたのか不明のまま続々とそれが続き、どうやら歯止めをつけようのない勢いである。

今日でも山から岳へのシフトは依然地滑りに続いているが、みたくところ一定の法則はないようで、著者の好みで採択しているように思われる。

ガイドブックを書けるほどの力量のある人なら全国の山をくまなく歩き、多くの「岳」を見てきたので、郷土の山にも「岳」の付く立派な山が欲しいと願ったものかもしれない。その結果、全国に平凡な〇〇岳が次々と出現したのだろう。実際のところ、山と岳には役割分担があるのではない。あるいは山を表現する他の「峰・嶺・森・丸・平・塚・尾」などの関係からみて、用法が山の実像と一致する基準があるのかもしれない。

そのように考えるなら、その基準の発見に務める一方で、以前から使われていた名称を踏襲することが必要になってくる。著者の好みで左右できる性質のものではない。しかし、この点は現在のところきわめてあいまいにされているようなのである。

山と岳はどこが違うはずだが、その定義となるとむづかしい。昔からのような使われ方をしてきたかを追って、データを集めるよりはかないのである。

山と対極にあるのは、川でなく谷であることは先に書いた。これは地表が普通より高い所を「山」と言い、これより低い所を「谷」と呼ぶ単純な地形表現だとすると、山は高い所全体を指す言葉であり、今日のように個々のピークを指すものでないことになる。

土地の高低を区別する地形語で、特定の場所の大小や高さを基準とするものではない。従って地球規模の巨大な山や谷があれば、古墳のような小さなものもある。

一般的には山は一つの山城をまとめて表現するようだ。例えば大峯山のような山には個々の峰に「岳」が用いられる。隣の大台ヶ原でも個々の峰と岳がある。このようにみえてくると、山は一地域の山塊全体を表し、その内の特に高くそびえる独峰に「岳」を用いていることがわかる。それに修験の山伏が峯渡りの行をする場所なら、これはもう何が何でも岳となる。

山(山脈・山地といってもよい)という総体から峰や岳が生じている状態は連嶺とも言えるが、一般的に岳は山より派生する一つのピークに相当するものと考え

られる。

山場とか山を越えるとか物の例えに山を持ち出す場合も、けっして特定の山を表すのでなく、苦勞する度合いを山に例えているのである。

もちろん「山」という漢字は中国でつくられたものだから、日本固有のヤマと習合した際に内容に若干の相違があつたはずである。しかし他の漢字同様「当たらずとも違からず」で、わずかな違いは狩り去られたのだ。このことはまず「山」を考える際に思い起こしておくべき問題である。

わが国の古い時代の文献として「記紀」が挙げられるが、これは官制なので、民間の表現が出てくる『万葉集』でみるとおもしろいことがわかる。そこには「不尽能瀬・布自能多可弥・安比豆弥・阿之我利夜麻」などが出てくる。ここではヤマとネが使われており、しかも「山」が使われていないのである。ヤマはまだ山でなかったのである。そうするとヤマとネはある時代を境に中国の漢字を受け入れて変身をとげたことになる。これを「習合」と言ってもよい。

ヤマと山が合体したのは時代の流れで

あり他の分野も同じことで、やむなきことである。次に問題になる点として、ヤマと山が等しくなるには、わが国と中国の自然風土としての山が一致していかなくてはならないのである。つまりだれもが日本と中国の自然風土の違いを感じたぶんだけ「ヤマ」と「山」は違うということである。

わが国の文献のうち『万葉集』のものは「ヤマとネ」が多いのだが、「記紀」となるときすがに官制だけあって、「日向の製の高千穂峯・棟屋の峯・天香久山・高円山」があり、『風土記』では「筑波の岳・筑波嶺」などと多少気取ったところがあり、『万葉集』と異っている。

しかし、この段階ですでにヤマが山になっており、峯をタケと読ませ、岳をヤマと読ませる不合理性をみせている。これは口語を文語に変えて漢字化する段階で一定した規準を整備途上であつたことを意味するように思う。

山・岳・嶺・峯の漢字がわが国の山の実態を表す口語表現と一致させるためのさまざまな努力がなされたとは言え、山と岳が共にヤマで、峯をタケと読ませる不合理はそのまま現代に引き継がれてし

まっているのではなからうか。

しかしながら一般的な傾向として、山は〇〇の山などと広い山域を表し、岳・峯・嶺は独立した高い山に付されてきたように思う。しかし、小さな無数の低山にも「山」が付されているので、この問題は完全に解決されたとはいえないのだ。

山がなぜ広い山城の山と、天香久山・耳成山・高円山などのような古墳に近い山とに同等に付されているのかは謎である。

だが、わが国では山は人間との交流によっての山であつたわけで、現実の山・理念の山・情念の山・精神の山・心象の山・労働の山・信仰の山・癒しの山などさまざまな山が存在したのである。その山にかかわりのある人間にとっての山は、山であつたはずだ。従って山とは高低や大小を数値化するものではなく、総体としての山が認識されていたのではないかと思う。

ただ「岳」については「記紀」にみられるように、「山」より鋭く峻しい状態の山を意識したもののようにもうける。そこで先に『万葉集』などに現れる

「ヤマ・ネ」の大部分が「山」に置き換わり、「嶺」は少し残り、「峯と岳」がタケ・タケとして混同したまま残ったものと考えられる。「タケ」はタケルのタケで荒々しい雄壮なものを指すが、漢字の岳の字を当てたのは後年のことで、「記紀」では峯の字をタケと読まれている。

嶺は峰で元は根であったのではない。この場合のミネはミを美称とするとネが本体である。これをタケと読ませることから岳へ移動が起きた可能性があらう。

こうしてヤマは「山」となり、嶺・峰は「岳」となって、一般的には山を使い、岳はタケルの意味を踏襲する形で、山のさらに厳しい状態を指す語意となったのではないだろうか。

当然のことながら、岳は山より小教派ではあるが、明治以後アルビニズム導入によって山の価値観が大きく変わり、山より岳が好まれるようになったと考えられる。

つまり、山は一般社会の認識する範囲の山であり、岳は以前から修験や特別の人たちのものから登山の対象となること

によって、価値観の大変動が起き、山より一段格上の存在となったのではなからうか。

山から岳への変化はこのような価値観の変動を物語るリトマス試験紙のようなものかもしれない。

ところで山や岳のほかに、わが国にはヤマを表す「森・平・丸・倉・嶺・頭・辻」などが今も健在である。特に森は四国と東北地方で岳を圧倒している多数派でもある。これらの山の名はおそらく相当古い時代からあった可能性があり、ヤマがまだ山にならない時代から混在していたとすると、なぜ山に統一されなかったのか不思議である。しかしよく考えてみると、四国の石鎚山や剣山を例にとってみると、その山塊の最高峰は「山」であり、一ノ森・二ノ森・西黒森などの支峰に森が残されていることがわかる。この例からみると、森の付く山名の性格がおぼろげながら見えてくる。その山塊の盟主でなく閣僚クラスに森が多いことは、その地方の地方性が強固に守られてきたことに由来するのではないか。もしくは、トップネームを中央が変えた(ヤマ・モ

〈山のレポート〉

ボンボン山、私的案内

妻鹿 ひろ子

ボンボン山の山頂に一ヶ所足元がぼぼことへこむような感触があった。さては！と思いつつも確かめる。微かだがたしかに足下が揺むような気がする。その後、登るたびにそのあたりを踏んでみるが、そんな感触を得ることは二度とない。しかし私は、頂上で足踏みをするボンボンと音がするという山名の由来をそれ以来信じている。

山頂へは神峰山寺から登るのが最もポピュラーだ。途中に野草ラン園があり、その上へ遊歩道や四阿屋が設置されて公園になっている。遊歩道を日当たりが悪い谷に向かって行くと、落ち葉が厚く積もった陰気な斜面にギンリョウソウの大群落がある。ユウレイダケとも言われるこの黄緑素を持たない腐生植物は、潜水艦の潜望鏡のようでもあるし、妖怪スラリヒョンのようでもあり、どことはなしにユーモラスな姿をしている。

そのギンリョウソウが右を見ても左を見てもわんさかある。あまりにも多くありすぎてしまいに気分が悪くなってきた。途中で遊歩道は途切れるが、おおかまなしに谷底までおりていき、松尾川の小さな流れを渡り、向かいの急斜面をよじ登れば神峰山寺への車道に戻る。

バスを空谷橋で降り、出灰に向かう。せせらぎの里釣堀センターを右に見て一休禅寺史跡を過ぎると、出灰川に架かる橋の手前に小さな集落がある。土手の斜面で栗を栽培している。水量の少ないときはそこを渡渉し、出灰川に合流する小沢沿いの道をたどる。作業道の名残だらうか野の花の多い道だ。最初に出合った谷にはニリンソウが群生している。ニリンソウを踏み分けるように入ると道はやがてなくなり、ざれて崩れてしまった左手のイバラとタラノキばかりの斜面に取りつく。どこもかしこもトゲだらけでつかまる所がない。横へ横へと逃げながらようやくやぶ尾根に着り着くころ、傷だらけの切られと三郎になっていた。やぶ尾根を乗り越え、眺望のよい窪地に腰を下ろせばあたりは山桜満開の谷だ。

りを山に変える行為」としても、ほかは自然のまま残ったとも考えられる。

今日では、山と岳が山名の大部分を占めているのに、先にあげた「森・平・丸」などが地方に残るのは、その山の姿でできる限り正確に表現するための一方法であったのだろう。山と岳が代表者選手になっても地方性が守られていることは逆に頼もしく健全な姿だったのかもしれない。

山の最新刊紹介

山村茂樹著

嶺さんの熊野紀行I

『紀伊路・中辺路を行く』

(堺本宮編)

堺から熊野本宮まで、十六回のコースに分けて歩いた熊野古道「紀伊路・中辺路」の随想風紀行の道中記。

- 判型 A5判・232頁
- 発行 ナカニシヤ出版
- 編集 新ハイキング関西
- 定価 1800円＋税

○ 4月20日刊行(店頭発売は5月上旬)
本誌振替での申し込みは1800円(送料込み)で送本します。

た。斜面のそこかしこに燃えるように山桜が咲いている。梢の先に萌え出た赤い若葉とゆげな薄桃色の花が艶かに色づき、しだれ桜が華やかな京友禅なら、山桜はしっとりとした加賀友禅である。

坂口安吾の「桜の森の満開の下」は満開の桜の森と、攫ってきた都の女の、魔性のような妖しさに翻弄される盗賊の物語だが、若い頃読んだときは、桜といえど静客のあふれた埃っぽいソメイヨシノしか思い浮かばず、桜の妖しさというものが理解できなかった。谷間に人知れず咲く山桜は妖気を孕むほどに美しい。

出灰川に沿ってさらに車道を行けば、右手に一本の川が合流する。合流点に高槻市の水道施設の建物がある。その支流沿いをやぶ漕ぎしたのは最も不適当な7月であった。やぶは浅りに茂り、のびきった蔓に絡まり、まるで蜘蛛の巣に引っかかった虫状態だ。服は鉤裂きがでかい。平地を歩くのに1時間かかった。やぶを抜けるとまばらな杉林になり、コアジサイなどが咲いている。川は大きく湾曲し、ゆったりとした瀬をつくって、のんびりと心やすらぐ場所である。

水道施設の建物からさらに道を北に行けば中畑に出る。右折して大原野・外畑に向かうと、京都と大阪の府境界の白線が道路に引いてある。京・大阪をひと跨ぎにしてさらに進めば、背丈を越す草やぶが以前にはあった(今は造成され「畑の森」として公園化している)。草のなかの細道をたどればやぶ漕ぎに苦労した川の上流に出る。

川向こうに少しばかりの畑があり、幼稚園のような賑やかな造りの小屋がある。ドラムカンの露店風店もあり、子どものはしゃぐ声が聞こえる。少し下流から川面に出た石を伝い飛び、対岸の沢に入るが、この沢がボンボン山で私の一番好きな道だ。美しい苔が石をおおい羊歯が茂る。木々に絡んだ藤蔭が水面に垂れ、静寂に満ちた深山のように森が生き生きしている。サイハイランも多かったが、2、3年前に行ったときはめっきり数が減り、今でもあるかどうかかわからない。

道は左の尾根を登り、関西電力の巡視路に合流するが無視して直進すれば、落ち葉の厚く積もったゆるやかな斜面になる。やぶ漕ぎというほどのこともなく楽な所を選んで尾根を乗り越せば、スプーン

でえぐったような窪みを経て、山頂から善峰寺に向かう東海自然歩道に出る。

外畑から杉谷に向かう所にも関電の巡視路がある。入口はどれもわかりづらいが、分岐から二本目の道は、私がひそかにミニ軽井沢と呼んでいる明るい雑木林のなかを通過して行く。白い小石の間を小さな流れが走り、お茶タイムを楽しむ格好の場所だったが、今はただの草むらになってしまった。そこから登る道は藪椿が多い。ある椿の当たり年には落ちた花が赤絨毯を敷きつめたように道を埋め、やがてそれは辛夷の白い花びらの絨毯に変わり、道を何度も赤白に染めかえて続いていた。あまりの見事さに翌年も出かけたが、申し訳程度にしか咲いていなかった。

釈迦岳の巻き道から巡視路に入ると行き止まりの鉄塔の下に出る。ここからの眺望もすばらしく人の入らない絶好の休憩地だ。ここにはタニウツギが咲く。地図では、そのままくれば川久保溪谷の源頭に出るはずなので、まっすぐやぶに突っ込んだが、意外に急斜面でやぶが濃

く詰めて登り返した。

ノーマルな登山道を川久保方面に向かう斜面の下方に一面ミヤマヨメナが咲く。ほんやり尾根道ばかり見ていると見落とす。ミヤマヨメナは世界に三種あり、日本ではこの一種のみだが、要するに初夏に咲く白い野菊である。園芸種の都忘れの母種、と勝手に独り決めしているが、まるで白い都忘れである。それが幼稚園の庭ぐらゐの広さ一面に咲く。壮観だ。

初夏の川久保溪谷に出て、林道から振り返れば山が真っ白に見えるほどエゴの花が咲く。エゴはよく花を付けるのでうまく時期を選べばだれでも白い山を楽しめる。川面を埋め尽くすほどに白いエゴの花びらが流れつき、淀みは花のしがらみで水も見えない。

ボンボン山のよいところは交通至便、山も浅く急峻な崖や谷がないことである。植生も多く、多種多様な花が咲く。やぶ漕ぎで多少コースをはずれても尾根に出れば現在地の見当はずれにつく。手近な山のお気に入りに入るスポットを探すのも里山歩きの楽しみである。

特選コースガイド

奥美濃

秘められた歴史と自然林の山

蠅帽子嶺(這法師嶺)

中級コース(★★★)

金谷 昭

越美濃に沿ってのびる屏風山脈の盟主、能郷白山から東にたどると屏風山との間に、唯一地図に山名の記載のある越山(1128・3峰)がある。その東の無名の三角点峰(1037・3峰)が蠅帽子嶺である。

この山の一角にある美濃と越前とを結ぶ蠅帽子峠は歴史を秘めた峠である。特に幕末の冬、水戸天狗党の悲劇の峠越えは、人々に鮮烈な印象を与えている。

山名の「這法師嶺」は、かつて根尾や徳山には越前鯖江の浄土真宗誠照寺の門徒が多く、年2回の同寺の僧侶による巡回布教路に使われていた。道が険しくて僧が道って登ったことから名付けられた

という。一方「蠅帽子嶺」は、アブの大発生により、峠道を行く旅人の頭部が帽子を被ったように真黒になったということである。奥美濃の夏山では、しばしばアブに悩まされることからうなずけないことはない。地図には蠅帽子川の名が出ているが、いずれが正しいかは断定しがたいようである。

根尾西谷川に沿って国道158号線を温見峠へと北上する。大河原集落を過ぎ、右に分岐する林道猫峠線を見越すと、すぐ道の脇に「史跡 宮道這法師道」の標識が立っている。同所には某運動用具メーカーの用材の採取地の看板も立てられている。車は河原に入った広い空地に置くことができる。

この登山のポイントは川の渡渉にある。根尾西谷川は能郷白山を始めとする屏風山脈を水源とするだけに広く、飛び石伝いの渡渉は無理である。濁水期でも膝ぐらいまでは濡れるだろう。渡渉点は蠅帽子嶺の南面直下からのコワタビ谷との合流点の約100メートル上流で、岩壁とその少し下流の大杉の所である。ケルンが積んであるが、増水によっては流れてしまう

蠅帽子嶺山頂から能郷白山(右)と前山(左)



こともあるだろう。大杉を目標とするほうがよい。

大杉の背後の石積みの祠の中に、ほほずり地蔵尊がひっそりと坐っておられる。台座には文化五年(1818)建立とあり、長い風雪に耐え、多くの旅人たちを見守ってきたのであろう。

登山路はこの地蔵尊の右を捲いて自然林のなかにつけられている。すぐ左から

広い山道が合流するが、これが昔の峠道であろうか？ この道の下部は杉林のなかで消えているので、帰途には入らない



大杉と地蔵尊



ほほずり地藏



ように注意すること。
取りついた尾根は急峻であるが、峠道はゆるやかなジグザグを繰り返す。疲労を少しも感じさせない巧みな作道で、昔の人の知恵に感心する。人があまり入らないためか、少し生え込んでいるが、長く人馬により踏み固められただけに、道形はしっかりとしている。少し登ると幅の広い峠道となり、大きくジグザグを繰り返すようになる。
ミズナラ・コナラ・リョウブ等の自然林が、ここからはすなりとのびたブナ林に変わる。春の新緑、秋の紅葉シーズンはすばらしい所だ。
尾根末端の標高点908峰の手前で右に折れ、尾根の左(西)側を捲くと道はゆるやかとなる。ササが出てくるが道ははっきりとしており、迷う所はない。ゆるやかな尾根をたどって行くと、前方の943峰との鞍部で今度は尾根の右(東)側を捲くと

はゆるやかとなる。ササが出てくるが道ははっきりとしており、迷う所はない。ゆるやかな尾根をたどって行くと、前方の943峰との鞍部で今度は尾根の右(東)側を捲くと

うになる。

この鞍部には、昔の峠道の名残であろうか、細長い大きな溝道の窪地ができ、そのまま尾根の背に登って行って消えている。右を捲いていく道はブッシュがかり、また一ヶ所ロープが出てきたりと少々わかりにくくなるが尾根を忠実に北上すればよい。

右を捲いていた道が再び尾根にのるようになると尾根はやせてくる。このあたりから木の間越しに国境稜線の左上部に数本の巨大杉の姿がうかがえるが、そこが蠅帽子峠である。

道は尾根をはずれ、国境稜線の南側山腹を捲くようになり、すぐ小沢(溜沢)を横断する。

この沢には上部に向かっての踏み跡があり、テープが付けられている。これが山頂へのルートである。稜線までの標高差約50、60肩を直登する。踏み跡は上部に行くにつれわからなくなるが、とにかくブッシュを漕いで登る。

飛び出した国境尾根にはかすかな踏み跡があり、右(東)に折れ、いったんゆるやかにくだって登り返せば蠅帽子嶺(1037m)山頂である。

頂上は3等三角点標石を中心に、4、5人が休める程度の狭い切り開きでしかない。展望は南面が少し伐採され、能郷白山が大きく、また高尾山・大白木山が望めるが、奥美濃の雄、屏風山は残念ながら落葉期でなければ望むことができない。なお、山名板が一枚「這星」と掲げられている(「這星」は国土地理院の地名である)。

頂上より蠅帽子峠へ向かうが、尾根にはテープはなく、かすかな踏み跡と尾根稜線を忠実に追うことになる。稜線の越前側はブッシュが疎らで歩きやすいが、峠の手前で越前側にのびる支尾根に入らないよう注意せねばならない。常に東西にのびる国境稜線をマークしておくことが肝要だ。尾根分岐を過ぎると、稜線は急なくだりとなって、数本の巨大杉が生えている峠におり立つ。



蠅帽子嶺頂上

峠には道標もなく、峠道の名残であろうか、越前側にゆるやかに山腹を捲いて消えている。それ以外に昔をしのぶよすがもなく、ひっそりと静まり返っている。帰路は先の捲き道をたどるのであるが、捲き道へ入る所はブッシュでわかりにくい。テープがあり、ブッシュをかき分けると道が出てくる。捲き道は二本の小沢を横断することになるが、そのうち峠から一・二本目の沢には水が流れていて、水場に使えそうだ。三本目の小沢は山頂へ登るルートに使った沢である。

再び尾根に戻り、多くの人や馬が往き来し、喜びや悲しみを見た長い歴史の峠に別れを告げ、帰途につく。

*水戸天狗党の悲劇
幕末の水戸藩は、尊皇攘夷を唱える改革派と幕府と結託した保守派との政争が激しかった。改革派は武田耕雲斎や藤田小四郎などが中心となり天狗党を結成した。筑波山にて攘夷を叫んで蜂起したが敗れ、京都朝廷に直訴するため、京都にいた水戸藩の一橋慶喜(後の徳川慶喜)を頼った。元治元年(1864)12月4日(旧暦)伊那谷より清内路峠を越え、

奥美濃大原より厳寒期しかも夜半に蠅帽子峠を越え、越前にたどり着いた。しかし、頼みとしていた慶喜は、その過激な行動をうとみ、幕府と自藩の存続のため、自ら天狗党の討伐軍を指揮する役目を買って出たので、天狗党は幕府に降伏せねばならなかった。天狗党は逆賊の汚名を被り、大半は敦賀にて処刑、他は追放、流罪に処せられた。罪はその家族にまで及んだのである。
慶喜の非情な処置に対しては「正義の士を見殺しにした」と後の世まで伝えられた。
AコースタイムV
登山口渡渉点(1時間) 標高908峰(1時間) 小沢取付(25分) 蠅帽子山(40分) 蠅帽子峠(20分) 小沢取付(1時間30分) 登山口渡渉点
△地形図V 2万5千 能郷白山
△交通V
マイカーのみ。国道158号線の能郷大原間は道幅狭く、危険箇所も多いので大型車通行禁止。場合によっては樽見上下大須く越波く猫峠く大原原のほうがりやすい。

(里山シリーズ) 北近江・若狭
花と琵琶湖展望の穴場

大明谷の頭

一般コース(★)
長宗 清司

近江坂というのは、滋賀県湖西の箱館山麓の酒波から福井県三方五湖の南能登野に越す山の中の長い峠道である。しかし、峠道といっても大部分は尾根を歩き、峠は能登越という峠一つだけであり、ピークからピークへつながるおもしろいコースだ。中央では大御影山の頂を通過する。途中車道を横切るが高低差の少ない縦走路である。

以前は、深い山中ばかりを歩く道で、杉の植林はほとんどなく、全行程自然林のなかを歩き、白い幹が果てしなく連なる深い落ち葉の尾根だった。ブナの大樹がおおうさわやかな尾根をたどった。冬、雪に覆われて曲がりくねった木々もみ



明るく歩きやすい近江坂



大明谷の頭付近略図

再び、平池のそばに出て、あとは時間の許す限り、平池のカキツバタ、姫女湖の風情、箱館山スキーゲレンデなどを見て廻るのもよい。

近江鉄道今津駅(バス40分)ピラデスト今津(10分)平池との分岐点(10分)近江坂登山口(40分)小池(5分)林道(1時間)展望台地(45分)近江坂登山口(10分)平池(20分)ピラデスト今津バス停(40分)JR近江今津駅

この林道の最高地点からは琵琶湖が一望できるすばらしい大パノラマ台地である。左からつつらお崎、竹生島、海津大崎。そして湖面と対岸の山並ががすかに正面に、さらに視界を右に移すと近江高島、白鬚神社のある明神崎と三尾山。そして手前の山中には箱館山のゲレンデが望める。標高6,700mそこそこの山で、これだけ広範囲に展望できる所はそう多くないと、自慢したくなる。

下りは、この林道をそのまま進む。機械的につくられた道は少々急だが、道幅が広く、時々立ち止って下界の景色を見ながらゆっくりくだる。6月中旬、このあたりの斜面や道端にはコアジサイの淡いブルーの小花が見渡す限り咲き乱れていた。

られ、地を這う木も目に留まる。四〇〇年の星霜を秘めて眠ったように静まり返っている古道は、質量兼備した典型的な若狭越えの峠である。

今回のコースは、近江側の一部だけを利用する。だが、この区間だけでも春から初夏にかけては山野草の花やシャクナゲに出会える。3月は、落ち葉の積もる山道の脇には可憐なイワカガミの花蕾。イワウチワやタムシバは4月が満開で群れ咲く。岩を抱いて咲くシャクナゲは5月初旬から中旬にかけて花のトンネルをつくる。カタクリの花も見かけた。

出発は、JR近江今津駅からバスに乗り、宿泊施設もある「ピラデスト今津」からである。バス停から「平池」への道を標識に従って少しくくだる。T点を右へ「大御影山」の小さな木札の立つ杉林を抜け、林道との分岐点を直進する。菅谷の小さな流れを渡って落ち葉の積もる歩きやすい山道を登る。

一度、左にとる道とすぐに真上へと迷いやすいだが、踏み跡などで確認。あとは、しっかりとった山道になる。立ち止まると心地よい風が通るコース。小さなピークを三つばかり越え、道が直角にくくだるあ

シャクナゲが咲く道



たりの鞍部に小池を確認。6月はモリアオガエルの卵がいくつもぶら下がる薄暗い水溜りである。

来る道で二、三ヶ所シャクナゲの大株に出会ったが、この先、大御影山へのコースには数多く咲くトンネル状の所もある。きょうは、この小池から大御影山へのコースをはずれ、左下に見える林道に出る。林道を左にとりて成り行きで、左に

2等三角点のある山

鳥屋ノ森山と峯山

山形 歳之

鳥屋ノ森山(点名・鳥屋ノ森)

一般コース(★)

紀伊半島の先端、串本市に隣接する古座川町に鳥屋ノ森山(457.2m)がある。一枚岩で有名な古座川の支流小川の上流で、直見と中崎から登山道がある。地形図を見ると、中崎からのほうが距離も短い、「点の記」もここから登って



いるので、中崎からのコースを選ぶ。国道42号線の古座から古座川沿いに走り、月野瀬温泉を過ぎて川口で支流の小川に入る。直見を通り、中崎の集落を右折して川を渡ると対岸の車道終点に到着。少し広くなっていて5〜6台の駐車が可能である。

前の人家に声をかけ、すぐ裏手の林道に入る。すでに廃道で車は通れない。はるかに谷を見下ろしながら進むと小さいお社があり、梢越しに30分くらいの立派な滝が見えてくる。

林道は所どころ崩れている。「点の記」では1時間谷を通行した所から尾根に登るとあるので、水量も少なくなり、すでに橋も朽ちてしまった林道跡を1時間程通行し、林道終点に到着した。ところが登り道が見つからない。それまでも探しながら歩いてはいたが、それらしいものはなかった。

地形図で現在地を確かめる。主稜線から沢に向かって三本の尾根がくぐっており、どの尾根に登っても稜線に達する。そこで、道はないが目の前の尾根に登ることにする。それほどやぶもなく、何とか登れたが急登の連続で、1時間余り汗

鳥屋ノ森山山頂



をかかさず稜線に登り着いた。登り着いた地点は頂上を通り越し、「点の記」のルートより行き過ぎた地点であった。山頂は植林と雑木に囲まれた展望のない切り開きで、無傷の標石と新宮山彦グループの古い山名板が落ちていた。稜線には良い道が登ってきており、直見からのほうが明瞭な道ようだった。下りは「点の記」の道を探す。稜線に分

岐にテープの付いた棒が立ち、下り尾根に道が残っていた。いったい林道のどこにおりるかと思ったら、村から35分くらい林道中間で、「点の記」の1時間よりはるかに短い地点であった。1時間には息をとられて見過ごしていた。

目印に白いテープを四本ばかり付けておいたが、林道の両側が3層ばかりの岩壁になっていて、上部に松の倒木が門のようにかぶさっている地点である。ここからなら時間も短く楽に登れただろう。もっともどこから登っても目的を果たしたのだから、私は満足である。

(平成13年4月2日歩く)

▲コースタイム▼

中崎駐車場(1時間) 林道終点(1時間20分) 稜線(10分) 山頂(17分) 稜線分岐(35分) 林道(35分) 駐車場
△地形図▽20万 田辺 5万 那智勝浦 2万5千 古座

峯山(点名・標高)

一般コース(★)

峯のつく山は幾つもあるが、紀伊では1等三角点のある峯ノ山がよく知られている。今回の2等の峯山(878.9m)



は特徴もなく、交通の不便もあって登る人は少ない。

峯山は那智勝浦町北部の、熊野川町境界近くにあり、もちろんマイカー以外には交通手段はない。国道42号線太地から太田川沿いに北上し、支流の熊野川を渡る。やがて源流近くの大野集落に到着。山の狭い斜面にへばりつく村は意外と人家が多く、学校・郵便局・お寺・農協等も建っていた。しかし斜面のこととて車道は狭く、車の対行もままならない。道は村を抜け山肌に沿ってさらに北上する。植林ばかりで全く人家が見当たらない。登山口の標原も地形図に数軒の記入があるのみで、最初の二軒は物置になってい

山の斜面に人の住んでいそうな軒を見つけて車を止める。家の周囲は鹿ネットで囲まれ、ネットの柵を開けて道を訊ねる。鹿害が多く庭先までくるので、住宅周辺を畑とともに囲っているとのことである。通常鹿ネットは植林の山を開いているのに、家を囲うとは全く逆である。いかに山深いかを感じられた。

道は奥の廃屋の石垣から植林のなかにのびている。薄暗い林の落ち葉に埋まった道を登っていくと、T字路に行き当たる。これは左折して登っていく。所どころ倒木が道を塞ぐ。太い長い樹木が無残に引き裂かれていて、自然の力に驚かされる。

やがて峠に登り着く。植林の境界なのか白い杭が並んでいる。稜線の道は歩きやすく、のんびりとその杭を伝っていくと、植林と広葉樹のなかに標石が見つかった。山名の杭が立ちアセビが花をいっぱい付け、空だけが広がっていた。

(平成13年4月3日歩く)

▲コースタイム▼

標原登山口(40分) 峠(18分) 峯山
△地形図▽20万 田辺 5万 新宮 2万5千 紀伊大野

津軽半島の山を歩く

丸屋形岳と袴腰岳

初級コース(★)
高柳 生雄

丸屋形岳(718m)は津軽半島の最高峰で一等三角点のある山である。一方袴腰岳(700m)は今別町と平館村の境界にあり、東北百名山の一つである。野田林道から丸山林道に車で行くと、30分で登山口に着く。そこから丸屋形岳・袴腰岳はともに1時間程で登ることが出来る。

青森駅からJR津軽線に乗り蟹田駅まで行く。蟹田駅から青森市営バスで野田川バス停まで下車し、平館でタクシーを使う。蟹田駅からタクシーを使ってもよい。

車で青森方面から入る場合は、玉川消防コミュニティセンター案内板のある所



登山口まで戻り、林道を300mほど下って袴腰岳登山口に着く。最初は岩混りの道で、最近つくられた登山道だと感じた。すぐに林のなかに入り、ササをくぐるような所ではササダニのおみやげをもらった。ゆるやかなブナ林のなかをしばらく登って行くと、サルメンエビネなどが咲いている。

左から今別からのコース(分岐には坂

から野田林道に入る。「やすらぎの郷」の施設を右に見て少し行くと、才沼の分岐に出る。そこから丸山林道に入り、20分程で展望所に着く。ここから丸屋形岳に登れるが、さらに走ると林道右に袴腰岳登山口の看板がある。それより林道を300mほど行くと左に営林署による丸屋形岳の登山口の看板が見れ、車が数台置けるスペースがある。

丸山林道から丸屋形岳と袴腰岳に登るときは、水場がないので水を用意しておくこと。

丸屋形岳登山口には山頂まで1250mの道標が立っている。最初は傾斜のゆるいブナの木立のなかの道で、250mほどおきにある道標と木に打ち付けられた黄色の目印にしたがって登って行く。津軽の最高点の山だけあって、5月下旬でも所どころに残雪が見られた。サンカヨウ・ツバメオモト・マイヅルソウ・シラネアオイ等の花が山頂まで続いていた。

山頂まで750mの道標の所から道は急になる。やや左に廻るように登って行くと少しずつ傾斜もゆるくなり、すぐに山頂に着く。

才沼から鳴川岳、カモンカ乗越、その

れた道標がある)が合流し、少し登ると源四郎コースなど平館からのコースが右から合流する。平館からの分岐には何の案内もなかった。平館から登ると標高0mから標高700mを登ることになり、往復6時間位かかる。このあたりから尾根は急になり、10分程登ると袴腰岳の山頂(手前のピーク)に着く。

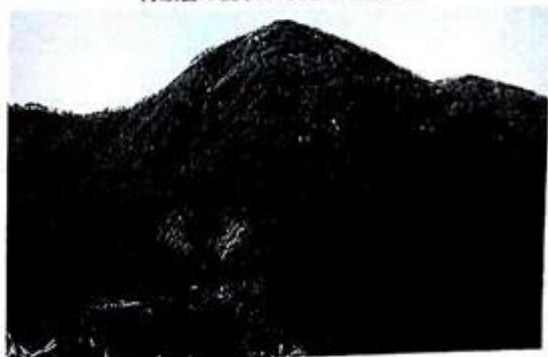
手前のピークから5分程で奥のピークに行ける。ピークの間の尾根は平館側が急峻な斜面になっているので要注意。奥のピークには三角点らしいものがあった。袴腰岳は増川岳から見ると双耳峰になっていた。

帰路は大川平にくだる道もあるが、往路をくだった。

平館不老不死温泉に泊まると、蟹田駅までの送迎と、丸山林道の丸屋形岳・袴腰岳登山口まで宿の車を貸してくれる。頼めば両登山口まで送迎してもらえることもある。

雪解けの後は丸山林道が壊れているときもあるので、平館村観光協会等に問い合わせしてから登山計画を立てるとよい。

袴腰岳の登りから見た丸屋形岳



先のやぶを漕いで2時間もかけて登るつもりでしたが、半分以下の歩程だった。山頂からは北半島の山々、北方に袴腰岳がよく見える。さらにその向こうに津軽海峡や北海道の島影が広がる。西方にはきのう登った増川岳が見える。増川岳ではシラネアオイの花がたくさん咲いていて目を楽しませてくれた。帰路は往路をくだる。

日程がゆるせば、東北自然歩道(奥の細道)の湯ノ沢渓谷と才沼めぐりをおすすめしたい。

さらに加えて、ブナ林のすばらしい津軽の他の山や、龍飛岬・眺瞭台・七ツ滝・権現キヤニオン・小泊岬・十三湖などの観光スポットもおすすめしたい。

(平成13年5月31日歩く)

△コースタイム▽

- 丸屋形丸山林道登山口(1時間) 丸屋形岳(40分) 丸屋形丸山林道登山口(5分) 袴腰丸山林道登山口(1時間10分) 袴腰岳(5分) 奥のピーク(5分) 袴腰岳(1時間) 袴腰丸山林道登山口(△地形図) 2万5千円 2月・大川平

△問い合わせ先▽

- 平館村観光協会 0174(25)2112
- 平館不老不死温泉 0174(25)2611
- 青森市営バス上磯営業所 0174(25)2718
- 蟹田交通タクシー 0174(22)2113
- 蟹田観光タクシー 0120・054915

特選コースガイド①

鈴鹿

一繞・近江側から登る鈴鹿の山々⑤

あけん原から高取山 比婆之山を越えイブキへ

中級コース(★★★)
磯部 純

今回は、岩野さんが「近江カルスト花の山」と銘打って、花を見ることに主眼をおいた例会で歩いた男鬼山塊の南に横たわる尾根ルートを紹介する。歩くのは当然ながら、花の多い季節の4月～6月をおすすめする。

国道307号線の多賀北の久徳から河内線に入り、下山する屏風岩下の廃校付近に置き車をした。一台の場合だと河内の寺院広場か、またはあけん原に車を置くことになるが、下山後は、ここから長い舗装路を歩くことになる。

落合へ向かうあけん原林道分岐のヘアピンカーブの所に車を置き、コンクリート壁の間から尾根に取りつく。ここが男

鬼の南方東西に横たわる尾根の登り口で、最初から見上げるばかりの急斜面である。取りつき斜面にはシャガ・イチリンソウの花が咲いている。杉林を過ぎると楡の林。足下にはミスミソウやイカリソウの葉も見られる。ほかに花はないかと探せば、紫色のタチツボスミレの多いなかに春蘭を見るだろう。登るにつれ、木々の間からひときわ高く雲仙山の近江展望台が見え隠れしている。

北へ向かう尾根へのるとイカリソウの花が目につく。淡ピンクの花でなく、真っ白なトキワイカリソウだ。京都北山では見ることのできない種である。下を見ながら登って行くと、フデリンドウも顔を出している。花を楽しみながら尾根を北へ登ると、やがてカワクニ越に着く。この峠は入谷から甲津倉へ越える峠だが、今では通る人もない。入谷からの道は残っているが、西はこの先で切れているようだ。峠道にはヒトリシズカがあらちちらに花を見せてくれている。

さらに尾根を上へ登る。登るにしたがい尾根には岩が多くなるので、右へ捲いたほうがよい。浮石が多く崩れやすい斜面だ。浮石の多い斜面の登行は、人数が

高取山のピークからササをかき分け、東のコブまで行くとヤマシヤクヤクの群生地だ。花が咲いている時期に訪れたら、歓声をあげるほどの群生だが、まだ蕾の固い今では展望もなく、蕾だけを見て、高取山まで引き返すしかない。

高取山から尾根を西へ歩き、比婆之山へと向かう。雑木林に白い花をつけているのはタムシバ。木々に新芽を呼び起こす先触れの花である。歩く尾根は男鬼町の南に屏風のように立ちほだかり、河内との間を遮断している。高取山と比婆之山の間には男鬼越とハナシノ越の二つの峠道が横切っていたという。男鬼越は河内寺院横の突合奥から男鬼へ越える道で、ハナシノ越は甲津倉から比婆之山の東の谷へ越え、男鬼へ向かう道である。尾根を歩く間、鞍部で気をつけていたが、それらしい峠は見えない。登るものの両斜面に道は残っていない。

ただ、ハナシノ越の南の道だけは残っているようだ。比婆之山の登りにかかるとササが刈られて道が出来ていたが、これもやがてやぶと化してしまおう。

尾根を登り切り、比婆之山のピークを北へくると比婆神社。拝殿は御神体である白色の岩を背に建てられていた。この神社は湖北地方が出雲の国であったという「近江高天原説」に由来する神社で、今でもそれを信じる人の参拝が絶えない。



高取山へ登る尾根から雲仙山を見る



多いほど慎重に登らなければ怪我しやすい。登って行く岩の棚にはヒトリシズカが群生しており、カチンソウや白い妖花ヤマシヤクヤクも見られるようになってくる。そこからゆるく広いブナ林の尾根を登って、岩の多いコブを越え、杉林を登り切ると高取山のピーク。南の展望はなく、北方は木々の間から男鬼山が見えるだけ。

という。神社へは男鬼町から登って行くが、男鬼町自体も開村は神世の時代に遡るといわれるほど、古い歴史をもっている。その後7世紀頃、雲仙寺が栄えたとき、雲仙山周りに建てられた七つの別院(落合の観音寺・河内の安養寺・大杉の大杉寺・仏生寺と花厳寺・丹生の松尾寺、それに男鬼の男鬼寺などの)所在地として、寺の名前だけが町名として残っている。ちなみに、最近まで残っていた寺は丹生の松尾寺だけである。

比婆之山へ戻り、さらに尾根を西通する。標高点639坪のピークから南へ向かい、イワスへ着く。ちょうど、住友探石場岩壁の上へ出たのだ。ここから見る南方の景観は最高だ。左遠くに売けたような高家山があり、その奥に釈迦岳と雨乞岳がうすばんやりと見えている。すぐ前には陣尾山、右手にイブキ、眼下に彦根の平野が広がっている。東側の林が大きくなっていることができたに違いない。以前にはこのピークに3等三角点があったのだが、石灰岩鉱山開設のため、崩壊の危険から西にあるピークに移設された。それが現在の三角点峰「イブ

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

- 近鉄**
- ▽春のチャレンジハイキング「福を求めと福神へ」 5月3日(例)小雨決行(集合) 桜井コース) 桜井駅前8時〜9時10分(飛鳥コース) 飛鳥駅前9時10分〜10時10分(コース) 桜井コース) 桜井駅 土舞台 安徳文殊院 高家 八約 万葉文化館 山原寺跡 文武天皇陵 一キトラ古墳 上子島沢砂防公園 一猿石 高取山 高取城跡 高取峠 矢走 車坂 大阿太なし福 花吉野ガーデニング住宅地 福神駅(約29分)健脚回(飛鳥コース) 飛鳥駅 検限寺跡 一キトラ古墳(以下桜井コースと同じ) 福神駅(約29分)健脚回 参加自由・無料(拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽陸奥ふれあいハイキング「鳥見山から十八神社へ」 5月11日(例)雨天中止(集合) 榎原駅前9時45分〜10時10分(コース) 榎原駅(バス) 天満台東2丁目 一十八神社(東海自然歩道) 一鳥見山公園 榎原駅(約10分) 参加自由・無料(バス代は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽近鉄万歩ハイキング「長居公園と安倍晴明生誕の地を訪ねて」 5月12日(例)雨天中止(集合) あべの橋地下東改札前9時30分〜10時(コース) あべの橋駅 松虫塚 安倍晴明生誕地(安倍晴明神社) 一伝北葛原家墓 長居公園 酒君塚 針中野駅(約8分) 参加自由・無料(拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽近鉄万歩ハイキング「矢太丘陵長弓寺・雲山寺・矢田寺」 5月19日(例)小雨決行(集合) 長弓寺境内9時40分〜10時(富雄駅東改札口下車約30分)(コース) 富雄駅 長弓寺(勢至菩薩、午年守り本尊) (バス) 雲山寺(阿弥陀如来、戌猪年守り本尊) 一松尾寺 一平群駅(約13分) 参加自由・無料(バス代・拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽近鉄・南海・朝日合同企画「金剛・葛城山麓ハイキング(奈良県)」 5月26日(例)小雨決行(荒天中止・中止の場合6月9日(例)に延期)(集合) 御所駅前8時30分〜9時40分(A・Bコース共)(コース)
- ▽近鉄万歩ハイキング「信貴・生駒山系の道 信貴山(玉蔵院)」 6月2日(例)雨天中止(延期の場合6月8日(例)) (集合) 龍山駅前9時30分〜10時(コース) 龍山駅 龍山山頂(信貴山) (らくらく登山道) 一大阪府民の森 一十三峠 一立石越 信貴山(玉蔵院) (阿闍如来) 一信貴山下駅(約14分) 参加自由・無料(拝観料等は別途)、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
- ▽近鉄万歩ハイキング「御所駅 鴨都波神社(受付) 一孝昭天皇山上陵 鴨山神社 一六地藏 一九尊寺 一言主神社 一極楽寺 一橋本 一高天彦神社 一菩提寺 一高城の道歴史資料館 一高鴨神社 一風の子 一船宿寺 一宮山古墳 野口神社 一鴨都波神社(解散) 一御所駅(約20分)(Bコース) (ファミリー) 一御所駅 鴨都波神社(受付) 一孝昭天皇山上陵 鴨山神社 一六地藏 一九尊寺 一言主神社 一極楽寺 一橋本 一高天彦神社 一菩提寺 一高城の道歴史資料館 一高鴨神社 一風の子 一船宿寺 一宮山古墳 野口神社 一鴨都波神社(解散) 一御所駅(約20分)(Bコース) (ファミリー)



キ)である。大展望を楽しんだ後、東へくだり岩壁の下へ出る。そこから道を猫峠へ出て、イブキへ向かう。二次林の谷を登り切るとイブキ山頂。三角点はセメントで固められた台座の真ん中にあり、標石はほぼ南向き。イブキからは斜面を南へくだり、古い峠道へ出て、墓地のそばをス通って後谷へくだる。間違って西南の尾根にのってしまつと、水谷の方へくだってしまうので、注意が必要だ。後谷は屏風・保月・杉・桃原と同じ山奥の村である。昭和の初期一時は200人もの人が住んでいたというが、今では廃村に近く、数人が居住しているにすぎない。後谷からの舗装路の道脇にはトキワイカリソウや、このあたりではめずらしいというトウゴクサバノオが花をつけている。ワサビがあちこちに生えており、根こそぎ採ってしまわないように。廃校へは車道を歩かず、屏風岩のある谷へ急斜面をくだる。昔は子どもたちがこの道を伝い学校へ通つたというが、今では道も荒れ道の姿を留めていない。道がやっとハッキリしてくると、大きな八枚の花びらを持ったイチリンソウが目につく。舗装路に出ると、廃校はすぐそばであった。春、この山域には数多くの花が咲いているが、家を持って帰るのは言語道断。花や自然は楽しんで歩きたいものである。(平成12年4月23日歩く)

△コースタイム△
 河内線廃校(車15分) あげん原(1時間) カワタニ越(45分) 高取山(1時間40分) 比婆之山(10分) 比婆神社(25分) イワス(45分) イブキ(40分) 後谷(45分) 廃校

△地形図△2万5千 高宮・彦根東部

6 (6775) 3566
▽陸奥ふれあいハイキング「吉野宮滝万葉コース」 6月8日(雨)雨天中止(集合)大和上市駅前9時15分(25分)「コース」大和上市駅(バス)宮滝―榎木神社―推見松地蔵堂―如意輪寺―吉水神社―金山寺―上野野(約9分) 参加自由・無料(バス代・往復料等は別途、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
▽近鉄万歩ハイキング「注目のキトラ古墳と飛鳥考古学散歩」 6月23日(雨)雨天中止(集合)飛鳥駅前10時10分(コース)飛鳥駅―於美阿志神社(簡原寺跡)―キトラ古墳―文武天皇陵―朝風峠―石舞台古墳―川原寺跡―飛鳥駅(約10分) 参加自由・参加費300円(往復料等は別途) 講師明日香村教育委員会文化財課相原嘉之氏、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
▽近鉄万歩ハイキング「河内飛鳥(平石寺)孝徳天皇墓」 6月30日(雨)雨天中止(集合)飛鳥駅前9時30分(コース)飛鳥駅前9時30分(コース)飛鳥駅―長尾神社―福地塚―平石寺―高貴寺―簡原寺跡―推見松地蔵堂―上野野―榎木神社―推見松地蔵堂―如意輪寺―吉水神社―金山寺―上野野(約9分) 参加自由・無料(バス代・往復料等は別途、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566

皇陵(竹内街道)上ノ太子駅(約13分) 参加自由・無料(拝観料等は別途、営業推進本部大阪ハイキング係06(6775) 3566
南海
▽駅長推薦南海沿線平日ぶらり「京街道不動坂口から花の高野山を訪ねる」 5月9日(雨)雨天中止(予備日5月14日) (集合) 極楽橋駅10時(コース) 極楽橋駅―女人堂―鞍馬山森林公園―金剛三昧院―総持院―金剛寺(バス) 高野山駅(約8分) 参加自由・無料(バス代等は別途、南海テレホンセンター106(6643) 1000
5
▽陸奥ヘルシーハイキング&ウォーク「春風に萌える緑 高野七口・女人道をめぐる」 5月11日(雨)雨天中止(集合)高野山駅10時45分(コース) 高野山駅(バス) 女人堂―大門―お助け地蔵―ろくろ峠―門通津寺前―奥の院(バス) 高野山駅(約7分) 参加自由・無料(バス代等は別途、南海テレホンセンター106(6643) 1000
5
▽駅長推薦南海沿線ぶらりあるき

「旧大和街道から新緑の杉村公園を歩く」 5月18日(雨)雨天中止(予備日5月25日) (集合) 橋本駅10時(コース) 橋本駅―旧大和街道―一言王神社―杉村公園―御幸辻駅(約10分) 参加自由・無料、南海テレホンセンター106(6643) 1000
▽南海・近鉄・朝日合同企画「和泉葛城山登山ハイキング」 6月2日(雨)雨天中止(雨天中止、中止の場合6月9日(日)に延期) (集合) 南海・岸和田駅前8時30分(予備日5月14日) (コース) 南海岸和田駅9時40分(コース) 南海岸和田駅(バス) 牛滝山―牛滝山大威徳寺(受付)―二十丁地蔵―和泉葛城山―粉河ハイランドパーク―五木松―大鳴山本堂下広場―大鳴山(解散) (バス) 泉佐野駅(約15分) 参加自由・無料(バス代等は別途、南海テレホンセンター106(6643) 1000
5
▽駅長推薦南海沿線平日ぶらり「与野野子、その歌・恋・人」 6月5日(雨)雨天中止(予備日6月12日) (集合) 堺駅10時30分(コース) 堺(西口) 駅―覚意寺―西本願寺堺別院―泉陽高校(旧堺女学校) 土居川公園―堺市民会館―堺市女性センター―少林寺小

学校―UJ銀行堺支店前―与野野崎子生家跡―堺(東口) 駅(約7分) 参加自由・無料、南海テレホンセンター106(6643) 1000
京阪・叡山電車・江若交通
▽「くじやくMハイキング」春の草花、マキノ赤坂山 5月9日(雨)雨天中止(集合) JR安曇川駅9時(コース) 安曇川駅(バス) 黒河林道―明王堂―不動尊―赤坂山―ブナノ木平―マキノ高原(バス) JR近江今津駅(約10分) 参加費1700円(バス代等)、(申込先) 江若交通本社077(573) 2701
▽朝日・五私鉄リレーウォーク「石清水八幡宮から上津屋橋(流れ橋)へ」 5月12日(雨)雨天中止(集合)5月19日(日)に延期(集合)石清水八幡宮・朝宮(叡阪八幡市駅下車5分) 9時10時30分(コース) 石清水八幡宮・朝宮―木殿―エジソン記念碑―男山―ひだまりの路―松花亭庭園―市民スポーツ公園―四季彩館―上津屋橋(流れ橋)―木津川サイクリングロード―車伝庵(らくがき寺)―石清水

八幡宮・朝宮(八幡市駅(約15分) 参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947) 3700
2
▽フラワーウォーク「シャクナゲ鑑賞「天ヶ岳」寂光院」 5月15日(雨)雨天中止(集合) 鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅―薬王坂―天ヶ岳―しゃくなげ尾根分岐―寂光院―大原バス停(約11分) 参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781) 5121
▽比良連峰アタック「明王谷・奥の深谷」 5月26日(雨)雨天中止(集合) 京阪出町柳駅コンコース 9時10時(コース) 出町柳駅(バス) 坊村―伊藤新道出合―牛ノ木―大橋―金剛分岐―(奥の深谷) 深谷(約11分) 山上駅(コース) JR比良駅(約6・5分) 参加自由・参加費2100円(バス・ロープウェイ・リフト代含む) 京阪電車ハイキング担当06(6947) 3700
▽くじやくMハイキング「新緑の再生ブナ原生林散策」 5月30日(雨)6月6日(雨)雨天中止(集合) JR安曇川駅9時(コース) 安曇川駅(バス) 朽木市場経由・

生杉―三國峠―杉原峠―生杉(バス) 安曇川駅(約13分) 参加費3000円(バス代等)、(申込先) 江若交通本社077(573) 2701
▽フラワーウォーク「ハーブ・アジサイ鑑賞「薬王坂」大原」 6月5日(雨)雨天中止(集合) 鞍馬駅10時(コース) 鞍馬駅―薬王坂―静院―江文峠―江文神社―井手町分岐―寂光院口―大原バス停(約8分) 参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781) 5121
▽スボニチファミリアハイキング「貴船からアノガ谷へ」 6月16日(雨)雨天中止(集合) 貴船口駅前9時30分(コース) 貴船口駅―貴船神社―奥宮―奥貴船橋―アノガ谷―田代青峰―峠下―扶桑橋―鞍馬温泉―散策鞍馬駅(約11分) 参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947) 3700
▽くじやくMハイキング「新緑の嵯谷ヶ峰」 6月20日(雨)雨天中止(集合) JR近江高島駅9時(コース) 近江高島駅(バス) ホッパ峠―嵯谷ヶ峰―グリーンパー

ク想い出の森(バス) 安曇川駅(約10分) 参加申込制(1ヶ月前から) 参加費2000円(バス代等)、(申込先) 江若交通本社077(573) 2701
京都バス比良ロープウェイ
▽ネイチャー・トレッキング「シャクナゲ鑑賞」 5月2日(雨)・8日(雨)10日(雨)雨天中止(集合) JR比良駅8時45分(コース) 比良駅(バス) 山籠駅(リフト・ロープウェイ) 山上駅(当日コース発表) 山上駅(ロープウェイ・リフト) 山籠駅(バス) JR比良駅(約5分) 参加電話申込制(1ヶ月前から) 定員各120名、参加費2600円(バス・ロープウェイ・リフト代含む)、(申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516
▽京都北山三角点トレック「品谷山・養村八丁」 5月11日(雨)・18日(雨)雨天中止(集合) 京阪出町柳駅コンコース8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 賞院―ダンノ峠―P866―品谷山―品谷峠―スモモ谷―養村八丁―御部谷―ダンノ峠―賞院(バス) 出町柳駅(約11分) 参加電話申込制(1ヶ月

月前から) 定員各200名、無料(バス代別途)、(申込先) 京都バス運輸部営業課075(871) 7521
▽京都北山三角点トレック「朽木白書岳」 6月1日(雨)・8日(雨)雨天中止(集合) 京阪出町柳駅コンコース8時30分(コース) 出町柳駅(バス) 村井―松本地蔵―牛ノ木―鳥羽上―白倉―白倉南―朽木衛生(バス) 出町柳駅(約9分) 参加電話申込制(1ヶ月前から) 定員各200名、無料(バス代別途)、(申込先) 京都バス運輸部営業課075(871) 7521
▽ネイチャー・トレッキング「新緑の神楽谷」 6月1日(雨)・5日(雨)・13日(雨)雨天中止(集合) JR比良駅8時45分(コース) 比良駅(バス) 山籠駅(神楽谷) 神楽谷(バス) JR比良駅(約3・5分) 参加電話申込制(1ヶ月前から) 定員各120名、参加費1800円(バス・ロープウェイ・リフト代含む)、(申込先) 比良ロープウェイ事業課077(596) 0516

神戸電鉄

▽神戸ハイキング「有馬富士公園
ファミリハイク」 5月3日(祝)
雨中止(集合)三輪神社10時20
分(三田駅北約600m) (コー
ス) 三田駅→三輪神社→志津原→
有馬富士公園→JR新三田駅(約
10km家族回) 参加自由・無料 神
鉄観光事業部078(521) 0
321

▽神鉄ハイキング「炭ヶ谷と摩耶
山ハイク」 5月26日(雨)雨中止
(集合) 谷上駅9時05分(コー
ス) 谷上駅→炭ヶ谷→まむし谷→
シェール道→船高湖→摩耶ロープ
ウェイ→山上駅(約8km)一般
回 参加自由・無料 神鉄観光事
業部078(521) 0321

▽神鉄ハイキング「塚とりの松跡
と光山ハイク」 6月9日(雨)雨
天中止(集合) 道場南口駅10時
(コース) 道場南口駅→鹿の子台
→塚とりの松跡→光山寺→大沢→
長尾→横山駅(約15km健脚回) 参
加自由・無料 神鉄観光事業部0
78(521) 0321

山陽電車

▽山陽ハイキング「中尾親水公園
明石海浜公園ハイク」 5月12日

(雨)雨中止(集合) 山陽魚住駅下
車住吉公園10時(コース) 住吉公
園→住吉神社→中尾親水公園→明
石海浜公園→アサヒ飲料イベント
会場→東一見駅(約10km家族回)
参加自由・無料 須磨浦遊園ハイ
キング係078(731) 252
0

▽山陽ハイキング「淡路島公園ハ
イク」 5月26日(雨)雨の場合
6月2日(日)に延期(集合) 岩屋
港ポートビル前広場(明石駅南西
0.5km) 播淡汽船乗船) 9時30分
(コース) 岩屋港ポートビル前広
場→茶間川溪谷ハイキングコース
→淡路島公園→展望台→ハイウェ
イオアシス→岩屋(船) 明石港
(約10km家族回) 参加自由・無料
(船代別途) 須磨浦遊園ハイキ
ング係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「自然観察公園
(世界の梅公園)を訪ねる」 6
月9日(雨)雨中止(集合) 山陽網
干駅下車榎保川河川敷左岸10時
(コース) 榎保川河川敷→王子橋
→大年神社→円福寺(南)→春日
神社→自然観察公園(龍岡寺)→山
陽網干駅(約14km一般回) 参加自
由・無料 須磨浦遊園ハイキン
グ係078(731) 2520

▽山陽ハイキング「鳥原貯水池か
ら山籠りボンの道ハイク」 6月
23日(雨)雨中止(集合) 山陽電車
西代木社前(西代駅南西すぐ) 10
時(コース) 山陽電車木社前→高
取山→丸山→鶴越→鳥原貯水池→
山籠りボンの道→半野→高速神戸
駅(約10km一般回) 参加自由・無
料 須磨浦遊園ハイキング係07
8(731) 2520

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「神秘的な香り
三池岳」 5月3日(雨)雨中止
(集合) 近鉄富田駅8時22分発三
岐鉄道乗車(コース) 富田駅(電
車) 大安駅(バス) 八風キャンプ
場→お菊池→三池岳→八風キャ
ンパ 木谷→八風キャンプ場(バス) 大
安駅(約6km一般回) 参加予約申
込制 定員200名 参加費20
0円(バス代1000円別途)、
(申込先) 三岐鉄道鉄道部運輸課
0593(64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の電ヶ
岳」 5月12日(雨)雨中止(集
合) 近鉄富田駅8時22分発三岐鉄
道乗車(コース) 富田駅(電車)
大安駅(バス) 宇賀沢→ヨコ谷→
中道→電ヶ岳→ホタガ谷→宇賀沢

(バス) 大安駅(約13km健脚回)
参加自由・参加費200円(交通
費別途) 三岐鉄道鉄道部運輸課
0593(64) 2143

▽鈴鹿の山を歩こう「新緑の釈迦
ヶ岳」 5月19日(雨)雨中止(集
合) 近鉄富田駅8時22分発三岐鉄
道乗車(コース) 富田駅(電車)
大安駅(バス) 朝明キャンプ場→
庵原谷→松尾根頭→釈迦ヶ岳→
猫尾→羽鳥峰→朝明キャンプ場
(バス) 大安駅(約10km健脚回)
参加予約申込制 定員200名
参加費200円(バス代1000
円別途)、(申込先) 三岐鉄道鉄
道部運輸課0593(64) 21
43

▽鈴鹿の山を歩こう「初夏の宇賀
溪砂山」 6月1日(雨)雨中止
(集合) 近鉄富田駅9時9分発三
岐鉄道乗車(コース) 富田駅(電
車) 大安駅(バス) 宇賀沢→五階
滝→長尾滝→砂山→宇賀沢(バス)
大安駅(約8km初級回) 参加自由・
参加費200円(交通費別途)、
三岐鉄道鉄道部運輸課0593
(64) 2143

□これ以外にも多数の催しがあり
ます。各社の広報も見て下さい。

あせらせ

題字・小林玻璃三

12月下旬、納山会で丹波篠山の
虚空蔵山へ登った。
篠山といえば、司馬遼太郎が
『街道をゆく』に「東京の青山
に地名を残した」と記述したの
を思い出す。
この丹波篠山と東京の青山の
奇妙な関係を調べてみると、江
戸期に江戸のとある土地に丹波
篠山六万石・青山藩(官名・右
京大夫)の屋敷があり、そこを
「青山」と呼び慣わしたからだ
であった。

ところが、この稿を書くにあ
たり、もう一度読み返してみ
ると、司馬氏の記述はさらに続き
、「……もともと、青山の地に藩
邸をすつと持っていたのは別家
の青山氏のほうで……」ともあ

る。
岐阜県郡上郡八幡町役場に手
持ちの資料の確認をしたところ
こちらは美濃郡上四万八千石・
青山藩(官名・峰之助)で、上
屋敷を青山足軽町に持ってい
た。
一方、篠山の青山藩もさらに
詳しく調べてみると、中屋敷が
幕末まで続いていた。
さすがの司馬氏も中屋敷まで
は気がつかなかったらしく、や
やこしいことに、この地に青山
二家が存在していたことがわかっ
た。
この時代、江戸に上屋敷・中
屋敷・下屋敷を持ち、京都に京
屋敷を持つ大名がいたが、なか
にはこの郡上藩のように江戸に

上屋敷だけしか持たない大名も
いた。
ちなみに篠山藩の上屋敷は筋
違橋、中屋敷は青山大和町、京
屋敷は六角通り堀川西入ルにあっ
て、下屋敷はなかった。
さて、JR篠本駅前から小ビー
ク群を南に大捲きにする表参道
と、北に大捲きする裏参道があ
る。われわれは酒垂神社の右手
から竹林を抜け、杉林を突き進
む。するとすぐ道がなくなる。
沢登りを避け、右岸の尾根を突
き上げて行くとトラバースぎみ
に踏み跡らしいのが出てくる。
構わず直登し、359mの南の
コンタ12990mの等高線でく
くられていないタランとしたピー
クに出た。さらに進む359m以
で基点発見。接写カメラで一
枚撮る。そこから少し北に行き
テープに従って西に行くとも裏
参道で、これに合流すれば後は簡
単だ。
虚空蔵山は地形図に592m、
ガイドブックに596mとあり、
克明に読むと南峰と北峰があり
てやっと思味がわかった。とこ
ろが南峰に着いて道標を見ると
596・0mとあり「スワッ!

○新ハイ関西サービスチェーン

- 名峰・二岐登山 小内山・大白森・甲子郡・郡上への縦走(現地) 1名でも縦走り 駅送迎(要予約) 雨天降天中止
- 福島・二岐温泉 日観連 大和館
- 富士登山・京十五層 東海道を歩こう (右衛門山・ハリモミ・結核)
- 三回山の麓
- ペンション コットンテール 〒401-0502
- 山梨県南都留郡山中湖村早野 0555-6518515
- 大分県津久喜市津久喜 0975-22-1100
- 山小屋 福ちゃん荘 〒404-0022
- 尾張 早々岳(尾張)の山小屋 尾張 早々岳(尾張)の山小屋
- 清四郎小屋 ほんもの手作り&お土産は
- 樹海 〒256-0000 新潟県北魚沼郡津川町津川 0950-125514
- 0950-125514 0950-125514
- 025791215026

新しく三角点を取りつけられたのか」と皆で探しまくったがどこにもなかった。あの「1・0」は全く余分だ。
じっくり展望を楽しんだ後、忘年会となった。ビールやワイン、だれが持ち上げたのか一升びんが出てきて乾杯。今年一年の健闘をたたえ、来年の無事を祈った。(向日市 湯浅康夫)

12月28日、日躰山に登った。「ひおどり」「ひよどり」とちらがもとの名か。
度会・南勢町の鴻坂峠から尾根沿いに20分進むと山頂(385m)で、苔のついた3等三角点がある。岩に登ると、獅子ヶ岳・局ヶ頂等の山と熊野灘が望める。この岩の名前を「カンテラ岩」というらしい。

登る前には、鶴のいる山か照葉樹林に日の光踊る山かと推測していたが、灯の揺れる山「灯躰山」かとも思えてきた。後日、両町の町誌を見たが、由来はわからなかった。
1月12日、仏ヶ平に登った。「ほとけがひら」と読むのだろうか。関町を通るたびに、いつ

も目にして気になっていたこの山に、今年初めて登った。鉄塔巡視路なので危げなく行けたが急斜面に立っている鉄塔には驚いた。山頂(569m)には、山名板が一つあるだけ。倒木の間から錫杖ヶ岳が見えていた。一〇七号鉄塔からは鈴鹿の山々がよく見え、綿向山と雨乞岳は雪をかぶっていた。(松阪市 数木伸人)

2月27日、ナンジャモンジャの木を見に行きました。この寒いさなかに、落葉樹であれば枯れ木と同じではありませんか。この木がナンジャモンジャの木であると、わかるのでしょうか。5月になれば白い花が咲くのですから、その時に行きましよう、と言ったのですが、どうして行くことになったのかと申しますと、2月15日、門扉に今届ったばかりの可愛い物が五本ぶら下げられていたので、そのお礼の電話をした折、「5月に狭戸へ、ナンジャモンジャの花を見に行くのよ」と申しましたところ、22日に「きょう見に行きませんか」と言って

来られ、理由を聞きますと、「いつ入院し、帰って来られなくなるかわからないから」とおっしゃるではありませんか。5月まで待てない。
先ず、東吉野村役場へ行って場所を確認。表示されていないにもかかわらず、その木の前に立ったとき、「この木だわ」と心に響いてきた。思わず木肌に触れ、葉を落とし冬枯れた大木六本が私たちを待っていてくれたような、とても満ち足りた思いがいたしました。(橿原市 前川和佳子)

会誌63号が届いた。購読してから早や10年になります(入会は5号から)。
私が、会員を10年間続けてこられたのもMリーダの北山山行に参加したのがきっかけでした。Mリーダの山行は平日だったので、会社に休暇届けを提出する理由に、兄弟・妻を病気に、親戚の結婚等、やり繰りの山行でした。

私は北山の魅力に取りつかれ、Mリーダの山行には、数多く参加させていただきました。
1月7日 金剛府庁山
時には恋人のように頭をつなぎ峰越えゆけば君に逢えるかと
1月14日 高野雪池山
雪池の名に似て美しき山々見ゆヤブ清きし稜線の向こうに
1月17日 金剛旗尾岳
コブいくつ越えたかも知らずに夢見つつ山の駅へと帰りゆく
1月25日 紀北矢野岳
薄雪のいろどる岩尾根をゆけど又きソナタの残響は消えず
1月31日 播州千ヶ峰
音符を徹く天使の空を舞うグイヤモンドダストよ樹氷光らせろ
2月3日 北山峰床山
八丁平の湿原の裸木さびしそう慰めて雪と風のハーモニ
2月7日 高野奥山三山
われら白銀の山と谷めぐり来て汚れなき鐘にネコ柳芽生え
2月15日 就職内定の陽一郎に草萌ゆるころ晴天の米たるとき法務局の道へ歩み出づよ
(吹田市 木村太郎)

その後、Kリーダとの出会いがあり、4年前からは毎週の日行で、三重・岐阜・滋賀・福井・奈良・大阪・兵庫と近畿全域の山に挑戦されている。わずから5年余で、今年には200回の山行を達成されるようです。
Kリーダの山行にも80回程参加させていたでいて、今後とも体力が続くかぎり、各リーダの山行に出会いを求めて参加したく思っている。
(宇治市 中村英雄)

山行短歌
1月6日 能登ヶ峰
蜂の地球をつかみ悠然と風雪に耐え風高は映えて能登ヶ峰アセビの園の雪原は濃霧流れて粉雪舞って
雪山のぼの宴の楽しみはみんなほかほか焚火囲んで
1月13日 霊仙山
霊仙の雪庇の下の日溜りヒップスキーの思い出重ね
1月20日 日本コバ
大寒は深山秘境日本コバ小春日和で日はさんさんと豹の穴洞窟の奥の先にヘッドライトは神秘の池を

2月2日 雨乞岳
大納言V字の谷のキャ原を雪け散らして鹿走り去りぼすぼすと膝まで滑る雨尾根紺碧の空樹水のなかを雄大な雨乞岳の雪原に
おいおいと声掛け合って
2月10日 綿向山
別世界樹木の華に囲まれて霧は流れて粉雪舞って
2月11日 津田山
猛烈な吹雪に押しされ山を越え南斜面は日溜りのなか
2月24日 霊仙山
空は冴え伊吹金嶺横山と湖北の山は白く輝やき
ぼっかばか雪庇の下の日溜りは笑顔笑顔で昼の宴がヒップスキー 霊仙山ラージヒル
逆さ落としや警点越えも天空の未踏の雪庇踏る絡めて
西南尾根は大パノラマが
(近江八幡市 若野 明)

山行短歌
12月24日 紀泉三峰山ササ峠
麗人それとも孔雀かも鎌尾根のラッキーリングの羽拂ける影
1月3日 北山鞍馬山ノノ瀬
季節風つめたき雪を呼び寄せて

ハイカーの宿・池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-1210 新潟県中頸城郡妙高町池の平温泉
0255-8612261

休養食入浴も歓迎
10名以上マイクロボスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館
〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1-39
0460-419041

四季織りなす東谷原のハイイク
上宮地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日輪連
温泉旅館 けやき山荘
〒390-1500
長野県安曇郡安曇村東谷原
0263-9312555

さわやか信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野 屋 旅館
〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
0269-3313578

標高2000m 雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCSKI
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
0267-2512000

ハイキングにノ スキーにノ
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯温泉床下車
0269-3412421
東京本社・東京新宿区新宿3-1-2015 (新大塚ビル)
御スポーツサービス
03-33341021

樹海高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て送迎します
スノーシュー&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴィヴアルディ
〒399-9301
長野県北安曇郡白馬村樹海高原
0261-7217255
http://www.vivaldi.com/jp/

樹の道 千回街道
百八十七体(観音原)
ホテル
白馬ブランドシエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村
0261-7214452

「登頂」などという記録が残るわけでもなく、雪山アタックなどという冒険をするわけでもありません。ただ、白馬連峰山麓の林間を歩いて雪遊び、自然にふれるというだけのことなので、参加者はごくわずかなものだろうと考えていたが、定員を超える申し込みにあつて、正味、少々驚きました。

現地集合のため、多くの方はスキーバスを利用したのですが、ギヤルでいっぱいの中内には身の置きどころがなく、まんじりともしないで一夜を過ごした男性もあつたようです。こんなことならバスをチャーターすればよかつたかと、私は悔やむことになりました。

ハイキングは、新ハイサービステューンのペンション「ヴィヴァルディ」の全面的な協力をいただき、ご主人とその仲間案内で後立山連峰の絵のような景観を仰ぎながら、雪深い尾根やブナの森をスノーシューで歩き、樹木や哺乳動物のフィードルサインを観察しました。2日を超える積雪の森は広く明るく、スノーシューで歩けば、ト

レースのない雪原さえ自由自在で、深雪のフワフワとした感触は、私たちを子どもの世界に呼び戻してくれました。

宿の「ヴィヴァルディ」は、リッチで落ち着いた雰囲気の中清潔感に溢れ、ゆったりとくつろげました。宣伝するわけではありませんが、フルコースのディナーと自家製ワインはちょっと豪華なものです。いろいろご心配やらご迷惑をおかけしたにもかかわらず、「ヴィヴァルディ」の皆さんのおもてなしは最後までとても温かで、参加者からは白馬への再行を望む声が多数ありました。

自然の懐に抱かれ、心豊かで印象深い2日間は、私が期待した通りのスノーハイイクでした。「ヴィヴァルディ」の皆さんに深く感謝します。

(各務原市 鷺見守康)

2月上旬、暖かい日を選んで生駒山系再南端の高尾山へ登った。登山というにはどうかと思われる程の低山(2788m)であるが、実によい山行きとなつた。

完全に落葉した冬期の雑木林の樹間からは、この季節以外には望めない見通しの良さ。そして陽光を全身に浴びながらの山歩きである。

ガイドブックなどに「思いっきだけで登るのは非常に危険」と書かれていた岩場を、用心しながら登り切った巨岩の上では、河内平野の展望が大きく開けていた。頂上では、二上山や大和川なども樹間を透かして眺めることができた。登山の途中には、満開のカンヒ板や水仙に目を奪われたりした。

一年の幕開けとして、この時期以外には望めないすばらしい山登りを果たせたと思うのである。

寒さ嫌いなので、正月をはきむ2ヶ月間は山登りを敬遠し、もっぱら東海道などのウォーキングに精を出していたが、そろそろ冬眠期からの脱却を意図し、手始めに極低山を選んだ。ただし、服装は夏と同様の備えとし、リュックの内容も同一を心がけた。

これからは次々と標高や登る標高差の目標を高めて行き、真

夏には一昨年の白馬岳や昨年の槍ヶ岳と同様、3000m前後の高山を目指すのが、高輪に達した私の近年の登山パターンとなつている。

一つ一つの山行ごとにおびたらしい写真やメモが残るので、アフター登山には多くの時間をさかねばならない。しかし、それによってその山を深く理解することができると、いろいろ出されてくる登山記や掲げられている写真などに、強い実感をもつこともできるのである。

登山の多くは独り歩きであるため、困ったやつだとの苦情や懸念も耳にするのだが、慎重に晴天の日を選べばすばらしい記憶や記録が残る。それらは何物にもかえがたい私の宝物となつている。(枚方市 東谷 弘)

先日、兵庫県立森林・林業技術センター主催の森林・林業フォーラムに出席する機会を得た。山へ入って、いつも感じる人工林の枝打ち、間伐の遅れ。いまだに狭く落葉広葉樹の減少と里山の放棄、などの解決方法が発表されるのかと期待したので

がガツカリであった。

平成10年、林野庁が「国民の森林」構想を発表している。森林は木材生産の場であるという方針を減らし、「森林と人との共生」が、木材生産の場よりウェイトが高くなっているのので、期待しての参加であった。

われわれが今後期待することは、予算消化の無駄な林業建設はやめ、人工林伐採のことには落葉広葉樹を植林することだ。高らかに謳い上げた「人との共生」は華美な設備や道路をつくるのでなく、森林の息吹を感じる設備や道幅でよいのである。

今や、期待や要望ばかりでなく、協力する体制や交流する機会をつくり、全ての生きものに明るさの差す山塊づくりに係わるときが来たようである。

(姫路市 須藤岡 横)

インターネットが普及して、山の本の購入も便利になってきた。私はもっぱら、送料が無料のH屋さんを利用している。一冊でも送料が不要ということは、ついでに立ち寄る書店ならともかく、交通費を出して出かける

八ヶ岳南北縦走の中心地。59年秋新築増築完成全館個室木の香匂う新浴場誕生水湯宿オーレン小屋
1泊2食付き 6000円
4月末〜10月末開設
〒3391-0213 小車湧天
茅野市豊平27220
電話 02666-721-1279
02666-721-1279

北八ヶ岳の登山基地。冬はスキーJ長光野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します
資料高原
プチホテル カナール
〒3391-0301
茅野市北山資料高原豊平5513の1
電話 02666-671-2258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒根山登山口まで送迎
クロカン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村水ノ原
電話 0261-2544-2081

日本唯一の女人禁制の山(大峯村)「女名山」の登山口。温泉・名水の里
旅館 紀の国屋基八
1泊2食付 7,000円内から
〒63810431
奈良県吉野郡天川村河川
電話 074761410309

九州の最高峰・日本百名山宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891-1431
鹿児島県鹿嶋郡久町安房
電話 0997441613021

御在所登山に愛知川渓谷歩きに山好き仲間が集う宿
朝明茶屋
山小屋 朝明茶屋
〒510-1251
三重県三重郡菟野町千草
電話 0593319311789

那岐山山麓の町近く百名山の大山二野名山の水ノ山・志保山などあり。三百名山 那岐山のふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県勝田郡余部町高円
電話 086813614154

(仮題)の製作が同会において進められている」とあるのは、耳寄りな情報であろう。どれだけの規模のものなのかからなにが、最近の「日本山名総覧」等をきっかけに高まっている、山名情報における決定版が全国

レベルで揃うことを期待したい。「近江百山」の編者がある近江百山之会では、「坊の嶺」の「山名一覽表」の完成を目指して、滋賀県内の700山以上の山を登り尽して、「滋賀県登山辞典」をつくるという目標に向かって歩んでおられるとき、こういった地道な活動の成果が、全国的な山名情報の整備に大きく寄与していくことだろう。

現在、流通している本なら容易に入手できるが、品切れや絶版の場合は再版されない限り、一般ルートでは手に入らない。たとえば、鈴鹿三部作で有名な辻原一氏の著作『鈴鹿 樹林の旅』『鈴鹿源流』『鈴鹿夢幻』のうち、一冊目は現在品切れ、いずれ改訂版が出るとはきいていいるが、今、山人舎に申し込んでも、本は入手できない。ところが、インターネットで検索して、あるところに入し込んだら、平成13年9月に入手できたのである。それは、東海三県の郷土史の newborn・古本を集めた本屋さん、ブックショップ「マイタウ」(052・561・3974)であり、その新本リストの

中に「鈴鹿 樹林の旅」があったのである。もう、入手できないと思っていただけに、喜びもひとしおであった。ちなみに、「マイタウ」では振り出し物や一般の書店で買えない本もあり、郷土史に興味のある人にはおすすめである。

「鈴鹿 樹林の旅」の中で気にかかる地名があった。この本は以前、図書館では閲覧していた、「大見晴」とはいいたいどう読むのだろうかと考えていた。「大きな見晴らし」だから、「おおみはらし」だろうとは見当をつけたが、すぐには確認できなかった。山と高原地図(雲備・伊吹・藤原)には、大見晴の西によく似た発音の「近江放」がある。西尾寿一「鈴鹿の山と谷2」には、69頁に「大見晴・近江放」、72頁に「大見放・近江放」とあるが、読み方は示されていない。ところが、辻原一「近畿山想」(在庫切れ)を見ると、19頁には、「おおみはらし」という読み方が示されていた。角川地名大辞典「滋賀県」の1121頁右下「佐目」の字名には、「大見放」があり、一字が誤植だが、

読み方は「ヤマミハナシ」となっている。旧かなづかいがおかしい(ヤマミハナシ)が、「大見放(おおみはなし)」が正しいのである。一般の登山地図にある「近江放」は多賀町の地籍には現れないので、正しい表記ではないようだ。

地名は読み方が難しい。最近では、若い世代でも国語力の低下があり、その改善のため、総ルビの復活を望む声も出てきている。少なくとも、地名の総ルビは100%実施して欲しいものがある。読めないのは、入る情報の少なさが大きい要因ではないだろうか。もっとも「おおみはれ」というルビでは困るのだが……。

近江ということで思い出したが、伏木貞三氏の著作は今でも要望が高く、探している人が目につく。「近江の山々」(白川書院)は古本以外には入手不可能であろう。私は、図書館で閲覧した後日、古書店で購入できた。「近江の峰」のほうは、平成12年7月に、ご自宅の「浅井町東主計232 伏木貞三」宛

に問い合わせたところ、ご家族の方から「残部が少々あります」とのことでお買得なわけにいたくすることができた。

古書店はインターネットでも開店しているが、大半は、まだまだごまめに目録や古書店の店頭で探すしか振り出し物は見つけれないだろう。

(窪屋川市 柴田昭彦)

2月3日の鈴鹿百山26の山行では、前日の降水確率が70%で、体調不良や雨天欠席が8名もありました。しかし、集合した頃は雨も上がって歩くのは全く問題なく、思いがけず積雪が10〜15cmありました。

私の所属する自然観察会は雨天決行なので、雨や雪のときしか見られない自然状況も多くあります。もちろん、天候によってはルート変更や時間短縮はよく行います。

これからも楽しい山歩きができるように心がけていきたいと思えます。あまり天気予報に振り回されず、出かけずしてくださるようお願いいたします。

(南濃町 山田明男)

山行計画 (5・6月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「八頁に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申し込み先へ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はご連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」までを記入してください。

奈良・大和葛城山から若樺山 (一般向き)

期日 5月3日(祝) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄御所駅9時55分

コース 御所駅(タクシー)水越峠・葛城山・若樺山・竹内峠・磐城駅(解散)

費用 約5200円(名古屋から)

地図 昭文社「葛城高原・二上山」

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121 葛城市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
① 広大な草原の山頂からダイヤモンドトレールを歩きます。
② 雨天中止

御池岳の池を巡る自然探歩山行15
(中級向き)

期日 5月3日(祝) 日帰り

集合 ①JR関ヶ原駅8時25分/②三岐西野尻駅8時35分

コース 各集合駅(車)コグルミ谷・長命水・カタクリ峠

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなく記入してください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

(初心者向) やさしいコース
(初級向) どなたでも歩けます
(一般向) ハイキングの標準コース
(中級向) かなり経験者のコース
(やや健脚向) ・(健脚向) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

幻池—道池—瞑想の谷

—北池—真の池—池廻り

—鈴北岳—鞍掛峠—国道

—コケルミ谷(解放)

費用 交通費各自(車代5000・10000円)

地図 2万5千—藤立

係 ◎山田明男 ○高原芳彦

申込み 〒503-0535

海津郡南濃町松山20の19

山田明男まで

*定員20名

*集合駅を明記ください

*マイカーの方はその旨

記載してください

カタクリのほか、早春の花々が

たくさん見られるでしょう。

雨天中止

時30分頃)

費用 約3000円(タクシー

代含む)

地図 2万5千—栗賀町

係 ◎古賀慶一 ○稲岡茂

申込み 〒675-0011

加古川市平岡町山之下684

の33・17A403

古賀慶一まで

*定員20名(公費に限り)

春の一日、播州の香峰を訪ねま

す。雨天中止

地図 陸奥山行51

湖北・七尾山(一般向き)

期日 5月3日(日) 日帰り

集合 JR長浜駅前バスのりば

9時40分

コース 長浜駅(バス)今在橋—

尾山—送電線鉄塔—小泉

—伊吹登山口(バス)長

浜(解放)

費用 約5000円(大阪から)

地図 2万5千—虎御前山・長

浜/5万—長浜

係 ◎塚元一彦 ○中村登

申込み 〒536-0008

大阪市城東区奥目4の14

の9の901 塚元一彦まで

*定員30名

新ハイキング関西支部と合同、

伊吹山の前後峰を歩いて地形図の

読み方とコンパスの使い方を勉強

します。初心者歓迎。シルバーク

型コンパスと地形図を持参くださ

い。雨天中止

鈴鹿を歩く142

綿向山・酒之岳(健脚向き)

期日 5月3日(日) 日帰り

集合 国道477号線大納言谷

出合広場8時00分

コース 出合広場(車)西明寺水

木林道奥の平—表参道—

綿向山—イハイガ岳—大

峠—清水の頭—雨之岳—

南尾根—P966—大

納言谷—広場(解放)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ

岳」

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

南部鈴鹿の名峰綿向山から雨乞

岳まで縦走し、南尾根を大納言谷

にくぐるロングコースです。

雨天中止

比良を歩く11

伊藤新道から白滝山・蓬萊山

(一般向き)

期日 5月5日(日) 日帰り

集合 JR堅田駅タクシーのり

ば8時40分

コース 堅田駅(タクシー)防村

—ワサビ谷出合—白滝山

—長池(往復)—大歸滝

—辻谷(白谷リフト)蓬

萊山—金比羅峠—蓬萊駅

(解放16時頃)

費用 約2700円(京都から)

地図 2万5千—花背・比良山

昭文社「比良山系」

係 ◎秦 康夫

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

辻谷からは少し楽をして、リフ

トで蓬萊山に登ろうと思います。

*本誌46号参照。雨天中止

北摂・電王山から摂津峡

(一般向き)

期日 5月5日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札

口6時15分/②JR茨木

駅9時20分(*阪急茨木

駅発9時28分乗車可)

コース JR茨木駅(バス)忍頂

寺—宝池寺—電王山—車

作—電仙峽—萩谷—摂津

峡—白糸の滝倉庫—上ノ

口(バス)高槻駅(解放

16時頃)

費用 約5700円(名古屋か

ら)

地図 2万5千—高槻

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

摂津峡は奇岩の連なる溪谷です。

鈴鹿百山30

雲仙山(一般向き)

期日 5月6日(日) 日帰り

集合 JR醍醐井駅8時55分

コース 醍醐井駅(車)惣谷林道

(車) 樽ヶ畑手前駐車地

—びん板峠道—お虎池—

椋塚山—雲仙山—椋塚山

—お虎池—見晴台—汗ふ

き峠—樽ヶ畑(車) 醍醐

井駅(解放)

費用 約3500円(大垣駅か

らバス代等)

地図 2万5千—谷合—下大須

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828

各務原市藤原村雨町の

自然観察山行88

美濃・日永岳(一般向き)

期日 5月11日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅(バス)美山町仲

越後校跡—林道終点—西

ヶ淵分水界—日永岳—仲

越後校跡(バス)大垣駅

(解放18時30分頃)

費用 約3500円(大垣駅か

らバス代等)

地図 2万5千—谷合—下大須

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828

各務原市藤原村雨町の

19の5 鷺見守康まで

*定員30名

標高1216m。美山町舟伏山

の奥に位置する山です。小雨決行

三重の山82

鈴鹿・宮指路岳(中級向き)

期日 5月11日(日) 日帰り

集合 鈴鹿市山本町椿社駐車

場9時00分

コース 椿社(車)小岐須溪谷

山の家(車)大石橋—東

海原草—宮指路岳—小岐

須峠—大石橋(車)椿社

地図 2万5千：口坂本・丹波
大野
◎乗鹿ひろ子○加藤元彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

◎定員26名(会員に優遇)
シャクナゲの群生地と知られて
います。野鹿の滝も水量豊かな流
です。小雨決行

比良・釈迦岳から堂満岳
(中級向き)

期日 5月12日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時50分/②JR比良
駅9時40分

コース 比良駅(バス)イン谷口
→大津ワングル道→釈迦
岳→北比良峠→金栗峠→
堂満岳→イン谷口(バス)

費用 約5200円(名古屋か
ら)
地図 2万5千：比良山・北小
松

申込み ◎小出良春
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

◎集合駅を明記ください
北比良峠から堂満岳付近にはシャ
クナゲの群生地があります。
雨天中止

湖北・余呉湖一周(一般向き)
期日 5月12日(日) 日帰り
集合 J.R.余呉駅9時40分
*マイカー・山行も可

コース 余呉駅→川並区→大平良
山→アチラ坂→謎ヶ岳→
大岩山→余呉駅

費用 交通費各自
地図 2万5千：木之本
申込み ◎高島伸浩
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

近畿百名山に登る(第38回)
六甲・六甲山(一般向き)
期日 5月12日(日) 日帰り
集合 J.R.芦屋駅8時30分

コース 芦屋駅→阪急芦屋川駅→
高座の滝→風吹岩→東お
多福山→七瀬湖→右の
宝殿→六甲山→魚腰道→

有馬温泉駅(解散16時30
分頃)
費用 約3000円(大阪から)
地図 昭文社「六甲・摩耶・
有馬」
申込み ◎村田智俊
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

平日ふれあいハイイク32
北山・雲取山から二の瀬ユリ
期日 5月14日(日) 日帰り
集合 京阪出町柳駅京都バスの
りば7時40分(7時50分
発広河原行に乗車)

コース 出町柳駅(バス)花背高
原→寺山峠→雲取峠→雲
取山→二の瀬谷→芦屋川
生峠→滝谷峠→二の瀬ユ
リ→叡電貴船口駅(解散
17時30分)

費用 約1200円(出町柳駅
から)
地図 昭文社「京都北山」
申込み ◎等井恒夫 ○川上友堅

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雲取山は北山の代表的な山の1
つです。芦屋峠から滝谷峠へ行き
ますので、少し長めのコースとな
ります。雨天中止

平日水環ハイイク52
西山めぐり
南春日からボンボン山・天王山
(一般向き)

期日 5月15日(日) 日帰り
集合 南春日町バス停8時30分
コース 南春日町→天皇護道→金
藏寺分岐→金藏寺→杉谷
→ボンボン山→釈迦岳→
柳谷→天王山→山崎駅
(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
申込み ◎湯浅次男 ○青木一雄
〒569-1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

京都トレイルが4回、西山めぐ
りが3回と京都の周りを歩きまし
たが、今回で終わりです。つづ
けな季節に里山歩きを楽しんでく
ださい。雨天中止

ファミリーハイイク11
紀北・矢筈岳(一般向き)

期日 5月16日(日) 日帰り
集合 新大阪駅1階止面口空港
行きバスのりば前7時00
分

コース 新大阪駅(バス)小釜本
橋→遊歩道入口→鷺ノ川
滝→小釜峠→矢筈岳→
(往路)→小釜本橋(バ
ス)→新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千：川原河
申込み ◎木村太郎 ○中村友昭
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

シャクナゲ咲く荒々しい岩壁を
越え、眺望よい山頂を目指す。下
山後に中津温泉へ立ち寄ります。
雨天中止

週末ハイイク40
大峰奥駈・玉置山から熊野本宮
(中級向き)

期日 5月17日(日) 日帰り
集合 前夜発1泊2日
改札出口23時10分

コース 自然観察山行80
飛騨・十二ヶ岳と天蓋山
(一般向き)

期日 5月18日(日) 日帰り
集合 1泊2日
改札出口23時10分

コース 17日 大和八木駅(バ
ス・車中泊)

18日(バス)玉置神
社駐車場→玉置神社→玉
置山→大森山→五大尊岳
→大黒天神岳→備前→熊
野本宮(バス)上萬川・
民宿(泊)

19日 上萬川→貝吹金
剛→岩ノ口→花折塚→玉
置山→玉置神社(バス)
温泉地温泉(入浴/バス)
大和八木駅(解散)

費用 約26000円(バス・
宿泊代等)
地図 昭文社「大峰山脈」
申込み ◎狩野東彦 ○瓜原利明
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

大峰奥駈コースの最終コースを
歩きます。雨天決行

期日 5月18日(日) 日帰り
集合 1泊2日
改札出口23時10分

コース 北アルプス展望台の十二ヶ岳と
「最後の飛騨」と言われる秘境山
之村にそびえる名峰天蓋山を歩き
ます。雨天決行

期日 5月19日(日) 日帰り
集合 1泊2日
改札出口23時10分

コース 京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分
長老ヶ岳→あずま原→辰
望台→森岡広場管理棟→
七色の木→仏主(バス)
京都駅(解散18時頃)

費用 約4000円(バス代)
地図 2万5千：和知・島
申込み ◎中西信行
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

コース 50分
18日 岐阜駅(バス)

八本原林道→登山道入口
→十二ヶ岳→登山道入口
→八本原林道(バス)新
平湯温泉(泊)

19日 新平湯温泉(バ
ス)神岡町夕顔の駅→森
茂キャンプ場→天蓋山→
森茂キャンプ場→夕顔の
駅(バス)岐阜駅(解散)

費用 約23000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 2万5千：町方・旗鈴・
鹿間・下之本
申込み ◎鷺見守康
〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで

期日 5月19日(日) 日帰り
集合 マキノスキー場・第1ゲ
レンデ(入口より)駐
車場8時45分(マキノ)駅
発8時20分(バスあり)

コース スキー場第1ゲレンデ→
大谷山→寒風山→ムギ
ノ頭→スキー場第2ゲレ
ンデ→駐車場(解散15時
30分頃)

期日 5月19日(日) 日帰り
集合 南春日町バス停8時30分
コース 南春日町→天皇護道→金
藏寺分岐→金藏寺→杉谷
→ボンボン山→釈迦岳→
柳谷→天王山→山崎駅
(解散16時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
申込み ◎湯浅次男 ○青木一雄
〒569-1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

京都トレイルが4回、西山めぐ
りが3回と京都の周りを歩きまし
たが、今回で終わりです。つづ
けな季節に里山歩きを楽しんでく
ださい。雨天中止

期日 5月19日(日) 日帰り
集合 1泊2日
改札出口23時10分

期日 5月19日(日) 日帰り
集合 マキノスキー場・第1ゲ
レンデ(入口より)駐
車場8時45分(マキノ)駅
発8時20分(バスあり)

コース スキー場第1ゲレンデ→
大谷山→寒風山→ムギ
ノ頭→スキー場第2ゲレ
ンデ→駐車場(解散15時
30分頃)

費用 交通費各目
地図 2万5千 駄口・海津
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

近畿地方には珍しいササとカヤトの高原を歩き、大谷山の展望を楽しみ、素晴らしいブナ林を下ります。*マイカー参加も可。
雨天中止

三重・伊勢山上(中級向き)
期日 5月19日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下7時40分/②近鉄松阪駅9時20分

コース 松阪駅(タクシ)飯福田寺→岩屋本堂→抱付岩→小大井→大天井→亀岩→鞍掛岩→蟻戸渡り→飛石→平等岩→飯福田寺→獅子ヶ鼻→飯福田寺(タクシ) 松阪駅(解散15時頃)

費用 約4900円(名古屋から)
地図 2万5千 大河内
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
役ノ小角が千日の修行を積んで開山したといわれる山で、ミニ岩壁の連続する岩場では挖き道もあります。雨天中止

台高・紅梅矢塚(中級向き)
期日 5月19日(日) 日帰り
集合 近鉄松原駅南口9時10分
コース 松原駅(バス)大又→又追谷→紅梅矢塚→三度小屋辻→二保分岐→大又(バス) 松原駅(解散17時20分)

費用 約4100円(上本町から)
地図 昭文社「大台ヶ原」
係 ◎西上和和 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*定員20名(会員に限る)
登りも下りも定まったルートがなく、やぶ漕ぎがあります。展望も望めませんが、自然林の新緑が迎えてくれます。雨天中止
奈良・鳥飼屋山から竜門岳

(二級向き)
期日 5月21日(日) 日帰り
集合 近鉄松原駅南口9時10分
コース 近鉄松原駅南口(タクシ)千本橋→恋鈴→鳥飼屋山→大蔵寺分岐→竜門岳→三津(宮の奥)分岐→大峠分岐→細峠(道在峠)分岐→鹿野→多武峰(バス) 桜井駅(解散17時頃)

費用 交通費各目
地図 2万5千 古市場・敬勝山
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

宇陀富士と呼ばれる鳥飼屋山を経て竜門岳に登ります。鳥飼屋山からの展望はよく、高見山を始め、大台山系から大峰山系を見渡すことができます。やぶ漕ぎ(イチゴイバラ)があります。雨天中止

北山ちよつと歩き33
芦生・三國峠から須後
(二級向き)
期日 5月22日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時00分

コース 京都駅(バス)ゲート前→三國峠→長治谷作業所→中山→ケヤキ峠→須後(バス) 京都駅(解散17時頃)

費用 約3000円(京都駅から)
地図 昭文社「京都北山2」
係 ◎奥山鶴三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

何世紀前の巨大な古木と、自然林にひっそりと咲く水芭蕉を求めて歩きます。ひよとすると、冬眠から目覚めたツキノワグマに出会うかも? 雨天中止

丹沢・塔の岳と丹沢山
(中級向き)
期日 5月25日(日) 26日(日) 1泊2日
集合 (25日) JR大津駅8時15分
コース (25日) 大津駅(バス)大倉→大倉高原山の家(泊)
(26日) 山の家→塔の岳→丹沢山→天王寺尾根→塩水橋(バス) 大津駅

(解散19時30分)
費用 約23000円(バス・宿泊代等)

地図 昭文社「丹沢」
係 ◎妻籠ひろ子 ○加藤元彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(会費に限る)
メインルート大倉尾根から人の歩かない天王寺尾根をくだります。天王寺尾根のシロヤシオが目玉です。雨天大行

播磨・嵯峨山と東山(二級向き)
期日 5月25日(日) 26日(日) 1泊2日

集合 (25日) JR姫路駅南バスターミナル9時20分
コース (25日) 姫路駅(バス)東河内山田口→榎田→林道→峰山高原→嵯峨山→板の辻峠(バス) 福知浜谷休養センター(泊)
(26日) 休養センター(バス) 家原古代公園→不動の滝→東山→町城尾根→林道→家原古代公園(バス) 姫路駅(解散17時頃)

費用 約12000円(バス・宿泊代等)

地図 2万5千 安積・長谷・神子畑・音水湖
係 ◎須藤 樹
申込み 〒671-1262
姫路市余部区上余部50の2の11 須藤閣 榎まで
山田では棚田のなを歩き、高度を上げると眼下に棚田の景色。嵯峨山は名にもなった360度の展望。不動の滝から一宮町側の新設なったコースを歩き、展望の東山へ。雨天大行

信楽・笹ヶ岳(二級向き)
期日 5月26日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時50分/②JR貴生川駅ホーム9時16分
コース 貴生川駅(電車) 信楽駅(タクシ) 登山口→西登山道→笹ヶ岳→寺跡→笹ヶ岳→東登山道→南新田(タクシ) 信楽駅(電車) 貴生川駅(解散14時43分)
費用 約5900円(名古屋から)

地図 2万5千 信楽

係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
山頂部は信楽高原の最高峰で、山頂部はササが多い。かつては雨乞いの山として信仰されていた。雨天中止

鈴鹿を歩く144
仙ヶ岳・御所平・ベンケイ
(健脚向き)

期日 5月26日(日) 日帰り
集合 黒滝田村川広場8時30分
コース 広場(車) 田村川林道→P729 鈴鹿根→小社峠→仙ヶ岳→ヨコネ→御所平→水無→グミの木平→舟岩→ベンケイ→黒滝(解散)
費用 交通費各目
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

眺望を楽しみながら、仙ヶ岳から御所平・ベンケイまでの新緑の尾根をのんびり歩きます。雨天中止

湖西・大谷山から赤坂山
(健脚向き)
期日 5月26日(日) 日帰り
集合 マキノビックランド8時00分
コース マキノビックランド(車) 石壁正殿院→大谷山→栗柄峠→赤坂山→栗柄峠→マキノスキー場(解散)
*正殿院へ置き車

大谷山までは前半道なし、後半道あり。大谷山からは最近開発された道を赤坂山へ歩きます。雨天中止
自然観察山行90
美濃・伊吹北尾根(二級向き)
期日 6月1日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス) 国見峠
 因見岳―大赤山―御座峠
 尾馬ヶ原―笹又―さ
 れ石公園(バス) 大垣駅
 (解散)

費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)

地図 2万5千美東・関ヶ原
係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで

*定員30名

初夏の北尾根フラワートレッキ
ング。おもしろい花が見られるか
も。小雨決行

鈴鹿百山31
ハライド・南コブ・猫

期日 6月2日(日) 日帰り
(中級向き)

集合 近鉄湯の山温泉駅9時25
分

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)
朝明駐車場―腰越谷―ハ
ライド―南コブ山―風越
峠―猫―風越峠―風越谷
―朝明駐車場(解散)

費用 交通費各自(車代500

円)
地図 2万5千 御在所山
係 ◎山田明男 ○高原秀彦

申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山62の19
山田明男まで

*定員25名

青岳から続く長い尾根のピーク
のハライド・南コブ・猫と回りま
す。猫には三角点あり。雨天中止

湖南・猪背山(一般向き)

期日 6月2日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋中央改札
口6時50分/JR石山駅
8時50分

コース 石山駅(タクシー) 臨出
―山の神―猪背山―納所
(バス) 石山駅(解散14
時43分)

費用 約5900円(名古屋か
ら)

地図 2万5千 朝宮
係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

十二支の山として登る人が増え
てきた湖南の里山です。雨天中止
新緑に誘われて

因但園境・水ノ山(中級向き)

期日 6月2日(日) 日帰り

集合 JR西明石駅西出口改札
付近7時40分

コース 西明石駅(バス) 水ノ山
登山口―親水公園―小豆
転がし―地蔵堂―水ノ山
越―水ノ山―東尾根―親
水公園―水ノ山登山口
(バス) 西明石駅(解散
18時頃)

費用 約6000円(バス代等)

地図 2万5千 水ノ山
係 ◎古賀慶一 ○福岡 茂

申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之下684
の33・17A403
古賀慶一まで

*定員20名(会員優先)

水ノ山は雪が融けて命輝くとき
大木に果をかけた鳥の雛の泣き声
が聞こえてくるもの頃。ベニ
ドウダンが咲き、ネマガリタケの
タケノコ採りに興じるもの頃
です。小雨決行

平日水曜ハイク53
湖北・三園山から赤坂山
(一般向き)

期日 6月5日(日) 日帰り

集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時30分

コース 京都駅(バス) 黒野林道・
泉道出合―黒野峰登山口
―三園山―赤坂山―芦ナ
の木平―マキノ高原温泉
「さつき」(バス) 京都駅
(解散18時頃)

費用 約3500円(京都駅か
らバス代)

地図 2万5千 海津・駄口
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄

申込み 〒569-1133
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで

*定員50名(会員優先)

お花と展望を楽しむ山行です。
マキノ高原に新しく温泉「さつき」
が完成(4月)。山行後は汗を流
します。小雨決行

自然観察山行91
越美・夜叉ヶ池から三周ヶ岳
(一般向き)

期日 6月8日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅8時40分

コース 大垣駅(バス) 池ノ又林
道終点―幽玄ノ滝―夜叉
ヶ池―三周ヶ岳―夜叉ヶ
池―幽玄ノ滝―林道終点
(バス) 大垣駅(解散19
時頃)

費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)

地図 2万5千 美濃広瀬・美
濃川上・広野

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨野1の
19の5 鷺見守康まで

*定員17名

人気の夜叉ヶ池から一等三角点
の三周ヶ岳を目指します。
小雨決行

鈴鹿を歩く145
サクラグチ・能登ヶ峰
(健脚向き)

期日 6月9日(日) 日帰り

集合 大河原「かもしか荘」広
場8時30分

コース かもしか荘(車) 城川林
道広場―尾根取付―稜線
―P891―サクラグ
チ―P889―横谷山
―P758―P696

申込み 〒67-1-262
坂路市糸島区上糸島50の

1―鹿の楽園―能登ヶ峰
―城川林道広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・鎌ヶ
岳」

係 ◎岩野 明 ○山田景三

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*マイカー山行

昨年5月に歩いたコースです。
すばらしかったので今年もロング
コースにアタックします。
雨天中止

但馬生野・古城山(一般向き)

期日 6月9日(日) 日帰り

集合 JR姫路駅西口徒歩1
ム9時10分

コース 姫路駅(電車) 生野駅―
登山口―古城山―奥銀谷
―寺町―生野駅(電車)

費用 約1700円(姫路駅か
ら)

地図 2万5千 生野・但馬新
井

係 ◎須藤 剛

2の11 須藤岡 峠まで
播磨と但馬を分ける位置にある
城跡。戦国時代の名残を留める山
頂。江戸時代の栄華を今に残す鉾
山の街。生野を散策します。
小雨決行

京都北山歩き102
八ヶ峰(一般向き)

期日 6月9日(日) 日帰り

集合 京都駅八条口団体バスの
りば8時00分

コース 京都駅(バス) 五波峠―
八ヶ峰―知井坂―八原
(バス) 京都駅(解散18
時頃)

費用 約4000円(バス代)

地図 昭文社「京都北山2」

係 ◎村田智俊 ○呉比呂美

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

展望のよい若丹園境尾根を歩き
ます。小雨決行

北山・金毘羅山から羅漢山
(一般向き)

期日 6月9日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋中央改札
口6時15分/②JR京都

駅バスのりばC列3番9
時00分

コース 京都駅(バス) 大原―寂
光院―金毘羅山―江文峠
―寒谷峠―羅漢山―岩
倉駅(解散)

費用 約5500円(名古屋か
ら)

地図 昭文社「京都北山1」

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

大原の里から羅漢山の続く尾根
を歩きます。雨天中止

奈良・香野峠から鳥見山
(一般向き)

期日 6月16日(日) 日帰り

集合 近鉄橿原駅北口バス停10
時10分

コース 橿原駅(バス) レストラ
ン香―香野峠―香野山―
貝ヶ平山―鳥見山―鳥見
山公園展望台―橿原駅
(解散15時30分)

費用 約2300円(上本町か
ら)

地図 2万5千 初瀬

係 ◎西上利和 ○中村英雄
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
鳥見山は植林で展望ありませんが、鳥見山公園の展望台からは奈良中部の山々を望むことができます。雨天中止

芦生原生林を訪ねる自然観察会
(一般向き)
期日 6月16日(日) 日帰り
集合 生杉の奥・林道ゲート前
11時00分(電車の人は関ヶ原駅8時20分・近江今津駅10時頃)
コース ゲート前→三因峠→杖谷→中山→上谷→野田畑谷
分岐→地蔵峠→ゲート前
費用 交通費各自(車代1000円)
地図 昭文社『京都北山2』
係 ◎山田明男 ○高原芳彦
申込み 〒50310535
海津郡南濃町松山62の19
山田明男まで
*定員15名迄
*マイカー参加の方はその旨、及び電車の方は集合駅を明記してください

さい
新緑の原生林を歩きますが、湿地が多いので長クツのほうがいいでしょう。雨天決行
三河・平山明神山から大鈴山
(中級向き)
期日 6月16日(日) 日帰り
集合 J.R名古屋中央改札口7時00分
コース 本長篠駅(バス)田口(タクシー)大神田登山口→平山明神山→大鈴山→鹿島山→池葉寺護国神社→和市(タクシー)田口(バス)本長篠駅(電車)名古屋駅(解散19時30分頃)

費用 約7000円(名古屋から)
地図 2万5千→田口
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ジャンダルムのような奇怪な岩峰の頂をもつ、平山明神山から大鈴山の縦走はすばらしいコースですが、途中にかなり難度の高いナイフリッジの岩尾根があります。

岩場に弱い人はご注意ください。雨天中止
比良を歩く12
荒川峠から鳥谷山・櫻鉢山
(一般向き)
期日 6月16日(日) 日帰り
集合 J.R志賀駅9時15分
コース 志賀駅→荒川→中谷出合→荒川峠→鳥谷山→櫻鉢山→牛コバエ坊村(バス)堅田駅または出町柳駅(坊村で解散15時30分頃)
費用 約1600円(京都から)
地図 2万5千→花背・比良山
昭文社『比良山系』
係 ◎秦 康夫
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

比良山系10000以上の峰14座のうち、このシリーズで13座を歩きましたが、最後は櫻鉢山です。登山者の少ないとても静かな山です。
*本誌47号参照。雨天中止
ファミリーハイク12
越美・夜叉ヶ池(一般向き)
期日 6月20日(木) 日帰り
集合 新大阪駅1階正面口空港

行バスのりばは前7時00分
新大阪駅(バス)登山口
→夜叉ヶ池→夜叉ヶ池山
→(往路)→登山口(バス)
新大阪駅(解散)
費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千→広野
係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会費優先)

自然観察山行92
南八ヶ岳縦走
硫黄岳・横岳・赤岳・権現岳・編笠岳
期日 6月21日(金)23日(日)
前夜発1泊2日
集合 〔21日〕J.R岐阜駅23時
〔22日〕岐阜駅(バス)
〔23日〕岐阜駅(バス)本沢温泉
泉入口→本沢温泉→夏沢峠→硫黄岳→横岳→赤岳→赤岳頂上小屋(宿)
費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千→広野
係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会費優先)

〈23日〉赤岳頂上小屋
権現岳→編笠岳→観音平(バス)岐阜駅(解散)
*帰路に浴食します。
費用 約23000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)
地図 昭文社『八ヶ岳・蓼科』
係 ◎鷺見守康
申込み 〒50410828
各務原市旗原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名(6月31日まで)

昨年嵐で撤退した南八ヶ岳縦走。花のいっばんよい季節に雨を覚悟で再び。今回は夏沢峠から歩きます。雨天決行(コース変更あり)。
鈴鹿・羽黒山から筆捨山
(一般向き)
期日 6月23日(日) 日帰り
集合 ①J.R名古屋中央改札口7時25分/②J.R関駅9時15分
コース 関駅→羽黒山→羽黒山→筆捨山→観音山→関駅(解散15時30分頃)
費用 約24000円(名古屋から)

ら
地図 2万5千→鈴鹿峠・亀山
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
羽黒山から筆捨山のコース中、一枚岩のトラバースがあります。摺り道もあり。低山ですが岩くぐりもあり、楽しいコースです。雨天中止

鈴鹿を歩く146
八尾山・高取山・向山・赤石
(健脚向き)
期日 6月23日(日) 日帰り
集合 国道307号線上宇曾川橋北ロソン広場8時30分
コース 広場(車)高取山ふれあい公園入口広場→八尾山→林道→八尾山→高取山→向山→P663路→巡視路→赤石→巡視路→三又→やまびこ湧水(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社『雲仙・伊吹・藤原』
係 ◎若野 明 ○山田景三

申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
八尾山と高取山の稜線は近年整備され、パノラマコースとして歩かれています。しかし、その先の向山と赤石はほとんど知られていない。展望を楽しみながら里山の稜線を歩く特別コースです。雨天中止

北山ちよつと歩き34
地蔵山から電ヶ岳(一般向き)
期日 6月26日(日) 日帰り
集合 J.R京都駅山陰線のりば7時40分(47分発乗車)
コース 京都駅(電車)八木駅(バス)越畑→越畑谷→苜見峠→地蔵山→反射板→電ヶ岳→首無地蔵→梨ノ木谷→清滝(解散16時頃)
費用 約6000円(八木駅から)
地図 昭文社『京都北山1』
係 ◎奥山繁三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ります。ササユリ・遅咲きのクリソウに出会うかも。雨天中止
湖東・砥山から猪ノ鼻ヶ岳
(一般向き)
期日 6月30日(日) 日帰り
集合 ①J.R名古屋駅6時50分
②J.R近江八幡駅8時40分
コース 近江八幡駅(バス)→上音羽→鎌掛峠→シャクナゲ深→シャクナゲ池→玉殿林道→砥山→猪ノ鼻ヶ岳→音羽城跡→上音羽(バス)近江八幡駅(解散16時30分頃)
費用 約4400円(名古屋から)

部
◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
綿向山が近くにあるので、訪れる人の少ない里山を歩きます。婦りに音羽城跡に寄ってみましょう。雨天中止

近畿百名山に登る(第39回)
京都北山・蒼子山(一般向き)
期日 6月30日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅改札
集合 8時30分

コース 北大路駅(バス) 足尾谷
口一足尾谷一フボクリ谷
一竹ノ山一寺谷一平(バ
ス) 北大路駅(解散16時
30分)

費用 約3000円(バス代)
地図 昭文社『京都北山』
2)

係 ◎村田智俊 ○安直止勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

コース 成田(飛行機)・昆明
(泊) (飛行機) 瀬江(泊)
(車)・中泊(泊) (車)
*徳鉄(泊) (車)・水
期日 7月3日(木)~11日(木)
8泊9日

海外特別山行
中国・雲南省
梅里雪山と王龍雪山
展望ハイキング(一般向き)
期日 7月3日(木)~11日(木)
8泊9日

山行報告
(1・2月号)
新ハイキングクラブ関西

北山・大原から天ヶ岳・鞍馬
1月2日(日) くもり一時雪
大原バス停集合9・50~10・05
一 寂光院10・20~25 焼杉山分岐11・
00 一 鉄塔12・30 一 天ヶ岳12・50
(昼食) 13・20 一 三又岳14・19 一
一 鞍馬15・47 一 鞍馬寺本堂16・30
一 寂光院馬場17・00(解散)
寂光院からはトレースのない雪
道になった。天ヶ岳では雪がド
ン降ってきて雪の北山を楽しむ
午(馬)年で鞍馬寺へ参拝し、駅
に着く頃は暗くなっていた。
(参加者) 中村英雄 加藤元彦
宮下淳一 辻村幸裕 岩田育士
谷川偉一 吉條孝次 宮村孝次郎
本間 隆 木間繁子 石倉真佐子
小田朝子 中村 保 落合ひろ子
青木一雄 住田源隆 池田 茂
岩城豊子 木村朝恵 岩本いすゞ
山岸藤雄 荻野暢子 伊藤恵美子
美村孝治 藤崎洗石 中嶋日出男

河山荘(泊) (車)・徳
鉄(泊) (車) 中泊(泊)
(飛行機) 昆明(泊)
(飛行機) 成田
*印の2日目・4日目・
5日目・6日目・7日
目の5日間 ブルーボ
ビーの花などを求めて
ハイキングします。

費用 約16万9千円(予備)
*個室追加利用料金2万
4千円
*その他中国査証取得料
金・空港施設使用料金
等かかります。

申込み 〒330-0038
さいたま市宮原町4の87
の1 高柳生雄まで
*4月22日まで(団体ビ
ザ取得)

(詳細の問い合わせ)
048(666)0218(高
柳まで)
*個人ビザ取得の場合の締切りは
5月31日

海外特別山行
ニュージーランド
ルートバントラックとマウント
クック8日間 (中級向き)

森 晴代 杉本 高 瀧尾健治
占部信廣 小林 総 網本恵美子
伊藤明男 和田直樹 ○川上久堅
◎小山良春 (計36名)
播磨・書写山と姫路城
1月4日(日) 晴れ
JR姫路駅集合10・35~50(バス)
書写山17 一 東登山口11・25 一
展望台11・50 一 55ロープウェイ
駅12・05 一 摩尼殿12・25(昼食)
13・00 一 書写山13・19 一 食堂・大
講堂・常行堂13・30 一 西坂14・33
一 40(バス) 姫路城15・30 一 16・
45 一 姫路駅16・57(解散)
西国一千七番札所の円教寺の伽
藍 壮大な舞台造の摩尼殿、コの
字形に建てられた三つのお堂(食
堂・大講堂・常行堂) などすばら
しかった。姫路城ではシルバー案
内人にガイドを頼んで古き歴史に
ふれた。
(参加者) 美村孝治 前田喜久子
木村朝恵 市野博文 落合ひろ子
多賀屋一 多賀久子 東 美智子
佐賀信江 小林 稔 森 晴代
藤原明美 ○宮下淳一
◎小山良春 (計14名)

山陽路コースを歩く9
1月6日(日) 晴れ
JR姫路駅集合9・20~40(バス)
法華山一乗寺11・00 一 大釜口12・
00 一 姫路成田山12・25(昼食) 13・
15 一 岩屋口13・30 一 四通寺14・10
一 30 一 JR砥堀駅15・40(解散)
一 乗寺で新春を語って、お粥で
祝う。冬とは思えないのどかな村
中の道を行く。途中、道草をしな
がら気ままに楽しい一日ハイキン
グだった。
(参加者) 小山朝子 井上孝治
大和 絃 小山 輝 小林 桂
宮本真幸 宮本悦子 井上裕行
井上孝子 船越利明 船越みよ子
河崎妙子 岩城豊子 河本美千子
小林豊子 秋田植師 田中三恵子
野間 起 平政英子 石田賢一
住田源隆 美村孝治 森 晴代
森下良子 岡田 昇 岡田恵美子
佐田次男 岡田亮子 兼田幸子
原 雅子 眞田久子 庁 すみ子
三輪浩子 加来昌子 井上直美子
松本忠雄 今村 真 (計38名)
◎須藤 昭

期日 11月11日(日) 18日(日) 朝
7泊8日(機中2泊)
集合 (11日) 関西国際空港・
午前に(時間未定)
行程
(11日) 関西空港(飛行機) シン
ガポール(乗継ぎ・機中
泊)
(12日) クライストチャーチ(国
内線乗継ぎ・飛行機) クイ
ンズタウン(ホテル泊)
(13日) クイーンズタウン(専用
車) デイバインド峠(キー
サミット) マッケンジー
小屋(山小屋泊)
(14日) マッケンジー小屋(ハリ
ムス小屋(山小屋泊))
(15日) フォールズ小崖(トレイ
ルエンド(専用車) クイ
ンズタウン(ホテル泊)
(16日) クイーンズタウン(専用
車) マウントクック(軽
ハイキング)(ホテル泊)
(17日) マウントクック(専用車)
クライストチャーチ午後
帰国(飛行機) シンガ
ポール(機中泊)
(18日) シンガポール(飛行機)
関西空港(朝到着)

費用 29万8千円(予定価格/為
替変動により変わるこ
とあり)
*旅行保険料別途必要
*キャンセル料要
◎松元一彦
申込み 〒5336-0008
大阪市城東区岡目4の14
の9の901
*募集定員20名(最少催
行人員15名)
*4月30日まで

好評だった三回のスイストレ
キングに続いて、ニュージーラン
ドの山脈を企画しました。尾根歩
きで眺望に優れたルートバントラ
ックと、マウントクックの水河で
す。

(旅行手配・問い合わせ)
アルパインツアーサービス(株)
大阪支店 (担当) 乾あゆみ
06(6444)3033

JR山崎駅8・40 一 関駅8・50各
集合(車) 明星橋手前広場9・23
一 三角点北尾根取付9・30 一 明
星ヶ岳三角点10・45 一 11・00 P
399 M 11・20 一 駐車地点11・45
(昼食) 12・40 一 南引山最高峰13・
20 一 南引山西峰13・40 一 平尾最高
点14・40 一 林道15・15 一 駐車地点
15・35(車) 関駅16・00(解散)
前夜からの雪が一日中舞って
て寒かった。予定ルートと地図読
みしながら一廻りできた。明星ヶ
岳三角点付近では10分程度の積雪が
あり、きれいだった。
(参加者) 西内正弘 伊藤 直
吉村 昭 松本治三 栗本敏夫
山村恭男 岩下祐夫 宮路ちへ子
本間 隆 宮崎美智 湯浅みち子
尾崎光子 緒方由子 網本美恵子
岩田育士 石浜倫子 佐古田文字
木下朝子 若林文夫 今井みよ子
池田隆一 池田 茂 南 智恵子
山縣勝美 菊地桂子 山野志保江
眞田明子 鳥居信吾 伊藤恵美子
◎高原秀彦 ◎山田明男 (計33名)

明星ヶ岳・南引山・平尾
1月6日(日) くもり時々雪
能登ヶ峰(鈴鹿百山25)
1月6日(日) 小雪
かもしか荘8・25(車) 越川林道
広場8・50 一 北尾根取付9・05 一

P758は10・10 | 鞍部11・10
(昼食) 12・30 | 能登ヶ峰13・05
| 林道14・35 | 駐車広場14・55
(解散)

山は深い霧。雪の尾根を登るが
粉雪まじりの風は冷たく、ウリハ
ダカエテの樹林でひと息。アセビ
の園の雪原は幻想の世界。焚火を
囲んでの昼食には七草がゆも。鹿
の楽園は最高の気分。雪原をの
んびり散策し、一気に下山した。

(参加者) 後藤康幸 武村千鶴
金谷 昭 小松志信 加納由紀子
大友将美 中尾和子 望月千代子
細野欽也 池田繁美 吉藤孝次
湯浅康夫 中村幸子 奥野太一郎
磯部 純 吉岡 仁 谷 守
梶原泰彦 高島伸浩 杉山能久
谷 久雄 神野孝允 石田真由美
櫻田勝利 奥田貞雄 炭田明美
水戸鉄治 小林 実 山本久雄
○山田泉三 ◎宮野 明 (計31名)

六甲・荒地山
1月6日(日) 晴れ一時雪
JR芦屋駅集合9・35 | 41 | 鷹尾
山10・40 | 岩梯子11・30 | 12・00
| 荒地山12・10 (昼食) 12・45 |
なみ山12・50 | 風吹岩13・10 |
20 | 高座の滝14・05 | 芦屋駅14・

50 (解散)
荒地山名物の岩梯子は全員が楽
しんで登った。風吹岩から「地獄
谷の暴風」という所に寄ってから
ロックガーデンをおいた。低山だ
が岩と遊ぶ楽しい山だった。

(参加者) 松尾昭子 前田喜久子
谷川俊一 大村俊子 草野智雅子
下村俊二 下村啓子 落合ひろ子
川田洋子 山岸勝雄 岡本美子
森 晴代 朽名生石 松本勝子
福岡 章 中島 隆 広瀬浩二
鶴尾健治 辻 富子 中尾美智子
堀原香織 山根弘美 青木一雄
馬籠忠男 櫻高康一 櫻高光子
小谷和子 角田一江 吉田ソノ子
高木中天 近田智子 本渡孟夫
森澤昭子 飯田良子 森川留吉
高浜中義 ◎中嶋日出男
○宮下淳一 ◎小出良春 (計39名)

大文字山から三井寺・小関越え
1月12日(日) 晴れ
JR山科駅集合9・00 | 毘沙門如
何9・25 | 大文字山10・20 | 30 |
航空機整備前11・15 (昼食) 12・
10 | 三井寺分岐13・10 (希望者解
散) | 小関峠13・15 (解散)
冬とは思えない暖かな日で、芝
草の広場でゆっくり昼食をとり、

歩き足りない人は音羽山へ。のん
びり組は琵琶湖畔でひなたぼっこ
をした。

(参加者) 松尾昭子 中村英雄
宮下淳一 若松朝子 柳川常雄
岡 倍弘 岡 菊江 堀田輝子
吉原清夫 斎藤 隆 斎藤妙子
小田潤子 速水 保田中三恵子
湯浅康夫 谷 守 舟岡 武
山根弘美 馬籠忠男 石原君子
岩本彰子 高木 晋 松本 博
川島勝美 吉田誠宏 吉田ソノ子
山口喜弘 仲谷礼司 菅生幸子
占部信廣 木村正弘 木村千代子
田中幸子 田中幸子 山上和代
和田直樹 小野典子 中西 昭
森本 勝 森本淳子 森 晴代
林 弘毅 筒井克治 深瀬保市
◎妻鹿弘子 (計45名)

鈴鹿・鎌ヶ岳(三重の山60)
1月12日(日) 晴れ
近鉄湯の山温泉駅集合8・45 (車)
斎滝駐車場9・10 | 一の谷茶屋9・
50 | 三つ口谷人口10・20 | 30 |
ヶ岳御湯11・00 | (尾根道) | 鎌
ヶ岳12・15 (昼食) 13・20 | (長
石谷) | 大星の滝14・30 | 湯の山
温泉15・30 | 斎滝駐車場15・45
(解散)

膝小僧までの積雪。下山はアイ
ゼンを使用。白銀の世界を満喫し
ました。

(参加者) 池田 茂 宮戸喜久江
岡田直規 高原芳彦 石田真由美
平 龍一 平 幸子 宮路ちへ子
谷 久雄 鳥居信吾 武藤由美子
大石将美 水戸鉄治 松本浩三
○福田逸夫 ◎尾崎英五 (計16名)

北八ヶ岳・楢枯山と横岳
(自然観察山行9)
1月13日(日) | 1泊2日
(13日) 晴れ JR岐阜駅9・00
(バス) ビラタスロープウェイの
りば13・00 (ロープウェイ) 坪庭
13・30 | 雨池峠13・45 | 楢枯山14・
15 | 展望台14・50 | 15 | 楢枯山
山15・30 | 雨池峠15・45 | 楢枯山
荘16・00 (泊)

だが、トレースがあった。2日間
とも天候に恵まれて快適なスノー
ハイク。横岳からの360度の展
望はまさに絶景。楢枯山荘の食事
(特に御飯と味噌汁) はおすす
めである。

(参加者) 足立博子 伊藤 直
岩田育士 木村光江 荻野美紀恵
小林 桂 小林 稔 鈴木美代子
武村千鶴 田中 茂 砂原恵美子
田辺弘子 長尾一合 林 えい子
夏山登子 村井寿和 船木哲巳子
山形 明 山藤勝美 ◎加藤元彦
◎鷺見守康 (計21名)

播州・明神山
1月13日(日) 晴れ
JR姫路駅集合7・55 | 8・10
(バス) 夢前町役場前8・47 | 神
元神社9・25 | 長谷分池9・34 | 観
音滝分岐9・59 | 岩峰10・04 | 馬
の背10・25 | 前衛峰11・02 | 明神
山11・36 (昼食) 12・40 | 蕨野分
岐12・49 | Bコース分岐12・58 |
P429 | 13・15 | 馬の背13・32
| 岩峰池13・54 | 夢やかた14・10
(休憩) 14・54 | 役場前15・30
(バス) 姫路駅16・15 (解散)
馬の背あり、岩場あり、急登あ
りて、前衛峰と山頂直下は全員が

踏ん張った。心配した雪がなく、
予定より早く山頂へ。黄砂の影響
かスキップした箇所が得られなかつ
たが惜しまれる。下山後、岩屋
池で明神山をバックに記念撮影。
皆さん一人一人の表情が実にすば
らしかった。

(参加者) 宮下淳一 松上美代子
大和 絃 河崎妙子 河本美千子
栗橋晃平 栗橋裕子 中嶋日出男
中西信行 吉藤孝次 小山 輝
青木一雄 小谷和子 上田久子
森本 勝 森本淳子 鶴尾健治
堀原香織 竹田善英 光川二美子
多賀久子 原 文子 中谷幸子
森本幹雄 ◎福岡 茂 (計26名)

静岡・ピク石
1月13日(日) 晴れ
JR藤枝駅10・50 (タクシー) 上
大沢11・27 | 笹川峠12・00 | ピク
石12・55 (昼食) 13・50 | ピク石
牧場14・32 (タクシー) 藤枝駅15・
15 (電車) 名古屋駅17・57 (解散)
上大沢からはピク石の一番登り
がいのある剣ヶ峰コース。P1 |
P6のアップダウンを歩く。山頂
には巨石群があり、展望もすばら
しかった。

(参加者) 炭田明美 川島勝美
落合ひろ子 渡辺喜久江
岡本美千子 岩田美代子
石田真由美 伊藤恵美子
三井千鶴子 ◎吉村 昭
◎小出良春 (計11名)

北山・棧敷ヶ岳
(京都北山歩き100)
1月14日(日) 晴れ
京阪出町柳駅集合8・30 (バス)
岩屋橋9・10 | 20 | 岩屋不動9・
40 | 薬師峠10・00 | 10 | 鉄塔広場
11・40 | 45 | 棧敷ヶ岳11・55 (昼
食) 13・15 | 鉄塔広場13・25 | 西
谷分岐14・15 | 西谷林道終点14・
30 | 40 | 岩屋橋15・10 | 45 (バス)
出町柳駅16・50 (解散)

積雪は山頂付近にあるだけ。広
い雪原上は暖かく、ゆつくりと昼
食タイムを楽しんだ。雪がないの
で須谷林道からの下山はやめて、
落ち葉の尾根道を往復し、西谷林
道へおちた。

(参加者) 入江武史 谷川俊一
辻村幸裕 鈴木吉和 田中善雄
柳川常雄 武部 剛 武部美美子
渡藤 幸 木下朝子 川田洋子
細野欽也 本岡 隆 本間繁子
岡田芳貞 山岸勝雄 大和 絃

だった。薄日が差し始めた府岸山で、岩湖山の眺めをこぼれにして楽しい昼食をとる。府岸山から田山への尾根道で、金剛山や大相模城山と再び公で眺めが熱くなった。この日の縦走コースは忘れ難い味わいを加えた。

(参加者) 木村 豊 前田和佳子 森本信雄 青木一雄 中村佳代子 眞田久子 田中延子 大須賀 實 若林文夫 高田和子 中澤ちづ子 木間明恵 妹尾正一 千鶴千枝子 水宮律子 岩城豊子 石井恵美子 合村 悟 川上久隆 中尾美智子 中山峰雄 飯田良子 山中あさみ 嶋田民彦 高木 晋 小林伊子子 古川正子 柏木幸子 竹田善英

○中村友昭 ◎木村太郎(計37名)

美濃・南宮山 (白根観察山行60)

1月19日(日) 晴れ
JR東井駅8・30(タクシー) 南宮大社駐車場8・40(9・00) 展望台10・00(30) 南宮山11・00(展望台11・30(昼食) 12・50(駐車場) 50(東井駅) 20(解散)
南宮大社に到着して、東山の南宮山を歩く。雪は少なく、常緑樹を観察しながらのくだまりハイキングだった。

(参加者) 伊藤 直 稲本芳雄 尾崎光子 岡田 昇 岡田恵英子 川島勝美 吉條孝次 荻野美紀恵 木下朝子 小林 桂 佐古田文字 小松信信 廣果 那 冨田満子 島崎信吾 夏山春子 松本英代子 西村春香 原 文子 三井千鶴子 堀田輝子 前田悦子 光川二英子 村田紀生 ◎狩野東彦 (計26名)

◎鷺見守康

室生・三郎ヶ岳
1月20日(日) 晴れ
近鉄榛原駅集合8・30(バス) 高井8・51(仏隆寺) 9・18(高城山) 10・20(30) 三郎ヶ岳11・10(磨崖仏) 11・20(昼食) 12・00(宿坊跡) 根取付(明開寺跡) 石割峠(姥原) 15・00(解散)
予定のタイムより早く三郎ヶ岳に着いたのでコース変更し、奥ノ院宿坊跡から尾根をよぶ滑きして明開寺にくだった。

(参加者) 大和和 木村 豊 宮西利子 小倉和子 堀尾香織 萬代 猛 中島 隆 中嶋日出男 青木一雄 山本京子 保田 正 瓜原利明 山根弘美 東山澄夫

三井城一 福殿 章 池田 茂
○中村英雄 ◎西上利和(計19名)

日本コバ(鈴鹿を歩く135)
1月20日(日) 晴れ
如來堂集約8・30(バス) 8・40(20) 日本コバ11・00(衣掛の東) 11・45(昼食) 12・55(岩屋) 13・25(約の穴) 14・00(広場) 15・20(解散) コースを変更し、藤川谷の左尾根に取りつきP838に突き上げて、日本コバの山頂部を踏破した。雪も締って最高。藤川谷の源流の温泉衣掛の泉において焚火を囲んで昼食。岩屋や約の穴を和気あいあいと楽しく散策した。

(参加者) 後藤康幸 武村千鶴 小林 珍 服部 晃 磯部 純 吉岡 仁 櫻田勝利 黒田豊年 原 光一 原 幸子 谷 久雄 谷 守 神野孝允 池田隆一 小松志信 湯浅康夫 湯浅みや子 炭田明美 苗村敏治 苗村登美子 今井武司 杉山能久 加納由紀子 横井 徹 横井恭子 武藤由美子 高野芳彦 島岡信吾 石田真由美 永沼鉄治 高津智美 山野志保江 森本 勝 森本淳子 伊藤喜久男
○山田景三 ◎岩野 明(計27名)

生駒
飯盛山から室池・星のプランコ
1月20日(日) 晴れ
JR野崎駅集合9・55(10・00) 慈眼寺10・13(25) 飯盛山11・13(20) 室池12・02(昼食) 12・50(20) 室池13・32(飯盛山) 14・02(15) 星のプランコ15・15(京阪私市駅) 14・15(解散)
野崎参りの歌や「お染・久松」のロマンスで有名な慈眼寺(野崎観音) から山を越え車道を歩き、広大な雲海を通過して星のプランコに着いた。思わず橋の長さに感心した。ロングコースになったが全員快調に歩き、橋が閉じる時刻までに着けた。

(参加者) 岩田育士 白福忠子 馬籠忠男 堀田民夫 速水 保 占部信廣 平田義男 谷川俊一 岩城豊子 松本康成 大谷章子 藤崎流石 森澤昭子 佐野信江 基田直実 磯野重治 米谷敏治 小川晴美 山口喜弘 渡辺美代子 小野典子 村上高子 山本すま子 今森啓子 小田潤子 中尾美智子 伊田直樹 竹田善英 四ノ宮陽子 伊藤則男 近藤美子 井林寿彦子
○宮下淳一 ◎美村孝治 (計35名)

◎小出良春

水曜ハイイク48
北山・半園高山
1月23日(日) 晴れ
京都駅八条西口8・30(バス) 大森中町9・32(37) 鞍馬線10・33(1) P887(11・33) 小倉峠11・43(半園高山) 12・00(昼食) 12・40(供加敷) 13・31(杉坂) 14・05(バス) 桂屋(仁左衛門) 15・00(バス) 16・00(バス) 阪谷社駅(バス) 京都駅16・30(解散)

雪を期待したのに積雪はゼロ。鞍馬線への道は平ばまで林道の工事が進んでいて樹木の伐採、旧道とのクロスでわかりづらい。縦走路は歩行速度が上がり、杉坂口には早く着いた。桂屋で汗を流し温まってすっきりした。

(参加者) 木村 豊 中村和江 長尾一合 木間繁子 木間 隆 堀田輝子 吉條孝次 山岸勝雄 松尾一郎 市野博文 東山澄夫 近藤 恭 妹尾正一 千鶴千枝子 大須賀 実 合村 悟 千鶴千枝子 川上久隆 伊藤波子 相原悠紀子 渡辺満子 石田豊一 中村 保 角川朝子 堀 薫 菅生幸子 谷 守 森 瑞代 小倉和子 美村孝治 安良陽子 堀田輝子

谷川俊一 栗岡寛子 ○青木一雄
◎湯浅次男 (計36名)

奈良・大園見
1月27日(日) ◎小出良春
*雨天のため中止しました。
*雨天のため中止しました。

比良ワカン山行
波峰から駅遊歩
1月27日(日) ◎山本久雄
*雨天のため中止しました。

台高・高見山
1月29日(日) 雪のちくもり
近鉄榛原駅南口集合9・10(15) (バス) 杉谷登山口10・15(30) 古市跡10・50(小峠) 11・15(30) 国見岩11・55(高見山) 12・35(昼食) 13・25(半野道分岐) 13・50(高見山) 14・15(高みすの里) 14・55(15・15) 半野15・24(バス) 榛原駅南口16・25(解散)

今冬最大の寒波! リーダーとしての心配も吹き飛び、強風も寒さも忘れさせる見事な樹氷景色。皆さん満足して下山の途についてた。

(参加者) 谷川俊一 田中善雄 大和 敏 中井 博 山根弘美 馬籠忠男 澤田高治 木村千代子

坂本から比叡山
(北山ちょっと歩き29)
1月30日(日) 晴れ
JR比叡山坂本駅集合9・00(10・10) 亀の堂(延暦寺) 11・15(大比叡) 1等三角点11・50(昼食) 12・40(比叡山上駅) 12・50(雲母坂) 菅羽川雲母橋13・50(電燈修学院) 14・50(解散)

歴史と比叡山の神秘さを感じ、楽しく歩いた。山頂付近は新雪が美しく、磯部さんの三角点解説もあり、各思い思いの一日だった。

(参加者) 長尾一合 田中真知子 山岸勝雄 東山澄夫 木下朝子 中村 保 西村耕一 堀尾満子 舟岡 武 市野博文 白根勝子 小林 珍 辻 行子 青木一雄 菅生幸子 速水 保 酒井悦子 堀 薫 石原君子 妹尾正一 磯部 純 栗崎敏子 安良陽子 澤井洋子 湯浅次男 堀田輝子

谷 守 ○吉條孝次
○中村英雄 ◎真山景三(計30名)

北山・明智越えから愛宕山
(平日ふれあいハイイク30)
1月31日(日) 晴れ
JR保津駅集合8・10(25) 明智越え道10・00(神明) 10・45(地蔵山) 12・10(昼食) 12・40(愛宕神社石段) 13・10(40) 1月輪寺14・20(30) 空指瀬入口15・10(清滝バス停) 15・45(解散)

原からの稜線に出ると雪景色でした。真新しい雪をつけた枯れ枝の向こうに青空がありました。暖かく凍結もなくアイゼンを着けることはありませんでした。

(参加者) 木村 豊 木下朝子 木間 隆 小川晴美 大須賀 實 若林文夫 小田晴美 野々山明美 岡田里子 長岡保江 中上紀代子 細野敏也 神 龍司 神 美栄子 大橋元造 入江武史 南ミヤ子 上西昌子 菅生幸子 緒方由子 藤井登子 石原君子 石井恵美子 中川光郎 堀 薫 砂原恵美子 辻 富子 和田直樹 安良陽子 高木中夫 ○水見寛砂子
○川上久隆 ◎寺井恒夫(計30名)

白馬・霧ヶ峰高原

(白根集登山行記)
2月2日(日) 3日(月) 1泊2日
(2日) くもり J.R.白馬駅7・00(車)朝食 宿8・30(車)岩屋スキー場ゴンドラのはば(ゴンドラ) 岩屋山頂9・30(車)朴の木平(昼食) 一尾根下り1宿15・00(夜)

(3日) くもり 宿8・30(車) 林道8・50(車)浅間山・林道(車) 宿11・00(休憩) 11・20(車) 白馬駅11・40(解散)
新ハイビスチアチェーンのペンション「ツイヴァルディ」のご協力でお勧め。2日間とも降りだったが、は晴らしのさく陽やかな天候だった(せせらぎ参照)。
(参加者) 石川賢二 石原博子 岩田育士 金森節子 荻野美穂恵 小林 桂 小松志信 加納由紀子 田野寛子 夏山春子 砂原恵美子 日野謙一 三浦勝 三浦真佐子 森 瑞代 山形 明 光川二美子 山崎勝美 若松初子 安田文美江
○三井社 ○新井守康 (計27名)

北山・金毘羅山から福原山

(週末ハイキング)
2月2日(日) 3日(月) 1泊2日
JR京都駅集合8・00(バス) 大原9・15(バス) 25(バス) 菅野登山口9・50(バス) 粟津山10・30(バス) 金毘羅大権現10・55(金毘羅山) 05(金毘羅大権現) 15(25) 江戸文庫12・10(菅野登山口) 12(20) (昼食) 13・20(粟津山) 14・05(20) 粟津山14・30(40) 三宅八幡宮16・15(解散)
少々暗くながら登った粟津山はうすうすと積雪があったが、金毘羅山への岩場のルートには雪が無く危険はなかった。昼食後はロングコースだったが、天気は恵まれ、昔の足も揃って三宅八幡宮まで歩くことができた。粟津峠では奥山さんから峠名の由来解説がありました。
(参加者) 武村千鶴 松上英代子 田中善雄 山本京子 前川和佳子 宮坂利明 山田友子 森澤聡子 山本真幸 今井武司 秋田清樹 日野謙一 日野照代 宮澤淳一 岩崎健司 入江武史 青木一雄 川上光郎 佐倉礼司 宮村孝次郎 森本寛子 森 晴代 中嶋日男 (計27名)

小休後子 住田隆雄 森安登美子 眞田久子 榎木忠雄 宇 すみ子 眞田幸子 土井明夫 土井あつ子 八木四郎 田所貞子 (計35名)
③須藤岡 和
三河・富山から雨生山
2月3日(月) ④小山良春
・雨のため中止しました。
高野・奥山三山 (ファミリーハイキング)
2月7日(木) 晴れ時々くもり
清泉高野山集合同9・50(バス) 一の橋10・05(バス) 奥の院12・20(バス) 藤尾山13・05(バス) 粉桶峠13・35(バス) 奥の院15・50(解散)
一の橋から杉大樹の母樹林と無数の墓所が立ち並ぶ奥の院参道を通り、高野奥山に向かった。大峰口と大和街道の黒河口を結ぶ女人道は白銀の雪をしきつめ、清浄な世界を広げていた。谷道のすずしが眼をひいてきた。谷道のすずしが弘法大師の人定されている御廟に降り着き、燈籠の消えずの火に無事を祈願した。
(参加者) 木村 毅 中澤ちよ子

2月2日(日) くもり
JR京都駅集合8・00(バス) 大原9・15(バス) 25(バス) 菅野登山口9・50(バス) 粟津山10・30(バス) 金毘羅大権現10・55(金毘羅山) 05(金毘羅大権現) 15(25) 江戸文庫12・10(菅野登山口) 12(20) (昼食) 13・20(粟津山) 14・05(20) 粟津山14・30(40) 三宅八幡宮16・15(解散)
少々暗くながら登った粟津山はうすうすと積雪があったが、金毘羅山への岩場のルートには雪が無く危険はなかった。昼食後はロングコースだったが、天気は恵まれ、昔の足も揃って三宅八幡宮まで歩くことができた。粟津峠では奥山さんから峠名の由来解説がありました。
(参加者) 武村千鶴 松上英代子 田中善雄 山本京子 前川和佳子 宮坂利明 山田友子 森澤聡子 山本真幸 今井武司 秋田清樹 日野謙一 日野照代 宮澤淳一 岩崎健司 入江武史 青木一雄 川上光郎 佐倉礼司 宮村孝次郎 森本寛子 森 晴代 中嶋日男 (計27名)

小谷和子 角田一江 蓮井洋子 美村茶治 松村雅子 中尾美智子 眞田久子 奥山繁三 ○加藤元彦 ○菅野東彦 (計42名)
唐木山・三頭山・那須ヶ原山 (鈴鹿白山26)
2月3日(月) くもり
JR牟婁山駅8・45/関駅8・55各集合(車)坂下峠9・45 唐木山10・25(40) 坂下峠9・45 唐木山10・35(昼食) 12・20(黒部湖) 12・40(参詣) 13・00(坂下峠) 13・50(駐車地) 13・55(車) 関駅14・15(解散)
前夜からの雨は奈良・大阪方面で強かったように、山は意外にも雪で真っ白だった。新雪は滑りやすく、ほとんど全員が滑ってこけたようだったが、実質4時間かからずに一廻りできた。
(参加者) 後藤康幸 伊藤直 山村真男 大石善美 磯部 純 栗木敏夫 井上 光 今井みよ子 鈴木 浩 鈴木友子 石田真由美 眞原孝子 谷 久雄 的場たか子 松本正三 宮田伸子 伊藤昭久男 本間 隆 西居俊弥 武藤由美子 (計32名)

村上綾子 本間明恵 金森千恵子 山下恒三 植木敏子 田中真知子 市野博文 若林文夫 梅澤直茂 川上久盛 森田 晃 小林伊佐子 橋乃山子 藤井裕子 飯田良子 嶋田良彦 平田源治 石井恵美子 岩城豊子 岡田豊治 千藤千枝子 中村 保 古川正子 成川みさお 永島律子 中山峰雄 田所真恵子 柏木孝子 高松雅子 青木一雄 眞田久子 中尾博子 高木 晋 秋葉正人 林代 正 松村雅子 田中博子 小谷初子 中尾美智子 史谷勇多 田中善雄 ○中村友昭 ○木村太郎 (計45名)

丸山12・50(昼食) 13・30(往路) 粟津登山口16・10(30)(バス) 近鉄名張駅20・00(解散)
仙丈ヶ峰は尾根上展望地から熊野灘を見て、予定通りだった。しかし、古ヶ丸山は終日曇りが降る天候で、積雪もあって時間がかかった。山頂からの展望もなかった。帰路は伊勢道経由にしたが、名阪国道が雪で通行止め区間があり、名張駅で解散した。奥伊勢フェリスヒアの温泉はよかった。
(参加者) 小谷和子 秋田清樹 宮本真幸 宮本悦子 武部美英子 上田久子 岩田育士 前川和佳子 中村和江 小林 純 砂原恵美子 森 瑞代 堀内香織 沖 伸 辻村幸裕 加藤元彦 原 文子 松村雅子 東山登夫 入江武史 西原俊弥 西原豊子 安田文美江 小林 桂 片山登博 山本真代子 高岡勇男 宮西和子 青木一雄 菅野東彦 岡田豊治 佐田次男 三井社一 ○安倉正勝 ○真比格美 ○村田哲俊 (計39名)

緒方由子 木下朝子 山野志保江 若林文夫 平塚明美 伊藤恵美子 池田 茂 菊地桂子 丹下由子 湯浅康夫 ○高野芳彦 (計32名)
④山田明男

近畿自然歩道
山陽路コースを歩く10
2月3日(月) くもりのち晴れ
JR磯城郡 9・45(東南寺) 10・05(地蔵山) 登山口10・25(磯城郡) 11・00(広峰神社) 11・50(昼食) 12・30(水宮池) 13・40(書写山) (丹後) 登山口14・15(書写山) 15・05(20) 刀出16・15(バス) 姫路駅17・20(解散)
天気は降雪を多報したが、よい天気になった。広峰神社・円教寺では熊鷹のついで、節分祭に出合い幼年を回想した。久しぶりの低山ながら冬枯れの山道を歩いたので、山道の温りを実感した。
(参加者) 大和 結 加来昌子 岩崎和子 三輪裕子 野間 超 宮原孝子 横山真一 小田潤子 萬代 猛 小山 輝 河崎妙子 福間 章 原 雅子 船越みよ子 吉田 暹 岡田 昇 岡田恵美子 今村 真 秋田清樹 田中三恵子 美村茶治 平敏英子 河本美千子

一水無尾根9・50(穂向山) 10・25(草原) 11・00(昼食) 11・50(ハイガ) 笹津12・40(穂向山) 13・15(ブナの木平) 13・30(お菊のガレ) 14・00(堀の峠) 14・35(滝山) 谷15・10(鶴野) 15・30(解散)
山は深いガス。文三ハゲから尾根に取りつかすと全山樹氷で夢のような別世界。樹氷の華のなかに山頂から北峰へ。草原にくだつての昼食後ハイガ岳を往復し、ブナの木平から塩の峠にくだった。
(参加者) 後藤康幸 池田繁美 原 光一 原 幸子 奥野太一郎 磯部 純 谷 久雄 加納由紀子 小松志信 服部 勇 徳田峰雄 櫻田勝利 高杉 博 神野孝允 小田敏子 水戸鉄治 橋井 徹 横井裕子 高津智美 武藤由美子 小林 実 山高義治 山高多恵子 森本 眞 森本淳子 石田真由美 吉本泰之 梶原泰彦 網木美恵子 ○山田景三 ○岩野 明 (計39名)

湘南・十二坊から善提山
2月10日(日) 雪
JR甲南駅集合9・40(46) 善水寺10・45(55) 十二坊11・50(昼食) 12・25(とりの村) 東口14・00(善提山) 14・55(西尾寺) 15・

一水無尾根9・50(穂向山) 10・25(草原) 11・00(昼食) 11・50(ハイガ) 笹津12・40(穂向山) 13・15(ブナの木平) 13・30(お菊のガレ) 14・00(堀の峠) 14・35(滝山) 谷15・10(鶴野) 15・30(解散)
山は深いガス。文三ハゲから尾根に取りつかすと全山樹氷で夢のような別世界。樹氷の華のなかに山頂から北峰へ。草原にくだつての昼食後ハイガ岳を往復し、ブナの木平から塩の峠にくだった。
(参加者) 後藤康幸 池田繁美 原 光一 原 幸子 奥野太一郎 磯部 純 谷 久雄 加納由紀子 小松志信 服部 勇 徳田峰雄 櫻田勝利 高杉 博 神野孝允 小田敏子 水戸鉄治 橋井 徹 横井裕子 高津智美 武藤由美子 小林 実 山高義治 山高多恵子 森本 眞 森本淳子 石田真由美 吉本泰之 梶原泰彦 網木美恵子 ○山田景三 ○岩野 明 (計39名)

丸山12・50(昼食) 13・30(往路) 粟津登山口16・10(30)(バス) 近鉄名張駅20・00(解散)
仙丈ヶ峰は尾根上展望地から熊野灘を見て、予定通りだった。しかし、古ヶ丸山は終日曇りが降る天候で、積雪もあって時間がかかった。山頂からの展望もなかった。帰路は伊勢道経由にしたが、名阪国道が雪で通行止め区間があり、名張駅で解散した。奥伊勢フェリスヒアの温泉はよかった。
(参加者) 小谷和子 秋田清樹 宮本真幸 宮本悦子 武部美英子 上田久子 岩田育士 前川和佳子 中村和江 小林 純 砂原恵美子 森 瑞代 堀内香織 沖 伸 辻村幸裕 加藤元彦 原 文子 松村雅子 東山登夫 入江武史 西原俊弥 西原豊子 安田文美江 小林 桂 片山登博 山本真代子 高岡勇男 宮西和子 青木一雄 菅野東彦 岡田豊治 佐田次男 三井社一 ○安倉正勝 ○真比格美 ○村田哲俊 (計39名)

湘南・十二坊から善提山
2月10日(日) 雪
JR甲南駅集合9・40(46) 善水寺10・45(55) 十二坊11・50(昼食) 12・25(とりの村) 東口14・00(善提山) 14・55(西尾寺) 15・

丸山12・50(昼食) 13・30(往路) 粟津登山口16・10(30)(バス) 近鉄名張駅20・00(解散)
仙丈ヶ峰は尾根上展望地から熊野灘を見て、予定通りだった。しかし、古ヶ丸山は終日曇りが降る天候で、積雪もあって時間がかかった。山頂からの展望もなかった。帰路は伊勢道経由にしたが、名阪国道が雪で通行止め区間があり、名張駅で解散した。奥伊勢フェリスヒアの温泉はよかった。
(参加者) 小谷和子 秋田清樹 宮本真幸 宮本悦子 武部美英子 上田久子 岩田育士 前川和佳子 中村和江 小林 純 砂原恵美子 森 瑞代 堀内香織 沖 伸 辻村幸裕 加藤元彦 原 文子 松村雅子 東山登夫 入江武史 西原俊弥 西原豊子 安田文美江 小林 桂 片山登博 山本真代子 高岡勇男 宮西和子 青木一雄 菅野東彦 岡田豊治 佐田次男 三井社一 ○安倉正勝 ○真比格美 ○村田哲俊 (計39名)

15 石部駅16・00(解散)

国王の善水寺本堂を見て十二坊に向かうも、10数年前に歩いた自然観察道の面影はなく、単調な車道歩きが続いた。一友、菩提寺山は自然林の山ですばらしかった。

- (参加者) 栗橋君子 栗橋崇吉 柳川富雄 藤原明美 保田 正 馬籠忠男 山岸勝雄 下村啓三 下村啓子 若林文夫 相原悠紀子 堀田輝子 稲本芳雄 宮戸喜久江 近田智子 速水 保 森 美香子 川島勝美 本間 隆 本間孝子 黒河内東洋明 野々山 寛 磯野重治 西村耕一 宮村孝次郎 辻 行子 白根初子 序 すみ子 佐野信江 蓮井洋子 渡辺美代子 森 晴代 小野典子 岩本いすゞ ○市野博文 ○福岡 章 ○小出良春 (計37名)

美濃・貝月山

(自然観察山行82)

- 2月16日(日) 晴れ JR大垣駅8・50(バス)掛菱高原スキー場10・00(バス)ふれあいの森公園10・45(バス)登山口11・15(バス)貝月山12・50(昼食)13・50(バス)登山口14・50(バス)掛菱高原スキー場15・30(バス)大垣駅

17・20(解散)

昨年と同様大雪だったものの山頂に無事到達。真っ白な雪の急斜面をラッセルして仰いだ空は見事に深いブルー。山頂からは南ア、中ア、御坂、重葎、柏・穂高、笠白山を背景に、乗鞍とした奥美濃の雪嶺の大展望だった。

- (参加者) 安斎 洋 伊藤 直 瓜飯利明 大山 治 岡田直規 木下朝子 岡田 昇 岡田恵美子 高津智美 小林 桂 島居信吾 夏山春子 村井寿和 武藤由美子 森本淳子 山形 明 松上美代子 山本京子 ○狩野東彦 ○鷺見守康 (計20名)

台高・三峰山

- 2月16日(日) 晴れ 近鉄橋原駅南口集合9・10(バス)御杖村青少年旅行村10・30(バス)林道終点11・05(バス)不動山11・25(バス)小屋12・20(昼食)13・00(バス)三峰山13・20(バス)三峰山13・30(バス)三峰山13・50(バス)三峰山13・55(バス)新道登山口14・50(バス)御杖村青少年旅行村15・30(バス)橋原駅南口16・45(解散)

堂14・27(バス)奥道(イチゴ園)15・00(バス)長沢15・30(バス)電車)加古川駅16・34(解散)

山の高さだけでは想像できないほど魅力いっぱい充実した山行になりました。古法華では重文の説明を受け、その歴史を感じました。岩尾根歩きでスリルも楽しみました。

- (参加者) 森下良子 松下美代子 栗橋吉吉 栗橋君子 井上吉美子 兼貞 力 原 雅子 土井あつ子 馬籠忠男 大和 結 森美香子 森 瑞代 船越利明 船越みよ子 安田恵子 柳川富雄 前田喜久子 原 文字 岡田 昇 岡田恵美子 森本 勝 森本淳子 砂原恵美子 加来たつ子 ○福岡 茂 (計26名)

蛇谷ヶ峰(比良を歩く8)

- 2月24日(日) 晴れ JR近江高島駅8・58(バス)畑9・20(バス)林道川合9・50(バス)ボクダ峠10・47(滝合)頭11・00(バス)蛇谷ヶ峰12・00(バス)P817(バス)スキー場への分岐12・20(昼食)13・00(バス)富坂口バス停15・05(解散)

真っ青の空と真っ白の雪、ワカ

ンでの富坂尾根くぐりは楽しかった。重い雪に突っ込んだ足がなかなか引き抜けず、あちこちで悲鳴が絶えなかったが、雪山を堪能した一日でした。

- (参加者) 長尾一令 吉岡 仁 山本京子 瓜飯利明 狩野東彦 俵谷礼司 武部 剛 岡田恵美子 岩瀬健司 大東 哲 中山博司 中山史江 江副光一 本田博子 ○松見 昭 ○宮下淳一 ○秦 康夫 (計17名)

湖東・青竜山

- 2月24日(日) 晴れ 近江鉄道多賀大社駅集合10・00(バス)胡弓神社10・30(バス)東屋10・50(バス)竜山11・05(バス)東屋11・30(昼食)12・10(バス)大門池12・30(バス)大社13・00(バス)多賀大社駅13・30(バス)彦根駅14・00(解散)

美しい。山頂では大洞山・ニヶ岳が、八丁平からは三重の山々、遠く奥吉野の連山を眺望した。新道の下山道からは高見山、そして室生の鏡・兜・古光山を眼前にした。

- (参加者) 木村 豊 木村十代子 吉藤孝次 谷川俊一 船本裕己子 馬籠忠男 永富律子 森 美香子 若林文夫 妹尾一正 武部美美子 西村耕一 奥田泰久 萩野美紀恵 加藤浩一 小谷和子 田中善雄 森 晴代 山根弘美 中尾美智子 白富忠子 山藤勝美 宮村孝次郎 松村雅子 中谷嘉多 田中博子 ○前川和佳子 ○亀本廣治 (計28名)

室生・額井岳

- 2月17日(日) ◎西上利和 *雨天のため中止しました。 奈良・一体山 2月17日(日) ◎小出良春 *雨天のため中止しました。 水環ハイイク49 台高・明神岳 2月20日(日) 晴れ 近鉄橋原駅集合8・10(タクシー)

比良ワカン山行 リフト道から釈迦岳 2月24日(日) 晴れ 比良リフト前集合9・00(バス)神岡谷分岐9・35(バス)滝見口9・55(バス)北比良峠11・40(バス)釈迦岳13・20(バス)ワンゲル道ワンゲル道登山口15・35(解散)

- 予定通り歩きました。 (参加者) 蓮井洋子 多賀周二 多賀久子 石原君子 池田隆一 前田植夫 松本勝子 堀越武敏 山藤勝美 三井結一 ◎山本久雄 (計11名)

鈴鹿・總向山から竜王山

- 2月24日(日) 晴れ JR京都駅7・46(電車)草津駅8・08(電車)貴生川駅8・40(バス)日野駅8・57(バス)10(バス)西明寺口登山口9・30(バス)公園9・40(バス)ヒメズ谷出合小屋10・10(バス)秩塔院登山口10・40(バス)尾根コース総向山12・00(昼食)13・00(バス)竜王山15・00(バス)

大又林道駐車場9・05(バス)登山口9・35(バス)明神滝10・30(バス)明神平11・30(バス)三ツ塚分岐11・47(バス)明神平12・10(バス)三ツ塚分岐12・30(バス)明神平集合13・20(バス)明神滝14・00(バス)登山口14・30(バス)駐車場14・40(バス)タクシー)近鉄橋原駅15・55(解散)

- 前日の降雪も積るにはいたしたことがなく、明神平から明神岳間もアイゼンで歩けた。青空に映える樹木の美しさを十分に楽しんだ。 (参加者) 石浜倫子 小谷和子 小松志信 木村 豊 中村和江 山藤勝美 長尾一令 加納由紀子 中井 博 中川光昭 光川一二美子 東山澄夫 保田 正 大須賀 實 池田 茂 眞田久子 千葉千枝子 細野欽也 萩原孝一 木村十代子 ○青木一雄 ◎湯浅次男(計36名)

播磨・古法華から笠松山

- 2月24日(日) 晴れ JR加古川駅集合8・45(電車)播磨下駅10・11(バス)登山口10・30(バス)善防山頂上11・10(バス)登山口11・16(バス)26(バス)縦走入口11・35(バス)古法華12・10(昼食)13・18(バス)吊り橋13・25(バス)笠松山13・47(バス)

快晴のホカホカ陽気で、期待していた樹木は見られなかったが、総向山では、白く輝く鈴鹿の山々がそびえる大展望を満喫した。竜王山への尾根道は一ヶ所所凍結していた危険な下り坂があった。

- (参加者) 入江武史 小林 桂 木村 豊 岩田育士 遠藤 率 近藤 恭 川田洋子 沖 伸 下村啓三 下村啓子 妹尾一郎 若林文夫 西野幸夫 森 美香子 黒河内東洋明 中嶋日出男 小谷和子 高木忠夫 辻村幸裕 本藤孟夫 松村雅子 秋田博樹 東山澄夫 佐野信江 田中真知子 加藤元彦 大谷章子 高岡富美子 川中 保 木寺道子 大須賀 實 青木一雄 白富忠子 石井恵美子 黒田晴子 北村勝美 中村静香 宮本善幸 松本悦子 高岡一江 村井善和 西野博文 岡田富美子 妹尾一正 堀原春樹 宮村孝次郎 磯野重治 小田輝子 渡辺美代子 黒野正弘 田中博子 熊木未雄 中西信行 ○長比裕美 (計56名) ◎安倉正勝 ◎村田智俊(計56名)

雲仙山西南尾根

(鈴鹿を歩く136)

2月24日(明) 晴れ
寺院広場 8・20 落合 8・50 西汁
ふき峠 9・45 月台 10・30 西
峰 11・35 雲仙山 11・45 (昼食)
13・00 最高峰 13・10 近江展望
台 14・00 飯峠 14・40 行者の森
15・30 一ヶヶ原 16・20 寺院広
場 16・50 (解散)
崖山沿いは節分草の花。雪は稀
まり山頂部の大雲原を谷から西峰
へ突き上げた。ノーマルヒル・ラー
ジヒルでヒップスキーを思い切り
楽しむ。あけん原にくたると福寿
草の花が待っていた。

- (参加者) 後藤康幸 小林 絵
大石将美 池田繁英 奥野太一郎
吉村 昭 原 光一 原 幸子
島田信吾 高原芳彦 服部 晃
堀 寿江 段下山子 櫻田勝利
武村十鶴 余谷 昭 神野孝允
磯部 純 緒方山子 伊藤恵美子
堀原泰男 山村基男 山田明男
鈴木 浩 鈴木友子 杉山健久
吉本泰一 谷 守 伊藤喜久男
小林 実 水戸鉄治 湯浅みや子
山野志保江 石田真由実
武藤山美子 ○山田基三
◎長野 明 (計37名)

十三石山から氷室・船山

(北山ちよっと歩き30)

2月27日(例) 晴れ時々曇り
京阪出町柳駅集合 7・20 28 (パ
ス) 市ノ瀬 8・15 40 遠野峠 9・
21 十三石山 9・40 50 杉坂出
合 10・18 氷室 10・45 氷室神社
11・55 (昼食) 12・00 船山分岐
12・55 西置茂ゴルフ場出合 13・
06 船山 13・10 鏡石出合 14・50
左大文字 14・51
十三石山は狭い山頂。3等三角
点で磯部氏の説明をうける。里に
おるとホトケノザ・オオイヌノ
フグリ・ハコベラを見て、春の到
来を実感する。火床の船山で大展
望を楽しむ。下山して解散したが、
希望者は左大文字の火床へも足を
のばした。

- (参加者) 長尾一令 栗橋君子
宮西和子 木下朝子 中村 保
小谷和子 磯部 純 舟岡 武
今村 悟 市野博文 中尾美智子
本間 隆 本間繁子 風見瑞子
川上久登 妹尾一正 小嶋和子
小出文子 川原勝恵 白根耕一
辻 行子 石原君子 西村耕一
谷 守 小山晴美 岡田春美
角江朝子 酒井悦子 中上紀代子
青木一雄 安良陽子 竹田善英



漫漶康夫 宮崎紀正 横江 進
松田輝子 山岸勝雄 ○吉藤孝子次
○中村英雄 ◎呉山基三(計40名)

例会参加の注意点

山行例会参加の場合、新
ハイキングの規定があります。
(87ページ山行計画欄)、これ
を十分にご理解のうえ申し込
んでください。規定に反しま
すと、係や参加の他の人にも
迷惑をかけることとなります。
気分よく山行するため、みん
なでルールを守りましょう。
特に次の2点をよろしく。

★計画を早め決め、必ず7
日前には申込先に到着するよ
う、往復ハガキに必要事項を
すべて記入のうえ申し込んで
ください。直前や飛び込みは
お断りします。また電話やファ
クスミリでは、名簿作成や山
行案内の返信に困ります。

★雨天に歩くのが嫌な方は始
めから小雨決行・雨天決行の
計画には申し込まないでくだ
さい。また、当日の決行中
止かは、返信案内の降水確率
を見て、必ず前夜の気象情報
で確認し、判断ください。

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキ
ングの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、情報豊かで健康
な身体をつくり、自然のなかを歩
く喜びをともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に50年
間も好評のうちに活動してきまし
た。関西は平成3年発足で11年目
に入りますが、すでにたくさんの方
が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。
会員には毎月「新ハイキング関
西の山」をお送りします。
四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのは素晴らしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人ともみなさんご入会
いただけます。

- 入会金 500円(バッジ代)
年会費 3000円(送料共)
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
ださい。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずにご記
入ください。
なお、定期購読をご希望される
方も入員になっていただきますと、
毎月確実にお手元に届きますので
便利です。
切手500円分をお送りになれば、
「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1〜2回程
度の山行例会を計画・実施してい
ただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マニュアル「リーダー
必携」を送ります。

○新入会員紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号4653番から4679
番まで
【愛知】 水谷陽子
【三重】 村嶋和子
【滋賀】 鈴木敏子 前川 勉
【京都】 光川伸史 黒川 攻
【大阪】 松井トキ子
【大田】 森藤静子 松井英乃
【石田】 小森外松 吉川さと子
松井明忠 竹田豊英 小嶋野由子
上西久子
【奈良】 田畑唯由 中井秀一
【兵庫】 宮崎重信 岩崎淑子
実重正子 森下良子 有原八郎
君塚徳子 半田英代子
【福岡】 榎 隆成 (27名)

訂正とお詫び

61号(晩秋)59ページ上段写真
説明「不動寺本堂」は「不動寺奥
の院」が正しい。
62号(新春)87ページ三段目1
行目「竜胆草……」は「龍胆花……」
が正しい。
63号(陽春)9ページ表紙の題
「白根、山の曼茶羅」は山の曼茶
羅「白根」の誤りです。
63号(陽春)30ページ上段5行

目「聖寺」のルビは「しょうぼ
うじ」が正しい。
63号(陽春)31ページ下段11行
目「アワ、コバイモ」は最近では
「ミノ、コバイモ」と呼ばれる別亜
種であることがわかってきました。
コバイモも地域変種として、アワ
コバイモ・ミノコバイモ・コシノ
コバイモ等に分けられています。
63号(陽春)31ページ付近略図
上の藤原岳展望台の標高1120
は間違っています。実際は11
40〜50あり、最近の本は1
140としたものが増えていま
す。

(右、藤原岳に関しての三点は岐阜
県の山田明男氏の指摘による)
(編集室)

毎号お求めになりたい方へ
前もって書店に毎号ほしい
と「購読予約」をされますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。偶数月の20日ごろ
(隔月刊)の発売です。